

JVC

ネットワークビデオレコーダー

型名 **VR-X7100**

Milestone XProtect
Smart Client
ユーザーマニュアル

目次

初めての使用.....	12
XPROTECT SMART CLIENT のインストール.....	12
監視サーバーからのインストール.....	12
DVD からのインストール.....	12
ログインプロセス.....	13
ログインウィンドウ.....	13
ログインおよびログアウト.....	15
トラブルシューティング.....	15
最低システム要件.....	17
XPROTECT SMART CLIENT の新機能.....	19
XPROTECT SMART CLIENT クイックガイド.....	21
再生/シーケンスエクスプローラ.....	21
現在のビュー.....	21
タイムライン.....	21
再生.....	22
タイムラインスパンの変更.....	22
画像のコピー/印刷.....	22
ズーム.....	22
フル画面.....	22
XPROTECT SMART CLIENT の概要.....	23
ユーザー権限によって、操作方法が決定されます.....	23
バージョンおよびプラグイン情報の表示.....	23

メインウィンドウ	24
XProtect Smart Client のウィンドウ	24
ライブビデオについて	27
ビデオの録画	28
録画ビデオについて.....	28
設定モードに入る	29
ビューの選択.....	29
フル画面表示	30
単一の画像のコピー.....	30
ヘルプの表示	30
基本	32
ライブタブ.....	32
再生タブ	33
設定モード.....	34
カメラツールバー	35
キーボードのショートカット.....	35
サーバーステータスと内部接続されたハードウェア取得ジョブ	36
システムモニタータブ	37
MILESTONE FEDERATED ARCHITECTURE™	38
監視システムの別の特徴.....	38
ビューの定義.....	39
ビュー.....	39
ビューについて.....	39
個人ビューと共有ビュー	39

ビューにコンテンツを追加する	40
ビューの作成および管理.....	43
ビュー間でビデオを送信する.....	45
ビューのカメラを変更	45
カメラの切り替え	46
よくある質問：ビュー	46
カメラ.....	47
ビューにカメラを追加する	48
カメラ名と色のインジケータ	48
仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイ ボタン	49
カメラ設定.....	49
キーボードショートカットおよびオーバーレイ ボタン.....	56
音による通知	56
よくある質問：カメラ	56
音声	57
音声について	57
音声設定	57
相手と話す.....	59
よくある質問：音声.....	59
マップ.....	60
マップの概要	60
マップ設定.....	64
ツールボックス.....	66
右クリックメニュー.....	67
マップ概要ウィンドウ	67
マップの操作	68
よくある質問：マップ	74
カメラナビゲータ	74

カメラナビゲータについて	74
カメラナビゲータの設定.....	75
カメラナビゲータを使用する.....	75
ホットスポット.....	76
ホットスポットについて.....	76
ビューにホットスポットを追加する	76
ホットスポット設定.....	76
SMART WALL.....	77
バージョン情報 Smart Wall.....	77
Smart Wall のコンテンツの表示.....	77
ビューに Smart Wall を追加する.....	78
カメラを Smart Wall へドラッグする.....	78
ビューから Smart Wall へビデオを送信する	79
Smart Wall からビューへビデオを送信する	79
Smart Wall モニターのレイアウトの変更.....	80
Smart Wall からコンテンツを削除する	81
画面自動切替	81
画面自動切替について	81
ビューに画面自動切替を追加する	82
自動切替設定	82
マルチウィンドウ	82
ディスプレイ間でビューを送信する	84
よくある質問：マルチウィンドウ.....	84
MATRIX.....	84
バージョン情報 Matrix.....	85
設定(S).....	85
ビューに Matrix のコンテンツを追加する	86
手動で Matrix の受信コンピュータにビデオを送信する	86

XPROTECT SMART CLIENT オプション	86
アプリケーションのオプション	87
ペインのオプション	89
機能のオプション	90
タイムラインのオプション	91
エクスポートのオプション	91
ジョイスティックのオプション	92
キーボードのオプション	93
アラームのオプション	94
詳細オプション	94
言語のオプション	97
HTML ページを使ったナビゲーション	97
表示	101
デジタルズーム	101
デジタルズームについて	101
デジタルズームの使用	101
よくある質問：デジタルズーム	102
PTZ および魚眼レンズ画像	103
魚眼レンズ画像	103
PTZ 画像	104
ブックマーク	105
ブックマークについて	105
ブックマークウィンドウ	106
ブックマークの追加および編集	107
手動での出力のアクティブ化	107
プライバシーマスク	107
個別再生を使用する録画済みビデオの表示	108

インシデントの調査	109
再生ナビ	109
タイムラインのボタンとコントロール	109
タイムライン	109
再生の日時	110
日付と時刻のナビゲーション	110
時間選択	110
再生スピード	111
再生ボタン	111
ナビゲーションボタン	111
時間幅	111
タイムラインのブックマーク	111
MILESTONE INTERCONNECT からのデータの取得	111
シーケンスエクスプローラ	112
シーケンスエクスプローラについて	112
表示する内容の指定	113
タイムライン	115
シーケンスのナビゲート	115
証拠を印刷する	116
スナップショットの作成	117
録画済みビデオの検索	118
記録の検索ペインを使用した検索	118
スマートサーチペインを使用した検索	119
証拠のエクスポート	121
エクスポートウィンドウ	121
XProtect フォーマットの設定	122
メディアプレイヤーのフォーマット設定	123

静止画像設定	124
ビデオクリップ、音声、静止画像のエクスポート	125
よくある質問：エクスポート.....	125
イベントおよびアラーム	127
アラーム	127
アラームについて	127
アラームマネージャタブ	127
アラームをフィルターする	131
マップ上のアラーム.....	131
イベント	132
手動でイベントをアクティブ化する	132
アラームの操作.....	133
アラームの詳細の表示および編集.....	133
アラームの確認.....	133
アラームの無効化	134
アラームの無視.....	134
アラーム情報を記載したレポートの印刷	134
アラームレポートの表示.....	134
アラームをフィルターする	134
アクセスコントロール	136
アクセスコントロールの統合について.....	136
ライブタブのアクセスコントロールについて	136
アクセスコントロールタブ	137
アクセス要求の通知について.....	139
XPROTECT SMART CLIENT – PLAYER	140

XPROTECT SMART CLIENT – PLAYER のバージョン情報.....	140
XPROTECT SMART CLIENT – PLAYER クイックガイド.....	140
XPROTECT SMART CLIENT – PLAYER のビューの操作.....	140
データベースを開くウィザード.....	141
署名の確認.....	142
スクリプト.....	143
スクリプト.....	143
用語集.....	146
索引.....	152

このマニュアルの対象ユーザー

このマニュアルは、Milestone XProtect Smart Client のユーザーを対象にしています。このマニュアルでは、XProtect Smart Client のインストール、設定、および使用について詳細に説明しています。さらに、操作手順の例が数多く提供され、XProtect Smart Client の一般的なタスクを実行できるように解説されています。

接続している Milestone 監視システムの種類、ユーザー権限、組織におけるユーザーの役割などによっては、使用できない XProtect Smart Client の機能もあることに注意してください。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ヒント：監視システムの管理者がすでに、あるユーザーに必要なビューを設定していることが分かっている場合は、このマニュアルの一部を省略してもかまいません。XProtect Smart Client をインストールして、ログインした後、ライブビデオと録画ビデオの再生についての章に直接進んでください。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

XProtect Analytics のユーザーのための情報

※本機は、XProtect Analytics には対応していません。

XProtect Analytics ソリューションは、ライセンスプレート認識、周辺保護、置き去り検知など、ビデオコンテンツの分析タスクにインテリジェントで直感的なソリューションを提供します。このソリューションを組織で使用している場合、XProtect Smart Client で分析データと一緒にビデオを見ることができます。XProtect Smart Client でのそのような分析データの表示については、このマニュアルでは説明していません。そのような情報が必要な場合は、www.milestonesys.com で提供されている XProtect Analytics の他のマニュアルを参照してください。

XProtect Transact のユーザーのための情報

※本機は、XProtect Transact には対応していません。

POS または ATM トランザクションデータとビデオの証拠を組み合わせ、損失予防に対処するために組織で XProtect Transact のアドオンソリューションを使用している場合、時刻に紐付けしたトランザクションデータとビデオを XProtect Smart Client で同時に見ることが可能です。XProtect Smart Client でのそのようなトランザクションデータの表示については、このマニュアルでは説明していません。そのような情報が必要な場合は、www.milestonesys.com で提供されている XProtect Transact の他のマニュアルを参照してください。

著作権、商標、および免責条項

著作権

© 2013 Milestone Systems A/S.

商標

XProtect は Milestone Systems A/S の登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。Android は Google Inc. の商標です。

本書に記されているその他の商標はすべて、それぞれ該当する所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべて受取人にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/S は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったくの偶然であり、意図的なものではありません。

この製品には、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細は Milestone 監視システムインストールフォルダにあるファイル **3rd_party_software_terms_and_conditions.txt** にあります。

初めての使用

XProtect Smart Client のインストール

XProtect Smart Client を使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。通常は、監視システムサーバーから XProtect Smart Client をダウンロードし、使用するコンピュータにインストールします。あるいは、DVD から XProtect Smart Client をインストールできます。

監視サーバーからのインストール

1. 使用している PC が XProtect Smart Client の最低システム要件 『17ページの"最低システム要件"参照』を満たしていることを確認します。
2. Internet Explorer ブラウザ（バージョン 6.0 以上）を開き、システム管理者が指定した URL または IP アドレスを使用して監視システムサーバーに接続します。
3. 開かれたページで、PC に合わせた XProtect Smart Client の"すべての言語"を選択します。
ヒント： 言語の変更は、XProtect Smart Client のオプションメニューで簡単に行えます。
4. セキュリティの警告(「このファイルを実行または保存しますか?」、「このソフトウェアを実行しますか?」など)が表示される場合、これを受け入れます(実行などをクリック—正確な名前は使用しているブラウザのバージョンによって異なります)。
5. XProtect Smart Client 設定ウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

ウィザードがインストールパスを推奨します。通常は、推奨されたインストールパスを使用します。ただし、XProtect <LPR>などのアドオン製品を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではなくなっていることがあります 『12ページの"MIP プラグイン"参照』。

DVD からのインストール

※本機は、DVD からのインストールには対応していません。

1. 使用している PC が XProtect Smart Client の最低システム要件 『17ページの"最低システム要件"参照』を満たしていることを確認します。
2. 監視システムソフトウェア DVD を PC に挿入し、使用する言語を選択してから、XProtect Smart Client のインストールをクリックします。
3. セキュリティの警告(「このファイルを実行または保存しますか?」、「このソフトウェアを実行しますか?」など)が表示される場合、これを受け入れます(実行などをクリック—正確な名前は使用しているブラウザのバージョンによって異なります)。
4. XProtect Smart Client のインストールウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

MIP プラグイン

※本機は、MIP プラグインには対応していません。

XProtect Smart Client に MIP プラグインペインが含まれている場合があります。このペインは、たと

えば、XProtect Smart Client によって制御できるアクセスコントロールシステムなど一般的にサードパーティのアプリケーションのプラグイン処理機能で使用されます。**MIP プラグイン**ペインにコンテンツが表示されないのは、XProtect Smart Client にプラグイン機能がないためです。

監視システムによっては、XProtect Smart Client のビューに他のタイプのコンテンツを追加することもできます。これは、会社で監視システム機能を改善するためにアドオン製品を使用する場合などに活用できます。

例：

- XProtect Transact を使用して、ビデオ録画にリンクされたレジ、ATM などのトランザクションを追跡します。
- XProtect Analytics は、ナンバープレート認識、周辺保護、置き去り検知など、ビデオコンテンツ分析タスクを提供します。

XProtect Smart Client XProtect Analytics のプラグインは、32 ビットバージョンの XProtect Smart Client でのみ実行できます。プラグインは、64 ビットのインストールでは実行できません。

デフォルトでは、バージョン 4.0a よりも前の XProtect Smart Client では、XProtect Smart Client は次の場所にインストールされていました：

```
C:\Program Files\Milestone\Milestone XProtect Smart Client\
```

アドオン製品のプラグインは、次の場所にインストールされます。

```
C:\Program Files\Milestone\Milestone XProtect Smart Client\plugin
```

デフォルトでは、バージョン 4.0a 以降の XProtect Smart Client では、XProtect Smart Client は次の場所にインストールされていました：

```
C:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client\
```

アドオン製品のプラグインは、次の場所にインストールされます。

```
C:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client\plugin
```

デフォルトのインストールパスを変更すると、バージョン 4.0a よりも前の XProtect Smart Client のアドオン製品のプラグインがある場合、新しい XProtect Smart Client が別の場所にプラグインを探しに行くため、新しい XProtect Smart Client ではプラグインが動作しません。

新しい XProtect Smart Client を古いアドオン製品のプラグインで動作させる方法は次のいずれかです。既存のプラグインを古いプラグインのデフォルトのインストールパスから、新しいプラグインのデフォルトのインストールパスへコピーする。

- または -

新しい XProtect Smart Client のインストール時に、XProtect Smart Client のインストールパスを、古いデフォルトである C:\Program Files\Milestone\Milestone XProtect Smart Client\ へ変更する。

ログインプロセス

ログインウィンドウ

初めてログインする場合、ビューが存在するかどうか確認する必要があります。ビューによって、ビデオの再生方法が決定されるため、XProtect Smart Client を使用するにはビューが必要です。1 つまたは複数のビューがすでに作成されている場合もありますし、自分で作成しなければならない場合もあります。ビューがすでに作成されているかどうか確認する方法を含め、ビューの詳細についてはビュー 『25ページ』 で確認してください。

ヒント：ユーザー設定(ビューを含む)は、監視システム上で中央管理されています。これは、XProtect Smart Client がインストールされているコンピュータであれば、どのコンピュータへもログインでき、最後のログイン時のビューを復元できることを意味します。

ログイン設定

名前	説明
コンピュータ	監視システムサーバーを実行するコンピュータを選択します。
認証	<p>3つの認証方法（ユーザーのIDを確認するための方法）があります。</p> <p>すべての監視システム『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』が、3つの認証方法をすべてサポートしているわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows 認証（現行ユーザー）：使用中のWindowsログイン情報を使って認証されるため、ユーザー名やパスワードを指定する必要はありません。これはデフォルトの認証方法です。 • Windows 認証：Windowsのログイン情報を使って認証されますが、Windowsで使用しているユーザー名とパスワードを入力する必要があります。 • 基本認証：ユーザー名とパスワードを使用して、監視システムで設定する必要があります。
ユーザー名	<p>認証方法としてWindows 認証または基本認証を選択した場合のみ必要となります。Windows 認証を使用する場合は、Windowsのユーザー名を入力します。基本認証を使用する場合は、監視システムの管理者が指定したユーザー名を入力してください。ユーザー名では大文字と小文字が区別されるため、「amanda」と「Amanda」では異なるユーザー名となります。</p>
パスワード	<p>認証方法としてWindows 認証または基本認証を選択した場合のみ必要となります。Windows 認証を使用する場合は、Windowsのパスワードを入力します。基本認証を使用する場合は、監視システムの管理者が指定したパスワードを入力してください。</p>
パスワードを保存	<p>Windows 認証または基本認証を使用する場合に使用できます。パスワードを保存できるため、次回以降、接続をクリックするだけでログインできます。</p> <p>セキュリティの制約が適用される場合があります。不明な点がある場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。</p>
自動ログイン	<p>Windowsへログインすると、前回のログインでの認証情報を使ってXProtect Smart Clientに自動的にログインします。Windows 認証を使用している場合は、この自動ログイン機能を有効にするためにパスワードを保存を選択しておく必要があります。</p> <p>セキュリティの制約が適用される場合があります。不明な点がある場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。</p>

ログインおよびログアウト

1. XProtect Smart Client を開きます。
2. XProtect Smart Client をロードし、次に XProtect Smart Client ログインダイアログが表示される間に、起動画面が数秒表示されます。



3. ログイン情報を指定してから、**接続**をクリックします。
ヒント：ログイン時に問題が発生するとエラーメッセージ『15ページの"トラブルシューティング"参照』が表示されます。
4. 以前にログインしたことがある場合は、前回使用したビューを復元できます。設定によって、XProtect Smart Client は、最後に使用したビューを復元するか確認します。オプションは以下のとおりです。
 - **メインビュー**：これを選択すると、XProtect Smart Client のメインウィンドウで前回使用したビューが復元されます。
 - **分離ビュー**：特定の Milestone 監視システム『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続していて、前回のログイン時に分離ウィンドウ『82ページの"マルチウィンドウ"参照』でビューを使用していた場合にのみ使用できます。分離ウィンドウで前回使用していたビューを復元する場合に選択してください。
5. しばらくすると、XProtect Smart Client ウィンドウが開きます。
6. XProtect Smart Client からログアウトするには、XProtect Smart Client のタイトルバーで**ログアウト**ボタンをクリックするだけです。



トラブルシューティング

XProtect Smart Client へのログイン時に何らかの問題が発生した場合は、次のようなエラーメッセージが表示されます。

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。

問題： ログインが認められていないユーザー権限でログインしようとしてしました。

対処法： ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者にお問い合わせください。

問題：現時点では XProtect Smart Client のどの部分にもアクセスする権限がないため、ログインできません。

対処法：必要に応じて、アクセス権限を変更できる監視システムの管理者に連絡してください。

接続に失敗しました。サーバーのアドレスを確認してください。

問題：指定されたサーバーアドレスの監視システムサーバーに接続できませんでした。

対処法：入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバーアドレスには、プレフィクスとして「http://」を付け、ポート番号を指定する必要があります(例：http://123.123.123.123:80、ここで 80 はポート番号を示します)。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

接続に失敗しました。ユーザー名とパスワードを確認してください。

問題：指定されたユーザー名またはパスワードでログインできませんでした。

対処法：入力したユーザー名が正しいことを確認してから、正しいパスワードを入力してください。ユーザー名とパスワードでは大文字と小文字が区別されます(例：「Amanda」と「amanda」では異なるユーザー名となります)。

接続に失敗しました。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

問題：同時に監視システムサーバーへ接続できるクライアントの最大数に達しています。

対処法：しばらく待ってからもう一度接続してください。すぐに監視システムへ接続する必要がある場合は、監視システムの管理者へ連絡してください。同時に接続できる許容クライアント数を変更できる可能性があります。

新しいクライアントが使用できます。アップグレードをお勧めします/アップグレードが必要です。から新しいバージョンをダウンロードできます。

問題：新しいバージョンの XProtect Smart Client が使用できます。通常このメッセージには、更新が推奨されるか、更新が必須である（例：重要な最新機能が、使用中の XProtect Smart Client のバージョンでは動作しない）ことを示す情報が含まれています。また多くの場合、新しいバージョンをダウンロードできる場所に関する情報も含まれています。

対処法：メッセージに含まれている指示に従ってください。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

2 台（以上）のカメラが同じ名前または ID を使用しているため、アプリケーションが起動できません...

このエラーメッセージは、1 つの監視システムからバックアップされた設定が、何も変更を加えられずに他の監視システムに対して誤って使用された、という非常にまれな状況で発生します。これによって、同じ ID を持つ異なるカメラが「競合」し、XProtect Smart Client からの監視システムへのアクセスがブロックされます。このメッセージが表示されたら、ユーザーでは問題を解決できません。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

一部のメッセージは、ビューの上にオレンジ色の帯で表示されます：

この操作を行う権限がありません。

時間によって変わるユーザー権限で、以前は可能だったことが許可されなくなった場合に発生します。

これは、特定のタイプの監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、ユーザー権限が、時間帯、曜日などによって異なる場合があるためです。このため、後で再びアクションを実行できるようになる場合もあります。

監視システムの設定により、XProtect Smart Client のセッションは次の[...]で終了します。

現在の XProtect Smart Client セッションの終了が近い場合に、発生します。特定タイプの監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、XProtect Smart Client を使用する権限は、時間帯、曜日などによって異なる場合があります。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

ユーザー操作が最近検出されなかったため、XProtect Smart Client のセッションは次の[...]で終了します。

XProtect Smart Client をしばらく使用していない場合に発生します（具体的な時間は監視システムサーバーで定義します）。この場合、XProtect Smart Client のセッションはセキュリティの理由のため、終了します。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

最低システム要件

コンポーネント	要件
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R1/R2 (32 ビット版または 64 ビット版) Windows Vista® Business (32 ビット版または 64 ビット版) Windows Vista Enterprise (32 ビット版または 64 ビット版) Windows Vista Ultimate (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 7 Professional (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 7 Enterprise (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 7 Ultimate (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 8 Pro (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 8 Enterprise (32 ビット版または 64 ビット版)
CPU	Intel® Core2™ Duo、2.4 GHz 以上(複数のカメラが動作し、複数のビューおよび表示を使用する XProtect Smart Client では、より高い性能の CPU を推奨します)。

RAM	最低 1 GB (多数のカメラが動作し、複数のビューおよび表示を使用する XProtect Smart Client では、これより高い RAM が推奨されます)。
ネットワーク	イーサネット (100 Mbit 以上を推奨)
グラフィックアダプタ	AGP または PCI-Express、最低 1280×1024、16 ビット色
ハードディスク容量	1 GB の空き容量
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft .Net Framework 4.0 かそれ以上 • DirectX 9.0 以上

ヒント: お使いのコンピュータにインストールされている DirectX のバージョンを確認するには、スタートをクリックしてファイル名を指定して実行を選択し、「dxdiag」と入力します。OK をクリックすると、DirectX 診断ツールウィンドウが開きます。バージョン情報は、システムタブの最下部近くに表示されます。サーバーが DirectX のアップデートを必要とする場合は、最新版の DirectX を <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/> から入手できます。

XProtect Smart Client の新機能

XProtect Smart Client を以前に使用したことがある方は、XProtect Smart Client の外観が変わったことに気付かれたかも知れません。また、XProtect Smart Client には 1 つまたは複数の新機能が搭載されています。

新しい XProtect Smart Client には次の機能があります。

複数ウィンドウの処理

- フロートウィンドウ 『82ページの"マルチウィンドウ"参照』からジョイスティックを使用
- フロートウィンドウを個別に再生するか、複数のフロートウィンドウの再生を同期
- メインウィンドウへフロートウィンドウをリンク 『84ページの"ディスプレイ間でビューを送信する"参照』し、時刻を同期するか、ライブまたは再生の時刻に続く
- フロートウィンドウからエクスポート 『125ページの"ビデオクリップ、音声、静止画像のエクスポート"参照』

柔軟なカメラビュー処理

- カメラビューレイアウトに適応し、シンプルなドラッグアンドドロップ操作でビューのカメラを再配置 『45ページの"ビューのカメラを変更"参照』
- ビューの一時再配置後、復元機能を使用して元のビューレイアウトに戻す
- セットアップモードでビューを切り替え 『46ページの"カメラの切り替え"参照』、ビューの保存前にカメラを簡単に配置して最適化
- ワンクリックでスナップショット機能を使用 『117ページの"スナップショットの作成"参照』し、インシデントまたは個人のビジュアルドキュメントを瞬時に生成

強化されたマップナビゲーション

- マップで複数選択を使用し、1回の操作でフロートウィンドウで複数のカメラを開き 『68ページの"マップからフロートウィンドウへカメラを送信"参照』、より簡単にインシデントを検索可能

Milestone Interconnect

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

- 内部接続されたデバイスからデータを取得 『111ページの"Milestone Interconnect からのデータの取得"参照』し、タイムライン 『109ページ』にステータスを表示
- ステータスウィンドウにすべての取得ジョブを表示 『36ページの"サーバーステータスと内部接続されたハードウェア取得ジョブ"参照』
- マップ上に内部接続されたハードウェア 『61ページの"エレメントとマップの関係"参照』を表示

拡張された PTZ 制御

- パン/チルト/ズーム (PTZ) カメラのプリセット位置を作成 『104ページの"PTZ プリセットを

作成"参照』および編集『105ページの"PTZプリセットの編集"参照』

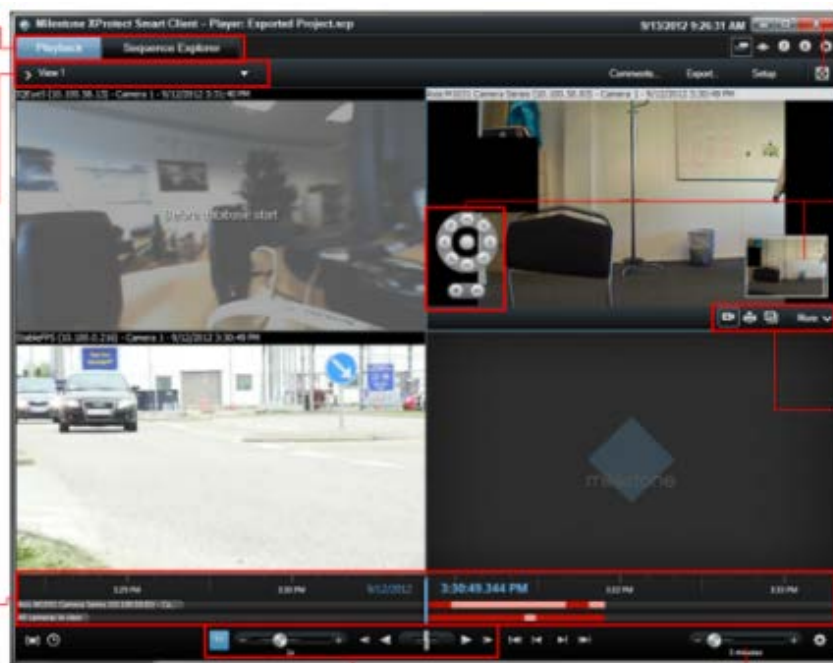
- 自動切替ビューで PTZ 制御とデジタルズームを使用

XProtect Smart Client クイックガイド

再生/
シーケンス
エクスプロ
ーラタブ

現在のビュー
『21ペー
ジ』

タイムライ
ン 『21ペー
ジ』



フル画面
『22ペー
ジ』

ズーム 『22
ページ』

画像のコピー
／印刷
『22ペー
ジ』

再生 『22ペー
ジ』

タイムラインス
パンの変更 『22
ページ』

再生／シーケンスエクスプローラ

再生タブでは、複数のカメラで録画されたビデオを同時に表示できます。
シーケンスエクスプローラタブでは、特定のシーケンスを検索し、同時に再生できます。

現在のビュー

エクスポートに追加のビューが含まれる場合、ビュー名の右側のドロップダウン矢印をクリックすると選択できます。その他の高度な機能がある左側のペインにアクセスするには、>アイコンをクリックします。



選択したカメラは、青色の枠線で示されます。

タイムライン



上のタイムラインには、選択したカメラのアクティビティが表示されます（青色の枠線で表示）。下のタイムラインには、ビューのすべてのカメラのアクティビティが表示されます。

- 灰色：録画なし
- ピンク：録画
- 赤：モーションのある録画

再生

再生するには、**早送り再生**ボタンをクリックします。 録画を再生するときには、再生ボタンが一時停止ボタンに変わります。

次の操作も可能です。

- 再生スライダーを左へ移動させると再生速度が遅くなり、右へ移動させると再生速度が速くなります。
- [1x]をクリックすると通常速度になります。
- 追加のボタンを使用して、前後の画像に移動します。 
- 録画の再生中に速度を変更するには、シャトルスライダーをドラッグします。一時停止できません。

タイムラインスパンの変更

ラベルは、現在のタイムラインスパン（例、1時間）を示します。スパンを縮小して詳細を表示したり、拡大して監視中のビデオの概要をさらに多く表示したりできます。

画像のコピー／印刷

カメラツールバーから現在の画像をコピーまたは印刷できます。ツールバーから、その他の高度な機能も使用できます。

ズーム

ズームボタンを使用して、画像の特定の領域を拡大できます。ズームインジケータ（右下端）には、拡大した画像の部分が表示されます。ズームインジケータを使用すると、画像のその他の部分に移動できます。

フル画面

クリックすると、フル画面モードで表示します。**Esc** キーを押すと、通常表示に戻ります。フル画面でカメラを表示するには、カメラをダブルクリックします。もう一度ダブルクリックすると、通常表示に戻ります。

XProtect Smart Client の概要

ユーザー権限によって、操作方法が決定されます

各ユーザーの権限は、監視システムの管理者によって一元的に指定され、これらの権限によって XProtect Smart Client の特定の機能を使用できるかどうかが決まります。

基本的に、システム管理者が制限できるユーザー権限には次のものがあります。

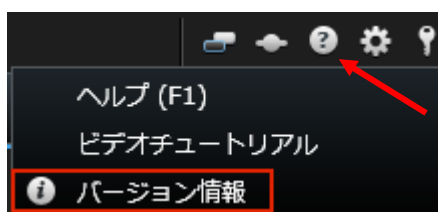
- XProtect Smart Client へのアクセス
- それぞれのタブへのアクセス：ライブ、再生、アラームマネージャ、およびシーケンスエクスプローラ
- 特定の機能の使用
- ビューの作成（ビューは1つまたは複数のカメラを表示する形態を決定します）
- 特定のカメラからのビデオの表示

XProtect Smart Client の機能を使用する権限は、ユーザーによってかなり異なることがあります。特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、ユーザー権限は、時刻、曜日などによっても異なります。たとえば、月曜から金曜の特定の時間内は特定のカメラからのビデオを再生できても、この時間外は再生できないことがあります。

バージョンおよびプラグイン情報の表示

使用している XProtect Smart Client の正確なバージョンを知ることは、サポートが必要なときや、使用しているクライアントをアップグレードするときなどに重要になります。そのような場合、XProtect Smart Client がどのプラグインを使用しているかについても知っておく必要があります。

- この情報を表示するには、XProtect Smart Client のツールバーのヘルプ > バージョン情報をクリックしてください。



XProtect Smart Client のバージョンは、XProtect サーバーのどのバージョンと互換性があるかに影響します。最新の XProtect Smart Client は、最新バージョンと旧バージョンのサーバーと互換性があります。たとえば、XProtect Smart Client 6.0 は XProtect Enterprise 8.0、XProtect Enterprise 7.0、XProtect Corporate 4.0、および XProtect Corporate 3.1 と互換性があります。ただし、旧バージョンの XProtect Smart Client は、最新バージョンのサーバーとは互換性がありません。たとえば、XProtect Smart Client 5.5 は XProtect Enterprise 8.0 とは互換性がありません。

XProtect Smart Client XProtect Analytics のプラグインは、32 ビットバージョンの XProtect Smart Client でのみ実行できます。プラグインは、64 ビットのインストールでは実行できません。

メインウィンドウ

XProtect Smart Client は、監視システムへのアクセスを提供します。XProtect Smart Client は、クライアント側コンピュータのローカルにインストールする必要があります。


XProtect Smart Client のウィンドウ 『24ページ』では、ライブビデオは XProtect Smart Client の **ライブタブ**に、録画ビデオは**再生タブ**に表示されます。**ライブタブ**を選択すると、XProtect Smart Client は、監視システムサーバーに接続し、カメラで録画されたビデオが選択したビューで再生されます。使用しているコンピュータに複数の物理ディスプレイが接続されている場合は、各ビューを個別のウィンドウ 『82ページの"マルチウィンドウ"参照』に送信して、1度に複数のビューを表示することができます。

XProtect Smart Client のウィンドウ



1. タイトルバー
2. ワークスペースツールバー 『26ページ"タスクボタン"参照』
3. アプリケーションのツールバー
4. ビュー 『25ページ』
5. ビューの位置 『25ページ』
6. タブ 『25ページ』
7. ペイン 『24ページ』
8. アプリケーションボタン 『26ページ』
9. タイムライン 『109ページ』

ペイン

ペインから、XProtect Smart Client のほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している XProtect Smart Client の設定やタスクに応じて異なります。ペインを最小化することにより、スペースを節約し、使用しているペインの概要をより分かりやすく表示できます。ペインのタイトルバーにある**最小化/展開**のアイコンをクリックして、最小化または展開します。

タブ

XProtect Smart Client には、以下の主要なエリアがあります。

- **ライブタブ** 『32ページ』はライブビデオを再生します。
 - **再生タブ** 『33ページ』は、録画されたビデオを表示するエリアです。
 - **ビデオシーケンスやブックマークをナビゲートするシーケンスエクスプローラタブ** 『112ページの"シーケンスエクスプローラ"参照』
 - **インシデントやアラームを調査するアラームマネージャタブ** 『127ページの"アラームマネージャタブ"参照』
 - **システム情報を表示するシステムモニタータブ** 『37ページの"システムモニタータブ"参照』
- 一部のタブが使用できない場合は、すべてのエリアにアクセスできる権限がないためです。

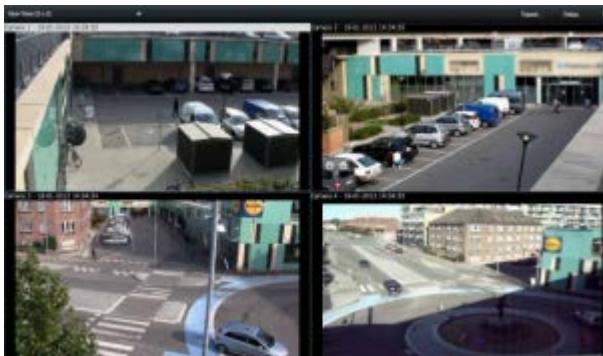
ビュー

ビューについて

XProtect Smart Client でビデオを再生する方法をビューと呼びます。監視システムによって異なりますが、1つのビューには最高で 100 台のカメラからのビデオを含めることができます。XProtect Smart Client では無制限の数のビューを処理することが可能であり、さまざまなグループのカメラからのビデオの間で切り替えることができます。各ビューのレイアウトは、内容に合わせてカスタイズできます。分かりやすい全体図を維持するため、すべてのビューは**グループ**と呼ばれるフォルダに分類されます。1つのグループには、無制限の数のビューと、必要に応じてサブグループを含めることができます。ビューには、個人ビューと他のユーザーとの共有ビューがあります 『39ページの"個人ビューと共有ビュー"参照』。

ビデオだけでなく、ビューでは **Web ページ**や静止画像（顔写真など）を表示できます。監視システムによっては、他のアプリケーションからのデータ（レジからのレシートなど）をビデオと同時にビューに表示できる場合もあります。


ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されているので、自分のユーザー名とパスワードを使ってログインすれば、XProtect Smart Client がインストールされているどのコンピュータでも、個人ビューと共有ビューを使用できます。



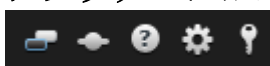
例：4台の異なるカメラ(2x2 ビュー)からのビューを表示している XProtect Smart Client

タスクボタン

これらは、XProtect Smart Client のツールバーにあり、表示しているタブによって異なります。たとえば、**設定**はすべてのタブで使用できるわけではありません。タスクボタンの例：

- **設定**: クリックすると、設定モード 『29ページの"設定モードに入る"参照』になります。
- **エクスポート** : クリックすると、ビデオをエクスポートします。
- **フルスクリーンの切り替え** : クリックすると、フル画面 『30ページの"フル画面表示"参照』と、ドラッグしてサイズを変更できる小さいウィンドウとの間で切り替わります。

アプリケーションボタン

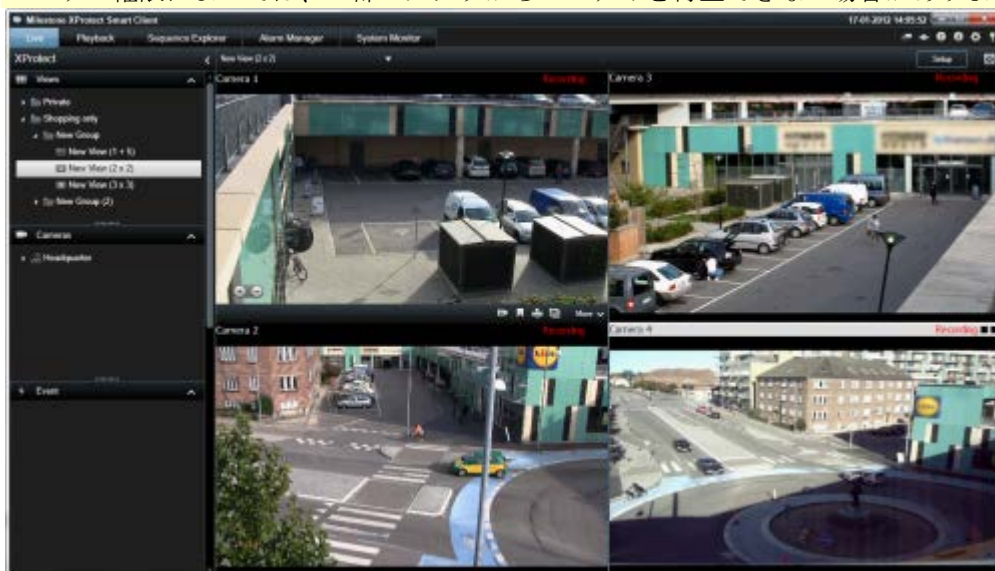


ツールバーにあるアプリケーションボタンを使用して、XProtect Smart Client の基本操作を選択できます。ボタンは左から右へ次のように並んでいます。

- **テーマの切り替え** : XProtect Smart Client のテーマを暗から明に切り替えます。
- **ステータス** : ステータス 『36ページの"サーバーステータスと内部接続されたハードウェア取得ジョブ"参照』 ウィンドウにアクセスします。
- **ヘルプ** : ヘルプシステム 『30ページの"ヘルプの表示"参照』 にアクセスし、オンラインビデオチュートリアルを再生するか、バージョン番号およびプラグイン情報を表示します 『23ページの"バージョンおよびプラグイン情報の表示"参照』
- **オプション** : XProtect Smart Client の設定と動作 『86ページの"XProtect Smart Client オプション"参照』、ジョイスティック、キーボードのショートカット、および言語を設定します。
- **ログアウト** : XProtect Smart Client からログアウト 『13ページの"ログインプロセス"参照』 します。

ライブビデオについて

特定のユーザー権限がないと、ライブタブにアクセスできないことがあります。XProtect Smart Clientでビデオを再生するには、監視システムのレコーディングサーバーが実行中である必要があります。ユーザー権限によっては、一部のカメラからのビデオを再生できない場合があります。



例：4台のカメラからのビデオを再生するライブタブ

ライブタブには『32ページの"ライブタブ"参照』、音声『57ページ』、自動切替『81ページの"画面自動切替"参照』、ホットスポット『76ページ』、Matrix、カメラのショートカットメニュー、PTZ（パン/チルト/ズーム『103ページの"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』）制御、デジタルズーム、イベント起動、出力起動、クイック再生など、さまざまな機能があります。

ライブタブに、カメラからのライブビデオが再生されていても、そのカメラからのビデオストリームが録画中であるとは限りません。通常、ビデオは監視システムサーバーの設定に従って録画されます。一般に、録画は、スケジュール(毎朝 10:00~11:30 など)に従うか、監視システムが特別なイベント(誰かが部屋に入ってきたことによってモーションが発生した、窓が開いたことをセンサーが認識した、XProtect Smart Clientで手動イベントが起動された)を検知したときに行われます。通常は、録画ビデオは再生タブで表示しますが、ライブタブで再生することも可能です『108ページの"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』。

設定モードで、カメラのプロパティ『49ページの"カメラ設定"参照』のタイトルバーが有効になっている場合は、ビデオの録画中に、カメラ画像の上にあるタイトルバーに「録画中」と表示されます。

ヒント：ビュー内の特定のカメラ位置からのビデオを最大化するには、そのカメラ位置をダブルクリックします。通常のビューに戻すには、カメラ位置をもう1度ダブルクリックします。

カメラが短時間しか録画していない場合があります。これは、ドアが開いた場合など、モーションが発生したときのみカメラからのビデオストリームを録画するよう監視システムサーバーが設定されているために、録画時間が短くなっている場合です。


したがって、カメラからのビデオストリームがすでに録画中であっても、#分の記録開始を選択できません。そうすれば、指定の分数が経過するまで、中断されることなく確実にカメラからのビデオストリームを録画できます。

サーバーで複数のストリームが設定されている場合、カメラツールバーから選択すると、一時的に別のストリームを表示できます。カメラのツールバーで、詳細をクリックして、使用可能なリストからストリームを選択します。

ビデオの録画

ライブビデオを見ながらの録画は、何かを発見した場合に便利です。

- 録画するビューの位置のカメラのツールバーで、**#分の録画を開始**を選択します。

簡単に録画を開始するもう1つの方法は、ブックマークを作成することです(カメラのツールバーで、ブックマークのアイコンをクリックします)。

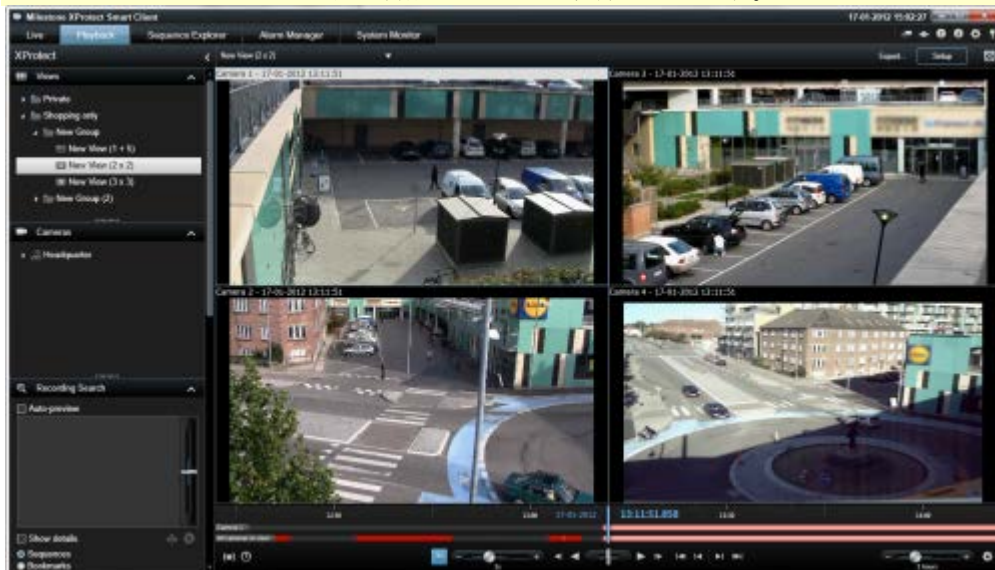
いったん開始されると、監視システムの管理者によって指定された分数だけ録画が行われます。ユーザーが分数を変更することや、指定の分数が経過する前に録画を停止することはできません。

ヒント: 複数のカメラからのビデオストリームを同時に録画することもできますが、その場合は1つずつ選択する必要があります。録画する分数はカメラによって異なる場合がありますに注意してください。

録画ビデオについて

録画ビデオは、XProtect Smart Client の**再生**タブで表示します。**再生**タブを選択すると、XProtect Smart Client は、監視システムサーバーに接続し、カメラで録画されたビデオを選択したビューで再生します。この方法で、録画されたビデオを再生できます。

再生タブを使用するには特定のユーザー権限が必要となる場合があります、ユーザー権限によっては一部のカメラからのビデオの参照が制限されている場合があります。



再生タブには、タイムライン 『109ページの"再生ナビ"参照』、スマートサーチ(特定のカメラからの録画内の指定範囲におけるモーションを検索)、および2種類のシーケンスブラウズ機能(プレビューオプション付き簡易リストまたはシーケンスエクスプローラ 『112ページ』の複数シーケンスのサムネイルビューを使用)など、録画済みのビデオを参照するための高度な機能が数多くあります。

ビデオを参照する機能以外にも、**再生**タブでは、音声を聴く(選択した Milestone 監視システムに接続している場合のみ)、ホットスポットの使用、デジタルズームの使用 『101ページ』、魚眼レンズ画像内のナビゲート 『103ページの"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』、画像の印刷 『116ページの"証拠を印刷する"参照』、AVI (ムービークリップ)、JPEG (静止画像) や XProtect フォーマットでの証拠ビデオのエクスポートなども実行できます。

ヒント: ビュー内の特定のカメラ位置からのビデオを最大化するには、そのカメラ位置をダブル

クリックします。通常のビューに戻すには、カメラ位置をもう1度ダブルクリックします。

再生タブでは、デフォルトでは、ビューにあるすべてのカメラが同じ時刻のポイント(マスター時刻)での録画が表示されます。ただし、マスター時刻とは無関係に各カメラの録画を再生、ナビゲートすることができます(オプション 『90ページの"機能のオプション"参照』 ウィンドウで有効に設定されている場合)。

個別再生を使用して、ライブタブから録画済みビデオを再生することもできますし、マスター時刻とは無関係にビデオを再生することもできます。

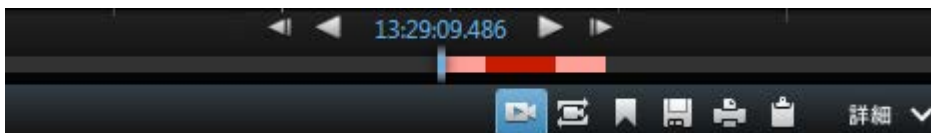
個別再生を使用する録画済みビデオの表示

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、または Matrix 位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

1. 録画ビデオを再生するカメラをマウスで横切ります。表示されるツールバーで、**独立再生**ボタンをクリックします。



独立再生のタイムラインが表示されます：



2. タイムライン 『109ページ』をドラッグして、再生するビデオが含まれる時間を選択します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、**再生タブで選択された時間の録画を表示**をクリックします。この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて再生タブで再生されます。

設定モードに入る

設定モードに入るには、XProtect Smart Client のツールバーで、**設定**をクリックします。設定モードでは、設定のボタンやペイン (プロパティ 『49ページの"カメラ設定"参照』 ペインなど) はオレンジ色で表示され、別のペインが左側のパネルに表示されます。



デフォルトビューへ戻るには、**設定**ボタンを再度クリックします。

ビューの選択

ライブおよび再生タブのビューペインで、ビューを選択できます。

- ビューペインで**個人**ビューまたは**共有**ビューを選択し、該当するビューグループで使用可能なビューのいずれかを選択します。

ペインもショートカットも表示されていない場合は、オプション 『89ページの"ペインのオプション"参照』 ウィンドウでペインが使用可能かどうかを確認してください。


ビューにショートカット番号が割り当てられている 『45ページの"ビューへショートカット番号を割

り当てる"参照』場合は、キーボードショートカットを使用して『35ページの"キーボードのショートカット"参照』ビューを選択することもできます。

参照

ビューの作成および管理..... 43

フル画面表示

- 使用している XProtect Smart Client をフル画面モードで表示するには、XProtect Smart Client のツールバーで、フル画面表示  ボタンをクリックします(またはキーボードの F11 を押します)。

フル画面モードに変更すると、ツールバーやペインは非表示になります。ツールバーやペインを再度表示するには、マウスを画面の最上部へ移動させます。

デフォルトビューへ戻るには、ESC キーまたは F11 キーを押します。

単一の画像のコピー

選択したカメラから 1 つの静止画像をコピーできます。コピーした画像はその後、ワープロソフトや E メールクライアントなど、他のアプリケーションに (ビットマップ画像として) 貼り付けることができます。1 台のカメラからコピーできる画像は 1 度に 1 つだけです。

- カメラのツールバーで、クリップボードへコピーアイコンをクリックして画像をコピーします。



ヘルプの表示

- XProtect Smart Client ヘルプシステムにアクセスするには、XProtect Smart Client ツールバーでヘルプ > ヘルプをクリックするか、キーボードの F1 キーを押します。



- XProtect Smart Client 専用ブラウザでオンラインビデオチュートリアルにアクセスするには、XProtect Smart Client ツールバーでヘルプ > ビデオチュートリアルをクリックします。

ヘルプシステムはコンテキスト依存であり、ユーザーが作業をしているエリアに関連するヘルプトピックが自動的に表示されます。ヘルプトピックのテキストにはさまざまな種類のリンクがありますが、その中でも、クリックすると展開して詳細情報を表示する、ドロップダウンリンクと呼ばれるリンクがあります。

ヒント: ヘルプトピックで表示した拡張ドロップダウンリンクのテキストすべてをすばやく縮小表示するには、コンテンツタブにあるトピックのタイトルをクリックしてください。

ヘルプトピックを印刷すると、そのトピックは画面に表示された状態で印刷されます。そのため、ト

ピックに拡張ドロップダウンリンクが含まれている場合、必要なドロップダウンリンクをクリックしてテキストを表示させて、印刷に含めてください。これで、印刷する必要がある情報だけが含まれたページが印刷されます。

基本

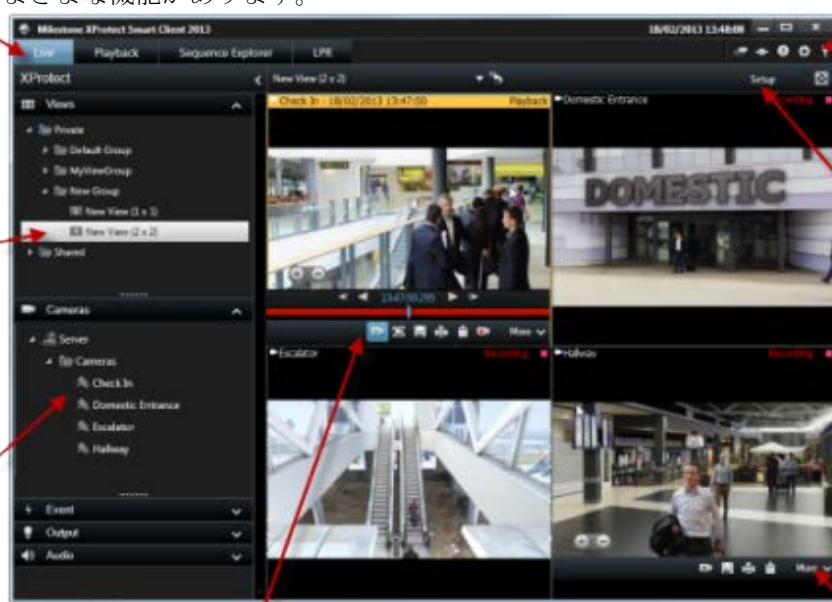
ライブタブ

タブ

ライブタブには、音声 『57ページ』、自動切替 『81ページの"画面自動切替"参照』、ホットスポット 『76ページ』、Matrix、カメラのショートカットメニュー、PTZ (パン/チルト/ズーム 『103ページの"PTZおよび魚眼レンズ画像"参照』)制御、デジタルズーム、イベント起動、出力起動、クイック再生など、さまざまな機能があります。

さまざまな作業領域 『25ページの"タブ"参照』
ビューの選択 『29ページ』

ビューのカメラを変更 『45ページ』



アプリケーションボタン 『26ページ』

設定モードに入る 『29ページ』

個別再生を使用する録画済みビデオの表示 『108ページ』

カメラツールバー 『35ページ』

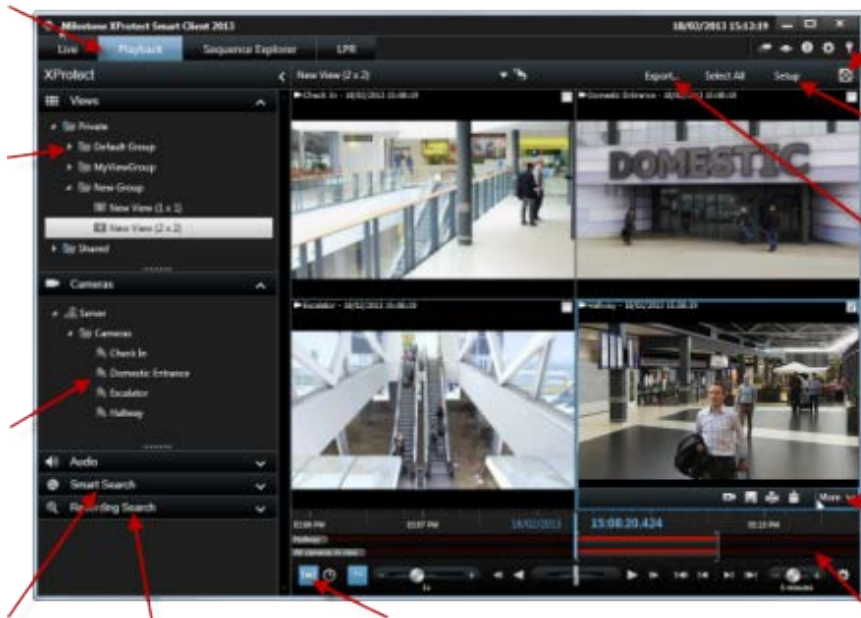
ライブタブの一般的なタスク

- ビュー間でビデオを送信する 『45ページ』
- スナップショットの作成 『117ページ』
- 単一の画像のコピー 『30ページ』
- ビデオの録画 『28ページ』
- デジタルズームの使用 『101ページ』
- PTZプリセットを作成 『104ページ』

再生タブ

録画ビデオ
について
『28 ペー
ジ』
ビューの選
択 『29ペー
ジ』

ビューのカ
メラを変更
『45 ペー
ジ』



フル画面表
示 『30ペー
ジ』

設定モード
に入る 『29
ページ』
ビデオクリ
ップ、音声、
静止画像の
エクスポー
ト 『125ペー
ジ』

カメラツール
バー 『35
ページ』

スマートサ 記録の検索ペインを使
ーチペイン 用した検索 『118ペー
を使用した ジ』
検索 『119ペ
ージ』

ビデオエクスポートの
ための時間選択 『110
ページの"時間選択"参
照』

タイムライ
ン 『109ペー
ジ』

再生タブの一般的なタスク

個別再生を使用する録画済みビデオの表示 『108ページ』

証拠を印刷する 『116ページ』

ブックマークの追加および編集 『107ページ』

録画済みビデオの検索 『118ページ』

スナップショットの作成 『117ページ』

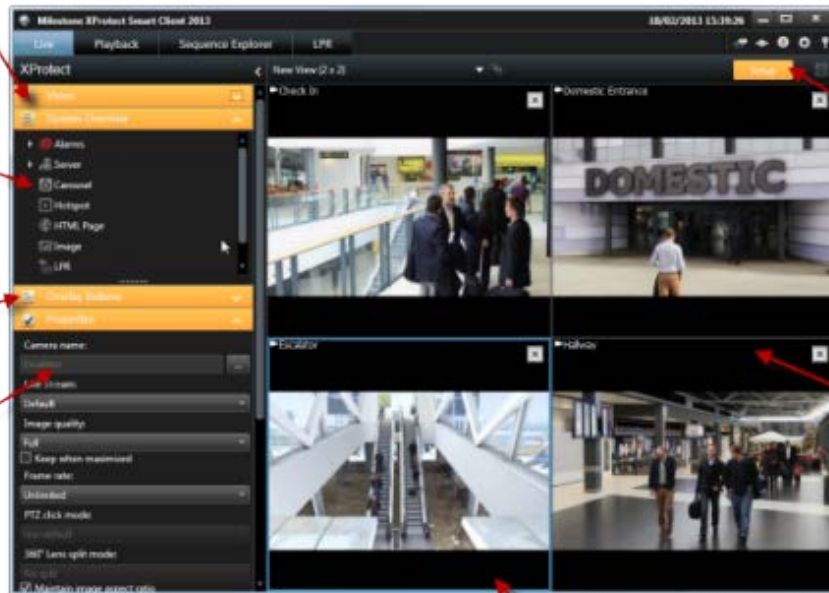
設定モード

ビューの作成
『44ページ』

ビューにコンテンツを追加する
『40ページ』

キーボードショートカット
およびオーバーレイボタン
『56ページ』

プロパティペイン
『49ページ』の"カメラ設定"
参照』



設定モードを終了する
『29ページ』の"設定モードに入る"
参照』

ビューにカメラを追加する
『48ページ』

ビューの作成および管理 『43ページ』

設定モードの一般的なタスク

ビューにマップを追加する 『68ページ』

カメラナビゲータをビューに追加する 『75ページ』

ビューに **Matrix** のコンテンツを追加する 『86ページ』

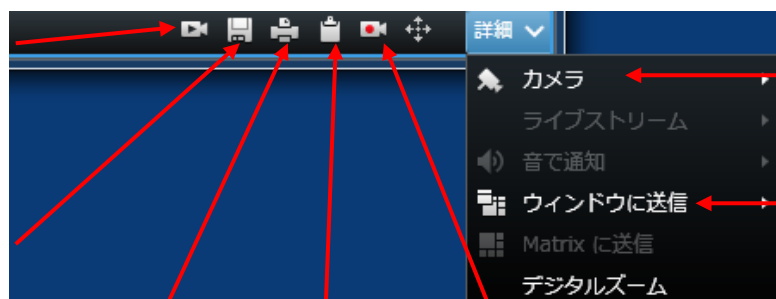
ビューに **Smart Wall** を追加する 『78ページ』

ビューにコンテンツを追加する 『40ページ』

カメラツールバー

個別再生を使用
する録画済みビ
デオの表示
『108ページ』

スナップショッ
トの作成 『117
ページ』



ビューのカメラ
を変更 『45ペー
ジ』

ビュー間でビデ
オを送信する
『45ページ』

証拠を印刷す 単一の画像のコピ ビデオの録画
る 『116ペー ー 『30ページ』 『28ページ』
ジ』

デジタルズーム
の使用 『101ペ
ージ』

キーボードのショートカット

ライブタブや再生タブで作業する場合、簡単なキーボードのショートカットを多数使用できます。

ヒント：標準のキーボードショートカットだけでなく、XProtect Smart Client の特定の操作に対してカスタムのショートカットキーを割り当てる 『93ページの"キーボードのオプション"参照』 こともできます。

以下のショートカットのプラス記号は、キーを示しているのではなく、2つ以上のキーを押すことを意味しています。たとえば、「+/+ENTER」というキーボードショートカットは、スラッシュ(/)キーを押してから ENTER キーを押すことを示します。

こうしたショートカットは、Matrix コンテンツや静止画像を含んでいるビュー位置では使用できません。

押すキー	実行される操作
ENTER	選択されたビュー位置の最大表示と標準表示を切り替えます。
ALT	特定のビューアイテムを選択します。 ALT を使用すると、画面に表示される数字を入力して、ビューアイテムに移動できます。 ビューアイテムがフォーカスされている場合には、青色のフレームでマークされています。 PTZ 『147ページ』 カメラやホットスポット 『76ページ』 を使用している場合、ジョイスティックでカメラをコントロールしたり、マウスを使用せずにホットスポットに直接ビューアイテムを送信できます。
/+<カメラのショートカット番号	選択されたビュー位置に表示されているカメラを、ショートカット番号が一致するカメラと置き換えます。例：表示するカメラのショートカット番

押すキー	実行される操作
>+ENTER	号が 6 の場合、 /+ 6+ENTER を押します。 監視システムによってはカメラのショートカット番号を使用していない場合があります。カメラのショートカット番号はサーバーで定義されます。
/+ENTER	選択されたビュー位置に表示されているカメラを、その位置のデフォルトのカメラに変更します。
/+/+ENTER	すべてのビュー位置に表示されているカメラを、それらの位置のデフォルトのカメラに変更します。
*+<ビューのショートカット番号 >+ENTER	選択されたビューを、ショートカット番号が一致するビューに変更します。 例：表示するカメラのショートカット番号が 8 の場合、 *+ 8+ENTER を押します。 ビューのショートカット番号を使用していない場合があります。ビューのショートカット番号を使用している場合は、 ビューペイン のビュー名の前に括弧で囲まれて表示されます。ビューのショートカット番号は、 XProtect Smart Client の設定タブで定義します。
6 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ右へ移動させます。
4 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ左へ移動させます。
8 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ上へ移動させます。
2 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ下へ移動させます。



サーバーステータスと **Interconnect** で接続されたハードウェア取得ジョブ

※本機は、**Milestone Interconnect** には対応していません。

ログイン情報

ステータスウィンドウの**ログイン情報**タブでは、お使いの XProtect Smart Client が接続している監視サーバーのステータスを確認できます。このダイアログは、**Milestone Federated Architecture** をサポートしている監視システムに接続する場合に便利です。**Milestone Federated Architecture** は、関連しているが物理的には離れている監視システムの親/子の設定です。たとえば、多数の別個の（ただし関連している）監視システムのある店舗チェーンがこのような関係に該当します。

ステータスウィンドウを開くには、アプリケーションのツールバーにある**ステータスボタン**をクリックします。



ヒント：ボタンが赤色で点滅する場合は、1 台または複数のサーバーが使用不可です。ステータスを表示すると、サーバーが使用不可の場合でも、ボタンの赤色点滅が停止します。

サーバーが使用できる場合は、青色で表示されます：



ログイン時にサーバーが使用できない場合、サーバーに付属するカメラまたは機能も使用できなくなります。使用できないサーバーは、赤色で表示されます。



表示されるサーバー数は、ログインしたときに監視システムから取得できるサーバーの数を反映しています。特に、大規模なサーバー階層に接続している場合、ログイン後に使用できるサーバー数が増える場合があります。サーバーのリストは、サーバーステータスの静的表示になります。サーバーが使用できない場合、クリックすると**ステータスフィールド**に理由が表示されます。サーバーに接続するには、**サーバーをロードする**ボタンをクリックします。そのサーバーのサーバーステータスが更新されます。サーバーが使用できない状態が長期間続く場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ジョブ

XProtect Smart Client が Milestone Interconnect システムに含まれ、エッジストレージをサポートする内部接続されたハードウェアデバイスまたはカメラからデータを取得する権限がある場合、これらのデバイスの各データ取得要求に対して作成されたジョブを表示できます。

取得要求のあった各カメラは、個別のジョブとして表示されます。ここで、実行中のジョブの進行状況を表示し、ジョブを停止できます。関連付けられたオーディオは自動的に取得されますが、これらのジョブは表示されません。ジョブが完了すると、デバイスのタイムライン 『109ページ』が自動的に更新されます。

要求したジョブのみを表示する場合、**自分のジョブのみ表示**フィルターをクリックします。

システムモニタータブ

※本機は、システムモニタータブに対応していません。

<、>およびホームアイコンを使用してシステムモニターをナビゲートできます。

ここから、システム情報を表示したり、レポートを作成できます：

- **管理サーバー**： 使用している**管理サーバー**でデータを表示する
- **レコーディングサーバー**： 以下に基づいて表示できる、監視システムの設定で**任意の数**のレコーディングサーバーにデータを表示します。
 - ディスク
 - ストレージ
 - ネットワーク
 - カメラ
- **フェールオーバーレコーディングサーバー**： 監視システムの設定で**任意の数**のフェールオー

バーレーコーディングサーバーでデータを表示します。

- **追加のサーバー**：監視システムの設定で**ログサーバー**、**イベントサーバー**などにデータを表示します。
- **カメラ**:監視システムの設定で**任意のカメラグループの任意のカメラ**でデータを表示します。

これらはそれぞれ、大半はサブエリアを含んでいる、クリック可能、拡大可能なエリアに対応します。それぞれのサブエリアはサーバーを表しています。クリックすると、このサーバーの関連する動的データを表示します。

ただし、**カメラ**には選択の対象となるカメラグループのリストが含まれています。グループを選択すると、特定のカメラを選択してその動的データを表示することができます。

すべてのサーバーが、**CPU 使用率**および**使用可能メモリ**の情報を表示できます。さらに、**レコーディングサーバー**も**接続ステータス**の情報を表示できます。

それぞれのビューに、**履歴**リンクがあります。それをクリックすると、履歴データとレポートが表示されます(カメラのレポートを表示するには、カメラの名前をクリックします)。それぞれの履歴レポートで、最近 **24 時間**、**7 日**または **30 日**のデータを表示できます。

レポートを保存または印刷したい場合は、**PDF へ送信**アイコンをクリックします。

Milestone Federated Architecture™

※本機は、Milestone Federated Architecture™には対応していません。

Milestone Federated Architecture™ (MFA)を使用している場合、**システムモニター**タブは2つの部分に分割されます。フェデレーテッドアーキテクチャの設定を表す階層ツリー構造を表示している左のペインと、右側は選択した MFA サーバーの関連システムデータのためのブラウザベースのエリアです。左側のペインで MFA サーバーをクリックすると、右側の**システムモニター**タブに表示されているシステムデータを確認できます。

タブから離れるか、XProtect Smart Client をログアウトして戻ると、**システムモニター**タブは、MFA で選択されているサーバーを覚えていて、そのサーバーからのデータを引き続き表示します。

システムモニタータブを独立したウィンドウへドラッグして、複数の MFA サーバーをモニターすることができます。

監視システムの別の特徴

XProtect Smart Client に搭載されている機能の多くは、接続されている Milestone 監視システムの種類に関係なく使用できます。ただし、一部の機能は、XProtect Smart Client が接続している監視システムの種類によって動作が異なります。接続している Milestone 監視システムの種類が分からない場合は、監視システムの管理者に詳細をお問い合わせください。

ビューの定義

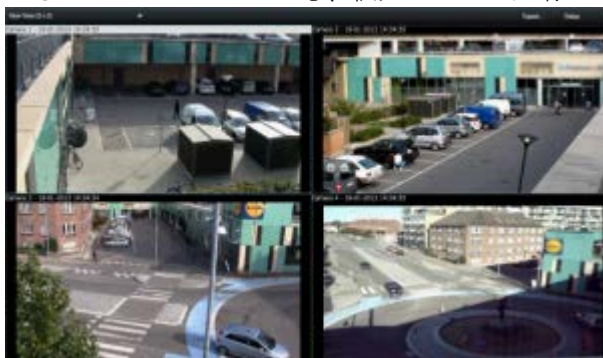
ビュー

ビューについて

XProtect Smart Client でビデオを再生する方法をビューと呼びます。監視システムによって異なりますが、1つのビューには最高で 100 台のカメラからのビデオを含めることができます。XProtect Smart Client では無制限の数のビューを処理することが可能であり、さまざまなグループのカメラからのビデオの間で切り替えることができます。各ビューのレイアウトは、内容に合わせてカスタイズできます。分かりやすい全体図を維持するため、すべてのビューは**グループ**と呼ばれるフォルダに分類されます。1つのグループには、無制限の数のビューと、必要に応じてサブグループを含めることができます。ビューには、個人ビューと他のユーザーとの共有ビューがあります 『39ページの"個人ビューと共有ビュー"参照』。

ビデオだけでなく、ビューでは Web ページや静止画像（顔写真など）を表示できます。監視システムによっては、他のアプリケーションからのデータ（レジからのレシートなど）をビデオと同時にビューに表示できる場合もあります。

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されているので、自分のユーザー名とパスワードを使ってログインすれば、XProtect Smart Client がインストールされているどのコンピュータでも、個人ビューと共有ビューを使用できます。



例：4 台の異なるカメラ(2x2 ビュー)からのビューを表示している XProtect Smart Client

個人ビューと共有ビュー

ビューには、個人ビューと共有ビューがあります。

- **個人ビュー**は、そのビューを作成したユーザーだけがアクセスできます。
- **共有ビュー**は、同じビューを多数の XProtect Smart Client ユーザーと共有できます。共有するには、すべてのビューを監視システムサーバーに保存しておく必要があります。使用している監視システムの種類 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』によって、共有ビューをすべての XProtect Smart Client ユーザーで共有できる場合と、特定の XProtect Smart Client ユーザーが選択された共有ビューにアクセスできる場合があります。

通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。たとえば、ユーザーが独自のビューを作成する必要がないよう、監視システムの管理者は多数の共有ビューを作

成して保持します。

ビューにコンテンツを追加する

ビューにカメラを追加する

ビューにカメラを追加する

1. 設定モードで、カメラを追加するビューを選択します。
2. システム概要ペインで、該当するサーバー■を展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。

多くの場合、一つのサーバーしか表示されませんが、大規模な監視システムと接続されている場合は、複数のサーバーの階層構造が表示されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。

3. リストからカメラを選択し、ビューで追加する位置までドラッグします。

接続が確立されていれば、そのカメラの映像が選択した位置に表示されます。接続が確立されていない場合は、カメラの名前だけが表示されます。

ヒント：画像の一部が黒く表示されるのは、プライバシーマスク 『107ページ』が使用されているからです。

プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます 『49ページの"カメラ設定"参照』。

ビューで使用するすべてのカメラについて同様に設定します。

ヒント：複数のカメラを一度にビューに追加するには、(たとえば、サーバーのカメラフォルダにあるすべてのカメラ)、フォルダをビューにドラッグするだけです。この場合、選択した位置から自動的にすべてのカメラがビューに追加されます。すべてを表示するのに十分な数の位置がビューにあることを確認してください。

ヒント：別のカメラをいちビュー上にドラッグすることで、使用するビューに含まれるカメラを簡単に変更できます。

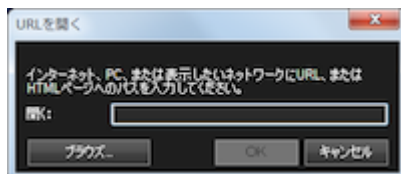
ビューに HTML ページを追加する

HTML ページは、会社のホームページ、オンラインマップサービス、リンク集、E ラーニングページを含めるなど、さまざまな目的のために、ビューで使用できます。



例：ビューに挿入された会社のホームページ

1. 設定モードで、システム概要ペインにある **HTML ページ** のアイテムをビューへドラッグアンドドロップします。
2. **URL を開く** ウィンドウが開きます。



3. **URL を開く** ウィンドウの **開く** フィールドに、表示する HTML ページの場所を入力します (例：<http://www.mywebsite.com/mywebpage.htm>) 。
- または -
表示したい HTML ページがご使用のコンピュータのローカルに保存されている場合は、コンピュータ上のその場所を指定するか(例：<C:\myfiles\mywebpage.htm>)、または **参照...** をクリックして、必要な HTML ページを参照します。
4. **OK** をクリックします。
ビューに HTML ページを追加すると、そのプロパティを変更できます。

1. 設定モードで、ビューへインポートした HTML ページを選択します。プロパティペインで、必要なプロパティを変更します。



- **URL** : 新規をクリックして、新しい URL または HTML ページの場所を指定します。
- **スケーリング** : HTML ページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされた HTML ページのコンテンツとその表示法によってまったく異なります。
原則として、1280×1024 のような高スケーリング値の場合は HTML ページのテキストが比較的小さく表示され、スクロールしなくても多くのコンテンツを見ることができます。反対に、320×200 のような低スケーリング値では、HTML ページのテキストが比較的大きく表示されるため、スクロールせずに表示できるコンテンツ量が比較的少なくなります。

- **HTML スクリプトを有効化** : この機能は、HTML ページが XProtect Smart Client 内でナビゲートしたり機能をトリガするためにカスタマイズされている HTML ページである場合にのみ、使用してください(HTML ページを使ってナビゲートする 『97ページの"HTML ページを使ったナビゲーション"参照』にあるカスタム HTML ページの例を参照)。
この機能を選択すると、XProtect Smart Client 内でのナビゲーションや多数の機能のコントロールに必要なクライアントスクリプトが、HTML ページに追加されます。このような目的に使用しない HTML ページの場合は、クライアントスクリプトを使用できないだけでなく、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

- **ツールバーを隠す** : デフォルトで、インポートされた各 HTML ページに、単純なナビゲーションバーが挿入されます。ナビゲーションバーには、左から順に巻き戻し、早送り、更新、およびホームの 4 つのボタンがあります :



ナビゲーションバーが必要ない場合は、**ツールバーを隠す**を使って非表示にできます。
インポートした HTML ページにリンクが含まれている場合は、それらのリンクに `target='blank'` 属性を含めることをお勧めします。

例 : `Link`

これにより、リンクをクリックすると新しいウィンドウで開くようになり、XProtect Smart Client と同じブラウザウィンドウにリンク先の Web ページが表示されて現在の XProtect Smart Client のビューが失われることはありません。

ビューに静止画像を追加する

会社のロゴマークや、指名手配犯の写真など、静止画像をビューで使用することができます。

- 設定モード中、**システム概要**ペインからビュー内の必要な位置へ**画像**のリンクをクリックして、ドラッグし、静止画像のファイルを選択します。

画像をビューに追加すると、画像の比率は保たれません。画像がゆがんで表示されるのを避けるには、画像の**プロパティ**ペインで、**画像の縦横比を維持**チェックボックスを選択します。

ヒント : 間取り図やマップをビューに含める場合は、**マップ機能** 『60ページの"マップ"参照』

を検討してください。マップ機能は、特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』 に接続している場合のみ使用できます。

ビューにオーバーレイボタンを追加する

ライブタブのビュー内で個々のカメラ上にマウスを移動すると、すでに追加されている場合、オーバーレイボタンが表示されます。オーバーレイボタンでは、スピーカー・イベント・出力のアクティブ化や、カメラのフォーカス・アイリスなどを操作できます。

必要な数のボタンを追加できます。

1. 設定モードで、**オーバーレイボタン**ペインで、アクションを選択してカメラ位置にドラッグします。
2. マウスを離すと、オーバーレイボタンが表示されます。ボタンのサイズを変更する場合は、表示されるハンドルをドラッグします。



3. オーバーレイボタンのテキストを変更する場合は、テキストをダブルクリックしてから、ENTER キーを押します。テキストはボタンで最大限のサイズになります。

ビューの作成および管理

ビューを作成するには、特定のユーザー権限が必要です。

設定モードでは、グループやビューを作成し、どのカメラがそれぞれのビューに含まれるかを指定することができます。第1階層フォルダの背景が赤色であれば、保護されていることを意味します。



保護されている第1階層フォルダでビューにアクセスすることはできますが、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューとグループを編集できるかどうかは、割り当てられたユーザー権限によって異なります。基本的に、ビューまたはグループを作成できる場合は編集する権限もあります。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ビューを作成するには、まず追加先のグループがなければなりません。既存のグループ内に新しいビューを作成するか、ビューのための新しいグループを作成することができます。第1階層の共有フォルダの下にビューを作成するには、まずその共有フォルダでグループを作成する必要があります。

ヒント: 1つのグループで作成できるビューの数に制限はありません。必要に応じて、任意の数のサブグループも作成できます。

ビューグループの作成

1. 設定モードのビューペインで、グループを追加する**個人**または**共有**の第 1 階層フォルダを選択します。
2. **グループの新規作成**をクリックします：



新グループという名前の新しいグループが作成されます。

3. 選択して、**新グループ**をクリックして、名前を上書きします。
4. これで、このグループ内でビューを作成できるようになりました。

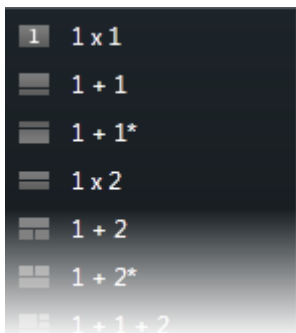
ビューの作成

すべてのユーザーが監視システムのすべてのカメラへアクセスできるわけではないので、共有ビューに含める機能のうち、一部の機能は旧バージョンの XProtect Smart Client ではサポートされていない場合があります。したがって、共有するユーザーに必要な権限があり、同じバージョンの XProtect Smart Client を実行していることを必ず確認してください。XProtect Smart Client のバージョンを確認するには、XProtect Smart Client ウィンドウの右上隅の ⓘ をクリックします。

1. 設定モードのビューペインで、ビューを作成するグループを選択します。
2. **新規ビューを作成**ボタンをクリックします。



3. 新しいビューのレイアウトを選択します。1 つのビューでは、最高で 100 個 (10×10) のカメラを表示するレイアウトを選択できます。使用可能なレイアウトは縦横比(高さとの関係、4:3 または 16:9)、通常のコンテンツまたは縦長のコンテンツ(高さが幅より大きい場合)に対して最適化されているかどうかに基づいてグループ化されます。



4. デフォルトの**新しいビュー**の名前を上書きして、ビューの名前を入力します。

ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する

重要：ビューは、同一のセッション内でコピーできます。ビューを XProtect Smart Client から別のクライアントへコピーすることはできません。

ビューがあり、それを再利用する場合、コピーすることができます。また、ビューのグループや個人ビューを共有ビューにコピーすることもできます。

1. 設定モードのナビゲーションペインで、ビューを選択します。
2. **コピー** : をクリックします。



あるいは、CTRL+C を押します。

3. ビューをコピーする場所に移動して、**貼り付け** : を選択します。



あるいは、CTRL+V を押します。

ヒント : 代わりに、ビューを選択して、別のフォルダへドラッグすることも可能です。

4. コピーしたビューの名前は、デフォルトで、元の名前に **(2)** が付きます。名前を変更するには、**名前変更** をクリックします :



あるいは、右クリックして、**名前変更** を選択します。

- ビューを削除するには、関連するビューを選択し、**削除** をクリックするか、



右クリックして、**削除** を選択します。

重要 : グループを削除すると、そのグループ内のすべてのビューとサブグループも削除されます。

ビューへショートカット番号を割り当てる

設定モードで、ビューにショートカット番号を割り当てて、ユーザーが標準のキーボードショートカット『35ページの"キーボードのショートカット"参照』を使用してビューを選択できるようにすることが可能です。

1. 設定モードで、ショートカットを割り当てたい**ビュー**をビューペインから選択します。
2. **ショートカット**フィールドに指定するショートカット番号を入力し、**ENTER** キーを押します。指定されたショートカット番号が、ビューの名前の前に括弧付きで表示されます。
3. 必要に応じて、他のビューにも同じ操作を繰り返します。

重要 : ショートカットは半角数字 1 文字を入力してください。2 文字以上は入力しないでください。

ビュー間でビデオを送信する


フロントウィンドウやセカンダリディスプレイ内のビューを含め、1 つのビュー内で、選択したカメラ位置から別のカメラ位置にビデオを送信できます。この機能は、ホットスポット『76ページ』、自動切替『81ページの"画面自動切替"参照』、または **Matrix** 『84ページ』位置では使用できません。

- カメラのツールバーで、**詳細 > カメラを送る** をクリックし、送信先のビューの位置を選択してから、そのカメラのビデオを再生する位置を選択します。

カメラ位置の一部が選択できない場合、それらの位置は使用不能であるか、ホットスポット、画面自動切替、**Matrix** のコンテンツが使用している可能性があります。

また、ビデオのコンテンツを個別のウィンドウ『82ページの"マルチウィンドウ"参照』またはディスプレイに送ることもできます。

ビューのカメラを変更

ビューに表示されるカメラを一時的に変更することができます。ただし、この機能はカメラの一時的な切り替えを目的としており、ビューを恒久的に変更するものではありません。元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーのビューの読み込みボタンをクリックします。 ビューの内容を恒久的に変更『40ページの"ビューにカメラを追加する"参照』するには、設定モードに入る必要があ

ります。

ビューがホットスポット『76ページ』、自動切替『81ページの"画面自動切替"参照』、または Matrix『84ページ』コンテンツを含む場合は、カメラを変更できません。カメラペインから使用した場合、この機能は Smart Wall『77ページ』位置でも機能します。

この方法は、カメラを Smart Wall の位置にドラッグする代わりに使用できますが、ライブタブで使用された場合にのみ有効です。

1. 関連するカメラをビューで選択します。
2. カメラペインで、関連するカメラをビューの位置へドラッグします。

あるいは、カメラのツールバーで、**詳細 > カメラ**をクリックして、関連するサーバーとカメラを選択します。


元のカメラが、右クリックサブメニューの一番上に(デフォルト)と名前が表示されます。これにより、元のビューにすばやく戻すことができます。

カメラペインで、カメラのリストはサーバー別にグループ化されます。サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は利用できません。この場合、そのサーバーからのカメラは選択できません。

ヒント: カメラのショートカット番号が定義されている場合は、キーボードショートカット『35ページの"キーボードのショートカット"参照』を使用してカメラを切り替えることができます。カメラのショートカット番号が割り当てられている場合は、カメラの名前の前に括弧付きで表示されます。『46ページ"カメラの切り替え"参照』

カメラの切り替え

いずれかのカメラを別の位置にドラッグすることで、ビューの 2 つのカメラを一時的に切り替えることができます。その位置のカメラは交換するカメラの場所と入れ替わります。あるカメラと、他のカメラを切り替えることだけができます。これは、最も重要なカメラすべてをビューの特定の位置に表示したい場合などに便利です。ビューを恒久的に変更するには、まず設定モードに入る必要があります。

- カメラを切り替えるには、該当するカメラのタイトルバーをクリックし、目的の位置にドラッグします。
- 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーのビューを読み込むボタンをクリックします。

ビューでカメラを切り替える『45ページの"ビューのカメラを変更"参照』

よくある質問：ビュー

ビューを設定せずにすぐにビデオを再生することはできますか?

はい。多くの XProtect Smart Client ユーザーが、まずビューを設定することなく、XProtect Smart Client ですぐにビデオを再生することができます。

個人ビュー: 特定の種類の監視システム『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』(主として数台のカメラが付いた小規模の監視システム)に接続されている場合、監視システムサーバーは、システムのすべてのカメラを使用して、単一のプライベートビューを自動的に生成できます。そのようなビューは**デフォルトビュー**と呼ばれます。デフォルトビューへのアクセス権がある場合、XProtect Smart Client に初めてログインしたときにデフォルトビューが自動的に表示されるため、ビデオの再生をすぐに XProtect Smart Client で開始できます。

共有ビュー: 共有ビューは、監視システムの管理者または同僚によって、すでに作成されていることがあります。共有ビューがすでに存在し、共有ビューおよび、それに含まれているカメラへのアクセス権がある場合は、XProtect Smart Client でビデオの再生をすぐに開始できます。

ビューを再作成する必要がある理由は何ですか？

監視システムの管理者が、監視システム側でカメラやユーザープロパティを変更する場合があります。こうした変更が XProtect Smart Client で有効になるのは、変更後に初めてログインしたときであり、ビューを作り直さなければならなくなることがあります。

個人ビューや共有できる共有ビューを作成できないと、何が起こりますか？

通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。監視システムの管理者は、共有ビューを多数作成して保持できます。ユーザーがログインすると、共有ビューが自動的に使用可能になり、それ以上ビューを作成する必要はありません。

どのビューにアクセスできるか確認する方法は？

通常、ユーザーが共有ビューへアクセスできるかどうかは監視システムの管理者によって通知されます。まだ通知されていない場合でも、共有ビューが使用できる場合は、簡単に確認できます。

ライブまたは**再生**タブのビューペインには必ず個人フォルダという名前の第 1 階層フォルダが表示されています。この個人フォルダはプライベートビューへアクセスするための第 1 階層フォルダであり、内容は作成したビューによって(作成した場合)異なります。

ビューペインにある他の第 1 階層フォルダは、共有ビューへアクセスするためのフォルダです。これらの第 1 階層フォルダの名前は、設定によって異なります。

ビューペインに共有ビューへアクセスするための第 1 階層フォルダが 1 つまたは複数あっても、実際にそれらの共有ビューを見ることができるとは限りません。第 1 階層フォルダの下にある共有ビューへアクセスできるかどうか確認するには、フォルダを展開します。

どのビューを編集できるか確認する方法は？

フォルダに錠前アイコンが付いている場合は、保護されているため、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューを別のコンピュータで表示できますか？

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されています。これは、ユーザー名とパスワードを使って XProtect Smart Client へログインすれば、個人ビューと共有ビューのどちらも XProtect Smart Client がインストールされているコンピュータで使用できることを意味しています。

アクションを実行する権限を持っていない場合でも、そのアクションに対するオーバーレイボタンを追加できますか？

はい。これによって、ボタンを共有ビューで表示することが可能になり、自分は使用する権限がなくても、必要な権限を持っている同僚はボタンを使用できます。

権限を持っていないアクションのボタンを追加すると、設定モードではボタンは灰色表示され、**ライブ**タブを使用する場合は表示されません。必要な権限を持っている同僚は、**ライブ**タブのボタンを使用できます。

オーバーレイボタンを追加した後に、自分の権限を変更するとどうなりますか？

権限を変更すると、ボタンをどのように使用できるかが変わり、アクションに対する権限があるかないかによって、灰色表示されるか、使用可能になります。たとえば、自分自身が実行する権限を持っていないアクションのボタンを追加した後、必要な権限を持てるようにユーザー権限が変更されると、ボタンも使用可能に変わります。

オーバーレイボタンはどうやって削除できますか？

設定モードで、ボタンを右クリックして、**削除**を選択します。

オーバーレイボタンは、エクスポートしたビデオでも表示されますか？

いいえ。ビデオをエクスポート 『24ページの"XProtect Smart Client のウィンドウ"参照』する場合、オーバーレイボタンはエクスポートには含まれません。

カメラ

以下の機能の一部は、特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』でしか使用

できません。

ビューにカメラを追加する

1. 設定モードで、カメラを追加するビューを選択します。
2. **概要**ペインで、該当するサーバー■を展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。
多くの場合、一つのサーバーしか表示されませんが、大規模な監視システムと接続されている場合は、複数のサーバーの階層構造が表示されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。
3. リストからカメラを選択し、ビューで追加する位置までドラッグします。
接続が確立されていれば、そのカメラの映像が選択した位置に表示されます。接続が確立されていない場合は、カメラの名前だけが表示されます。

ヒント：画像の一部が黒く表示されるのは、**プライバシーマスク** 『107ページ』が使用されているからです。

プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます 『49ページの"カメラ設定"参照』。

ビューで使用するすべてのカメラについて同様に設定します。

ヒント：複数のカメラを一度にビューに追加するには、(たとえば、サーバーのカメラフォルダにあるすべてのカメラ)、フォルダをビューにドラッグするだけです。この場合、選択した位置から自動的にすべてのカメラがビューに追加されます。すべてを表示するのに十分な数の位置がビューにあることを確認してください。

ヒント：別のカメラを位置にドラッグすることで、使用するビューに含まれるカメラを簡単に変更できます。

カメラ名と色のインジケータ

設定されている場合(設定 モードのプロパティペイン 『49ページの"カメラ設定"参照』で)、タイトルバーにカメラ名が表示されます。再生タブからビデオが再生されているときは、再生されているビデオの日時もバーに表示されます。ビューでカメラを選択すると、カメラのタイトルバーの色が変わります。



カメラのタイトルバーには、ライブビデオを再生している場合は**ライブ**、カメラからのビデオを録画している場合は**録画**、カメラからのフィードがなく、ライブ表示できない場合は**停止**が表示されます。一日のうち特定の時間だけ使用できるよう設定されていたり、カメラやネットワークがメンテナンス中であったり、監視システムサーバーで設定が変更された場合など、さまざまな理由でカメラが動作

しない場合があります。すべてのカメラで**停止**と表示された場合は、監視システムサーバーへの接続が切断された可能性があります。

各タイトルバーには最大**3色**のインジケータがあります。

タイトルバーやインジケータ 『87ページの"アプリケーションのオプション"参照』は、**オプションウインドウ**で設定できます。

- **イベントインジケータ**(黄色のインジケータ■):監視システムの管理者が定義した特定のイベントが発生すると点灯します。画像の内側をクリックすると、イベントインジケータがリセットされます。このインジケータは、カメラに対してイベント通知が指定されていない場合や、指定されたイベントが発生していない場合は、黒になります。

注意: この機能は、特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用可能であり、イベントの通知がサーバーで設定されている必要があります。

- **モーションインジケータ** (赤色のインジケータ■): モーションを検知すると点灯します。画像の内側をクリックすると、モーションインジケータがリセットされます。このインジケータは、モーションが何も検知されていない場合は黒になります。
- **ビデオインジケータ** (点滅する緑色のインジケータ■):カメラから新しい画像を受信するたびに変わります。このインジケータはオフにすることができます。

ヒント: イベント(●)およびモーション(■)インジケータは、音声による通知 『56ページの"音による通知"参照』と組み合わせることができます。

仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイボタン

ビューに魚眼カメラや魚眼レンズや PTZ デバイス 『103ページの"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』が含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示される PTZ ナビゲーションボタンをクリックして、画像をナビゲートすることができます。



仮想ジョイスティック



PTZ オーバーレイ

ヒント: マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、**CTRL** キーを押したまま、マウスを動かします。

カメラ設定

プロパティペインの**設定**モードで、選択したカメラのプロパティを表示、編集することができます (ビューで、選択したカメラは太い枠線で示されます)。

名前	説明
カメラ名	<p>選択したカメラの名前を表示します。</p> <p>カメラを変更するには、省略記号ボタンをクリックしてカメラの選択ダイアログを開き、別のカメラを選択します。カメラのみを変更し、設定は保持する場合、この方法が便利です。</p>
ライブストリーム	<p>使用可能である場合は、ビューに表示するライブストリームを選択します。サーバーで複数のストリームが設定されている場合、デフォルトまたは使用可能なストリームオプションのいずれかを使用できます。デフォルト以外のオプションを選択する場合、画質またはフレームレート設定を変更できません。</p>

名前	説明
画質	<p>再生されるビデオ画質だけでなく、帯域幅の使用にも影響します。XProtect Smart Client をインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。</p> <p>低画質を選択した場合、選択されたカメラのビデオは監視システムサーバー上でJPEG フォーマットへ再エンコードされてから、XProtect Smart Client へ送信されます。再エンコードには、次のような種類があります。</p> <p>フル：デフォルト設定。元のビデオと同じ画質であり、再エンコードはされません。</p> <p>高精細(メガピクセル用)：640 ピクセル(VGA)、25%の JPEG 品質レベルの出力用に再エンコードされています。</p> <p>高：320 ピクセル(QVGA)、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>中：200 ピクセル、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>低：160 ピクセル、20%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。□</p> <p>高さは、元のビデオの幅と縦横比に合わせてリサイズされます。</p> <p>ここで選択した画質は、ライブビデオだけでなく録画されたビデオにも適用され、JPEG だけでなく MPEG にも適用されます。ただし、ライブビデオを見ている場合はキーフレームだけが再エンコードされ、録画済みのビデオを見ている場合はすべてのフレームが再エンコードされます。</p> <p>使用する帯域幅を制限するために低めの画質を使用している場合、画像を再エンコードする必要があるため、監視システムサーバーでより多くのリソースを使用します。</p> <p>ヒント：ビューにあるカメラの帯域幅使用レベルをすばやく低減させるには、1つのカメラの画質を低くしてからすべての適用ボタンをクリックします。</p>
最大画面で画質を保持	<p>ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、特定のビュー内の他のカメラの位置をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、デフォルトでカメラのビデオが最高の画質で表示されます。</p> <p>選択した画質設定が拡大表示中にも適用されるようにするには、画質設定のすぐ下にある最大画面で画質を保持ボックスをオンにしてください。</p>

名前	説明
フレーム レート	<p>選択したカメラのフレームレートを選択できます。無制限 (デフォルト)、中、または低のいずれかを選択してください。選択するフレームレートと監視システムの設定方法の組み合わせ 『55 ページの"フレームレートの効果について"参照 』により、ビデオの画質が異なります。</p>
PTZ クリックモード	<p>使用している PTZ カメラに対するデフォルトの PTZ クリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルト PTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。</p>
魚眼分割モード	<p>選択したカメラが魚眼カメラの場合にのみ使用できます。魚眼パノラマ画像を作成、表示できる魚眼レンズテクノロジーです。XProtect Smart Client は、1 台の魚眼レンズカメラからの最高 4 つの異なるビューポイントに対応しています。魚眼分割モード のリストを使って、使用する分割モードを選択します：</p> <p>分割なしではビューポイントが 1 つ表示されます。</p> <p>2 つずつでは、同時に 4 つの異なるビューポイントを表示します。</p> <p>XProtect Smart Client のタブのいずれかで表示しても、魚眼レンズカメラは同じ画像の 1 つまたは 4 つのビューポイントで、指定された通りに表示されます。</p> <p>ヒント:魚眼レンズカメラから異なるビューポイントを表示している場合、各ビューポイントの内側をクリックするか、カメラツールバーの PTZ プリセットメニューを使用して、各ビューポイントを個別にナビゲートできます。</p>
縦横比を維持	<p>選択すると、カメラポジションのサイズに合わせてビデオが引き伸ばされることはありません。ビデオは録画された時の縦横比 (高さ と 幅 の関係) で表示されます。</p> <p>この場合、カメラによっては、画像の周囲に縦または横向きの黒いバーが表示されることがあります。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオはビューの位置に合わせてリサイズされるため若干歪む場合がありますが、ビデオのまわりに黒い棒は表示されません。</p>

名前	説明
モーションで更新	<p>このオプションを選択すると、モーションを検知したときのみ、選択されたカメラのビデオが XProtect Smart Client のライブタブで更新されます。カメラのモーション検知感度（監視システムサーバーで設定）によっては、CPU の使用量を大幅に減らすことができます。</p> <p>モーションを感知したときだけビデオを更新するように設定すると、モーションが感知されるまで、カメラのビューの位置に静止画像と一緒に「モーションなし」というメッセージが表示されます。静止画像は灰色でオーバーレイされるので、どのカメラで動きがないかが簡単に識別できます。</p>
モーション検知で音を鳴らす	<p>カメラからのビデオをライブタブで表示している場合、モーションを検知した際に音で通知を受けることができます。</p> <p>カメラのビデオが実際に XProtect Smart Client に表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。</p> <p>常にオフ: モーションを検知しても音声による通知を使用しません。</p> <p>常にオン: カメラがモーションを検知するたびに音声による通知を実行します。</p>
イベント発生時に音を鳴らす	<p>この機能を使用するには、イベント通知が監視システムサーバーで設定されていなければなりません。</p> <p>カメラのビデオが実際に XProtect Smart Client に表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。</p> <p>カメラからのビデオをライブタブで再生している場合、選択したカメラに関連するイベントが発生したときに、音で通知を受けることができます。</p> <p>常にオフ: カメラに関連するイベントが発生しても音声による通知を実行しません。</p> <p>常にオン: カメラに関連するイベントが発生するたびに音声による通知を実行します。</p>

名前	説明
表示設定	<p>デフォルトの表示設定を使用する:オプションダイアログで定義されるように、デフォルトの設定を使用して、選択したカメラのタイトルバーやビデオインジケータを表示します。選択したカメラをデフォルトの設定以外で動作させたい場合は、チェックボックスをオフにして、希望するタイトルバーおよびビデオインジケータを選択します。</p> <p>タイトルバーの表示:各カメラ位置の最上部にタイトルバーが表示されます。タイトルバーにより、ユーザーはカメラを簡単に識別できます。ライブタブに表示されるタイトルバーには、さらに、検知したモーションやイベント、カメラが録画しているかなどについての情報が表示されます。カメラ名と色のインジケータ『48ページ』も参照してください。□</p> <p>注意:タイトルバーを表示しないことを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。</p> <p>ビデオインジケータの表示:タイトルバーの表示を選択している必要があります。ライブタブに表示される場合は、タイトルバーに緑色のインジケータ■が点滅します。インジケータの状態は、カメラから新しい画像を受信するたびに変更され、ビデオがライブであることを簡単に認識できます。多くの場合、ビデオ自体からライブであることが分かりますが、カメラのビューエリアで何も起こっていない場合に、ビデオインジケータが有用です。</p>

名前	説明
ビデオバッファ	<p>プロパティペインのこの部分は表示されません。表示するには、オプションウィンドウの『86ページの"XProtect Smart Client オプション"参照』機能タブに移動して、設定 > ビデオバッファリングの編集が利用可能に設定されていることを確認します。</p> <p>ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを構築できます。</p> <p>可能であれば、ビデオバッファの使用は避けてください。ビデオバッファによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用を大幅に増加できます。ビデオバッファを使用しない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。</p> <p>ライブビデオをバッファに保存すると、ジッターなく滑らかに表示されますが、バッファを構築することでライブビデオの再生にわずかな遅延が生じます。多くの場合、この遅延は、ビデオで人を見るには問題になりません。ただし、カメラがパン/チルト/ズーム (PTZ) カメラであり、ジョイスティックを使用してカメラを操作している場合は遅延していることが明らかになります。</p> <p>ビデオバッファの量を制御できるため、ライブビデオを滑らかに再生することを優先するか (バッファが必要で、わずかな遅延が生じます)、即時 PTZ およびジョイスティック操作を優先するか (バッファを必要としませんが、バッファを使用しないためにライブビデオにわずかにジッターが生じることがあります) を選択できます。</p> <p>ビデオバッファを使用する場合、デフォルトのビデオバッファを使用を選択し、次に必要なバッファを2フレームから2秒の間で選択します。</p>
すべてに適用	<p>すべてに適用ボタンを使って、選択したカメラに対する設定内容をビューにあるすべてのカメラに対して簡単に適用できます。</p>

フレームレートの効果について

フレームレートの選択の効果は以下の通りです：

効果	無制限	中	低
JPEG	すべてのフレームを送信	4 フレームおきに送信	20 フレームおきに送信
MPEG (I フレーム) H.264	すべてのフレームを送信	すべてのフレームを送信	すべてのフレームを送信

効果	無制限	中	低
MPEG(P フレーム) H.264	すべてのフレームを送信	フレームの送信なし 一部のフレームを送信しない	フレームの送信なし 一部のフレームを送信しない

例：お使いの XProtect Smart Client でフレームレートオプションを**低**に設定しており、監視システム管理者がカメラが1秒あたり20フレームのフレームレートでJPEG画像をフィードするよう設定した場合、カメラからのビデオを表示すると1秒あたり平均1フレームで表示されます。管理者がカメラを1秒あたり4フレームの低いフィードに設定し、お使いの XProtect Smart Client でフレームレートを**低**に設定している場合、画面自動切替でカメラのビデオを表示すると1秒あたり平均0.2フレームで表示されます。

キーボードショートカットおよびオーバーレイボタン

使用している監視システム『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』によって、カスタムキーボードショートカット『86ページの"XProtect Smart Client オプション"参照』やオーバーレイボタン『39ページの"ビュー"参照』を割り当て、ビューの中でのカメラの位置に対する補助コマンド(カメラによって定義されるコマンド)を起動することができます。補助コマンドはカメラごとに異なります。詳細については、カメラのマニュアルをご覧ください。

音による通知

使用している XProtect Smart Client で、次の状態が発生すると音声による通知を受信するよう設定されている場合があります。

- 1台または複数の指定されたカメラでモーションが検知された場合
- または -

- 1台または複数の指定されたカメラに関連するイベント『132ページ』が発生した場合
音声による通知が聞こえたら、特別な注意が必要です。組織内で、音声による通知が使用されているかどうか、またその用法については、監視システムの管理者までお問い合わせください。特定のカメラからの音声による通知を一時的に消音することができます：カメラのツールバーで、**詳細 > 音声による通知 > 消音**の順にクリックします。

XProtect Smart Client ウィンドウを最小化すると、音声による通知は無効になります。

カメラからの音声による通知を有効に戻すには、再度**詳細 > 音声による通知 > 消音**の順にクリックします。

音声による通知を消音する機能は、ホットスポット『76ページ』、自動切替『81ページの"画面自動切替"参照』、または Matrix『84ページ』位置では使用できません。

よくある質問：カメラ

音声による通知は頻繁に実行されますか？

常にオンを選択している場合、モーションを感知したことを知らせる音声通知は、そのカメラに対して設定されているモーション検知の感度によって頻度を設定できます。モーション検知の感度を高く設定すると、非常に頻繁に通知を受けることもあります。カメラのモーション検知感度は監視システムサーバーで設定します。複数のカメラに対して音声による通知を設定すると、より頻繁に通知を受ける可能性があります、これもカメラに設定されている感度によって異なります。

ジッターとは何ですか？

ジッターは、ビデオにおける小さな変動であり、見ている人は、たとえば、歩行中の人物などの異常な動きとして認識します。

イベントとは何ですか？

イベントは、監視システム上で発生する、あらかじめ定義されたインシデントです。監視システムの設定によっては、カメラに接続された外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによってイベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントは、**アクション**をトリガするために監視システムによって使用されます。通常、監視システム上の大部分のイベントは自動的に生成されます。たとえば、検知されたモーションをイベントとして定義し、録画などのアクションをトリガできます。

通知音を変更することはできますか？

デフォルトでは、XProtect Smart Client は音声による通知に単純なサウンドファイルを使用しています。このサウンドファイルの名前は **Notification.wav** で、XProtect Smart Client のインストールフォルダ (通常は **C:\Program Files\Milestone\Milestone XProtect Smart Client**) にあります。別の .wav ファイルを通知音として使用する場合は、そのファイルの名前を **Notification.wav** に変更して、XProtect Smart Client のインストールファイルにある元のファイルと置き換えてください。**Notification.wav** ファイルは、モーション検知の通知以外のイベントでも使用されます。カメラによって音を変えたり、イベントとモーション検知の通知に異なる音を使用することはできません。

音声

特定の音声機能に対するサポートはシステムによって異なります 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』。録音された音声や特定の録音された音声機能へのアクセスは、ユーザー権限に応じて制限されている場合があります。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

音声について

XProtect Smart Client は、入力音声と出力音声の両方に対応しています。カメラ付属のマイクからライブ録音を聞くことができるだけでなく、カメラに接続されたラウドスピーカーを通して話すことも可能です。録画済みのビデオを再生する場合、カメラにマイクまたはスピーカーが付いていれば、対応する音声を聞くことができます。カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクまたはスピーカーもデフォルトで選択されます。

ヒント：ビューにマップが含まれている場合は、これらのマップにマイクまたはスピーカーが含まれることがあります。この場合、関連するマイクやスピーカーエレメントをクリックするだけで、音声を聞くことができます。音声を聞いたり話す間はマウスボタンを押したままにします。

音声設定

ヒント：現在表示しているビューやカメラと関係なく、録音した音声を聞くことができます。再生タブのナビゲーション機能で時間を指定して、どの録音音声を聞くか指定する必要があります。

名前	説明
マイク	<p>音声を聞くマイクを選択します。</p> <p>マイクのリストにマイク（ハードウェア）なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにマイクソースなしと表示された場合は、カメラに付いているマイクが使用できないことを意味します。</p>
消音	<p>選択すると、マイクまたはスピーカーを消音します(スピーカーの消音は再生タブでのみ可能です)。</p>
スピーカー	<p>話すスピーカーを選択します。</p> <p>スピーカーのリストにスピーカー（ハードウェア）なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにスピーカーソースなしと表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。</p> <p>監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(それらにアクセスするために必要な権限がある場合)、スピーカーのリストですべてのスピーカーを選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。</p>
話す	<p>クリックして、話す間だけマウスボタンを押したままにします。</p>
レベルメーター	<p>レベルメーターは、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクにもっと近づくか、Windows で音声設定を調整する必要があります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。</p>
選択した音声デバイスにロック	<p>カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクまたはスピーカーもデフォルトで選択されます。ただし、再生しているカメラに関わらず、特定のカメラの音声を聞きたい場合は、選択した音声デバイスにロックを選択することができます。</p> <p>例：犯罪の被害者に対して、カメラ A に付いているマイクとスピーカーを通して話を聞き、話しかける必要があるにも関わらず、カメラ X、カメラ Y、およびカメラ Z を至急確認する必要があります。そして、これらのカメラの一部は別のビューの位置に表示されています。選択した音声デバイスにロックを選択して、カメラ A で被害者と話をすると同時に別のカメラを見ることができます。</p>

名前	説明
現在のビューのデバイスのみをリスト	<p>使用している監視システムに多数のマイクやスピーカーがある場合、音声ペインで選択するマイクおよびスピーカーのリストは、非常に長くなることがあります。これを避けるために、現在のビューのデバイスのみをリストを選択して、現在使用しているビューに関連するマイクおよびスピーカーのみが含まれるように、リストを制限することができます。</p> <p>この場合、現在のビューには、フロートビューとして開いているビュー、および一次、セカンダリディスプレイのビューも含まれることに注意してください 『82ページの"マルチウィンドウ"参照』。</p>

相手と話す

重要： 監視システムは、ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクからの入力音声を録音することができます。ただし、カメラに付いているスピーカーを通して出力される音声は、特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』でのみ録音されます。

カメラに付いているスピーカーを通して相手に話しかけるには、**3つの方法**があります。音声ペインを使用するか、オーバーレイボタンを使用するか、マップのスピーカー機能を使用します。

スピーカーを通して話す

1. [ライブ]タブの[音声]ペインの[スピーカー]で、[音声出力]のリストから関連するスピーカーを選択します。スピーカーの設定に関する固有の情報については、音声設定 『57ページ』を参照してください。

ヒント： 監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(さらに、必要な権限がある場合)、[すべてのスピーカー]を選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。

または、ビューの位置にオーバーレイボタンがあるか、マップにスピーカーエレメントがある場合、これらをクリックすることができます。

2. 話している間は会話ボタンを押したままにします。話している間ボタンを押したままにしておくと、スピーカーを通して実際に出力される内容を完全にコントロールできます。

よくある質問：音声

なぜスピーカーリストを使用できないのですか？

監視システムによっては、双方向音声に対応していないものもあります。

カメラに接続しているマイクの録音音量を調整することはできますか？

この機能は、XProtect Smart Clientにはありません。ただし、マイク、あるいはマイクが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って録音音量を調整することができます。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

カメラに接続しているスピーカーの出力音量を調整することはできますか？

この機能は、XProtect Smart Clientにはありません。ただし、音声ペインのレベルメーターで入力レ

ベルを確認できるので、出力レベルを推測できます。

スピーカー、あるいはスピーカーが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って出力音量を調整することができます。Windows で、音声設定を調整することも可能です。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

他の XProtect Smart Client ユーザーはスピーカーを通して会話を聞くことができますか？

概して、XProtect Smart Client ユーザーはスピーカーを通して話しかけている声を聞くことはできません。ただし、話しかけているスピーカーの近くにマイクがあれば、聞くことができます。

同時に複数のスピーカーを通して話すことはできますか？

はい。監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており（それらにアクセスするために必要な権限がある場合）、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。音声ペインのスピーカーリストで、すべてのスピーカーを選択し、会話ボタンを押したまま話します。

音声ペインで[現在のビューのデバイスのみをリスト]を選択している場合は、[すべてのスピーカー]は表示されません。

カメラに付いているマイクの音声は録音されますか？

ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクから入ってくる音声を録音します。

スピーカーを通して話したことは録音されますか？

監視システムは、ビデオを録画していなくても、マイクから入ってくる音声を録音できます。ただし、スピーカーを通して送信される出力音声は特定の監視システムでしか録音、再生、エクスポートできません。

そのため、使用する監視システムによっては、たとえば、録音を使用して、XProtect Smart Client のオペレータがスピーカーを通して相手に特定の指示を与えたことを証明できる場合があります。

スピーカーを通して話す場合、自分の声の音声レベルは表示されますか？

はい。音声ペインのレベルメーターが、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクに近づく必要があることがあります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。

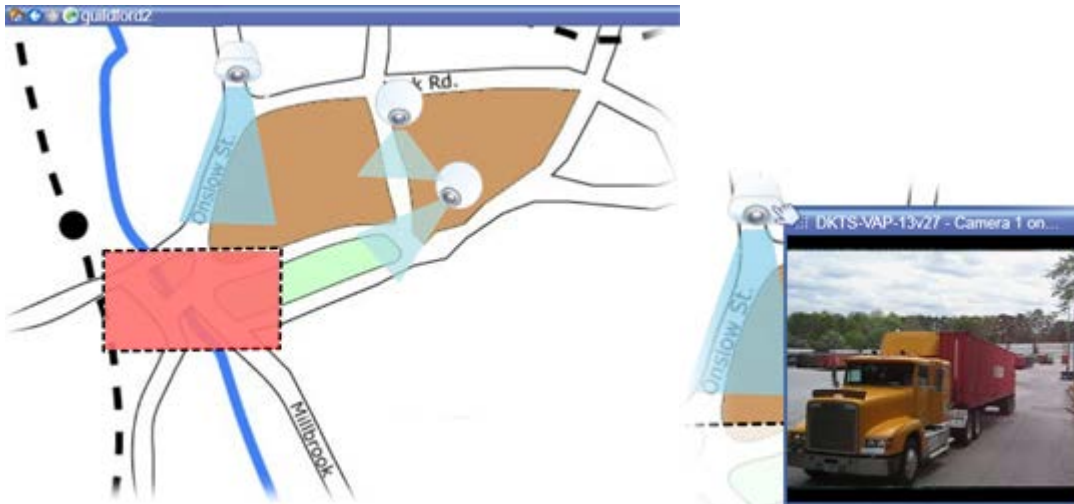
マップ

マップの概要

マップ機能は、一部の監視システム『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できません。マップ位置にはライブビデオは再生されません。マップは常に静止画像です。

マップで、監視システムの物理的概観を把握できます。どのカメラがどこに配置されているか、どちらの方向を指しているかをすぐに確認できます。マップはナビゲーションに使用できます。マップは階層にグループ分けすることができます。これにより、大きな視点から詳細な視点へ(たとえば、市レベルから町村レベルへ、建物レベルから部屋レベルへなど)と、ホットゾーンを掘り下げることができます。

マップには通常、カメラ、マイクなどを示すエレメントが含まれています。マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオ『70ページの"マップのカメラから録画されたビデオを表示"参照』をプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、記録されたデータを基にして生成されたものではなく、ライブモードで再生されるものと同様、エレメントの現在のステータスから取得されていることに注意してください。



カメラエレメントおよびホットゾーンを含むマップ

ヒント： マップは、多くの場合、地理的なマップですが、そうである必要はありません。組織のニーズによって異なりますが、写真およびその他の種類の画像ファイルもマップとして使用できます。

エレメントとマップの関係

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイスを操作できます：

カメラ

マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーをクリックすると、別のフローティングウィンドウに表示します。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**#分間録画を開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カメラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要がありますことに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。

PTZカメラは、監視システムのカメラに対して定義されているPTZプリセットを使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要がありますことに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、**エレメントの選択**ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットをクリックするだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポット位置『76ページの"ホットスポット"参照』で、機能します。または、カメラを右クリックし、**PTZプリセット**を選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。または、マイクを右クリックし、**マイクの使用**を選択します。再生モードのマップビ

ユーでマイクを使用することはできません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モードのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

マップにあるイベント 『127ページの"アラーム"参照』 をクリックすると有効化されます。または、イベントを右クリックし、**イベントの有効化**を選択します。イベントを左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、イベントが起動中であることを示します。

アラーム

マップにあるアラーム 『127ページの"アラーム"参照』 をクリックして表示するか、イベントを右クリックし、**アラームを有効化する**を選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力をクリックすると有効化されます。または、出力を右クリックし、**出力の有効化**を選択します。出力を左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移行するには、ホットゾーンをクリックします。または、必要なホットゾーンを右クリックし、**サブマップへ移行**を選択します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。

監視システムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンをクリックした時に、サーバーが使用できないためにサブマップが使用できないことがあることを意味します。サーバーが使用できない理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場合、**XProtect Smart Client**によってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいているため、以前にアクセスできたマップにアクセスできない場合もあります。これは、1日の特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性があります。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

プラグイン






プラグインエレメントは、監視システムで使用されている場合にのみ使用できます。プラグインエレメントの例：アクセスコントロールシステム、火災検知システムなど。

内部接続されたハードウェア

Milestone Interconnect システムの一部の内部接続されたハードウェアはオフラインのことがあるため、内部接続されたハードウェア要素のエラーステータスが頻繁にマップに表示される場合があります。

ステータス可視化

ステータス可視化は、マップに追加されたエレメントのステータスをグラフィックに表示する機能です。マップが完全に使用でき正常な状態にある場合、視覚的なステータス表示はありません。ステータス可視化ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

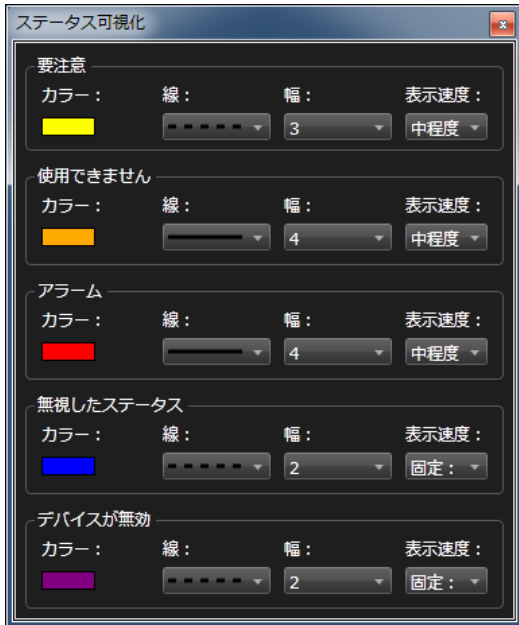
	<p>要注意—エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの空き容量がなくなっている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないことに注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。</p>
	<p>使用できません—エレメントにエラーがある場合(たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに接続できない場合)。デフォルトの表示色はオレンジ色です。</p>
	<p>アラーム—エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。</p>
	<p>無効/ステータス不明—エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステータス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。</p>
	<p>ステータスを無視する—エレメントのステータスが対応を必要としない場合(たとえば、すでに何が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。</p>

マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、最高 4 つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに**無効なエレメント**しか含まれていない場合でも、マップに**使用できません**状態が表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップには単純に**無効/ステータス不明と表示**されます。ステータス情報については、**マップ概要**も参照してください。



ステータスが表示されたマップの例
ステータス表示の外観の変更

1. 設定モードで、マップを選択します。マップを右クリックして、**ステータス表示**を選択します。




2. ステータス可視化ウィンドウで、色ボックスをクリックして色の選択ツールを起動し、ステータス可視化線に必要な色を選択し、色ボックスをもう 1 度クリックして、選択した色で色ボックスを塗りつぶします。
3. 線のリストから線の書式を選択します。
4. 幅のリストから線の太さを選択します。
5. ステータス可視化がどれくらいの速さで点滅するかを設定します。表示速度リストから速度を選択します。
6. プロパティペインで、ステータス可視化を選択して、ライブモードでのステータス可視化を有効にします。

ヒント：ステータス可視化はすべてのマップに適用されるため、各マップのステータス可視化の外観を個別に定義する必要はありません。

多くのマップがある大規模な監視システムに接続している場合、ステータス設定の読み込みと適切な表示に時間がかかる場合があります。複雑なシステムでは、ステータス可視化が適切に更新されるまで、30 秒以上かかることがあります。

マップ設定

設定モードで、プロパティペインを使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	説明
ホームマップ	特定のマップビューの基本を構成するマップを表示します。このフィールドは読み取り専用ですが、選択ボタン  をクリックすると、マップ設定ウィンドウが開いて、マップを変更できます。
背景を変更	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。














名前	説明
マップの名前変更	マップ名を編集します。
アイコンサイズ	アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
名前を表示	名前チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示するかどうかを有効化または無効化できます。 ヒント: マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、 名前 を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、 テキストの削除 を選択します。アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
パンとズームを許可	選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。
マップを自動最大化	選択すると、タイムアウトに定義されている秒数の間、XProtect Smart Client が使用されないと、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最大秒数は99,999秒です。
マウスオーバー時	選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示します。
デフォルトの表示設定を使用する	選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。このチェックボックスをオフにすると、プレビューの タイトルバー および ビデオインジケータ の設定ができます。 タイトルバー: 選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。 ビデオインジケータ: 選択すると、ビデオインジケータ 『48ページの"カメラ名と色のインジケータ"参照』が表示され、画像が更新されるたびに緑色に点滅します。 ビデオインジケータ を選択できるのは、 タイトルバー も選択した場合のみです。
ステータス可視化	選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図示 『63ページの"ステータス可視化"参照』 されます。
詳細ステータスサポートを有効化	オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを表示できます。

名前	説明
アラームでマップを自動的に変更する	選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するときに、プレビューのマップを自動的に変更できます。
上に重ねた場合にのみ表示	カメラ、ビューゾーン、またはプリセット上にマウスを動かしたときにのみ、カメラビューゾーンと PTZ プリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複していたり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトでは、ビューゾーンとプリセットを表示します。

ツールボックス

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。**カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント**、または**出力**のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した**エレメントの選択**ウィンドウが表示され、エレメントをマップに配置できます。

ツールボックスのアイコン

	カメラ	
	サーバー	
	マイク	カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、内部接続されたハードウェア、または出力 を選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した エレメントの選択 が表示され、エレメントをマップに配置できます。
	スピーカー	
	イベント	
	出力	
	内部接続されたハードウェア	
	ホットゾーン	
	テキスト	テキストツールが開き、マップに編集可能なテキストボックスを配置できます。
	プラグイン	プラグイン(所属する組織で使用されている場合)が一覧表示された エレメントの選択 が開き、マップにプラグインエレメントを配置できます。
	カラーピッカー	色の選択ツールが開き、カラーピッカーがアクティブ化されて、マップにすでにある色を使用できます。
	色の塗りつぶし	色の選択ツールが開き、テキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変更できます。
	選択ツール	選択ツールがアクティブ化され、マップにあるエレメントを選択して、マップをパンおよびズームすることができます。



マップ概要 マップ概要が開き、異なるマップ間を移動できます。

右クリックメニュー

設定タブでマップまたはマップの要素を右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできます。

右クリックコマンド

ショートカットメニューの内容は、右クリックしたマップの要素によって異なります。マップを設定モードで表示している場合には、ショートカットメニューから他の機能を利用することもできます。

- **削除 [...]:** 選択した要素またはマップを削除できます。
- **マップの中心をここに設定:** クリックした位置が中心になるようにマップの位置を合わせます。
- **ズームイン**
- **ズームアウト**
- **標準サイズへズーム:** 設定されている標準サイズにマップを拡大します。
- **ホーム:** 簡単にホームマップへジャンプできます。
- **巻戻し:** 前のマップに簡単に戻れます。
- **早送り:** このセッションで以前に表示したマップに簡単に移動できます。
- **(PTZ カメラのプリセットから) プリセットへ移動 [プリセット]:** 事前に定義されたプリセットにカメラを設定できます。
- **(カメラから) ライブプレビュー:** 選択したカメラのライブプレビューを確認できます。
- **(カメラから) ビューゾーン:** カメラのビューアングルを示す、固定カメラのビューゾーンのオン、オフを切り替えることができます。


マップを右クリックしたときに表示されるショートカットメニューは、次のような他の機能も表示します。たとえば、ホームマップの設定、ツールボックス、マップ概要、要素の選択、フロントの選択、色の選択、およびステータス可視化。

個々の要素 『61ページの"要素とマップの関係"参照』ショートカットメニューには、他のコンテンツがある場合もあります。

一般的な右クリックメニュー項目に加えて、イベントおよび出力の右クリックメニューにも **アイコンタイプの選択機能**があり、イベントアイコンまたは出力アイコンを、ランプ、ドア、ゲートまたはスイッチのどれで表示するかを選択できます。イベント/出力アイコンを、実際のイベント/出力により適したものに変更することで、ユーザーはマップの実際のコンテンツの概要を、より簡単に把握できます。

詳細ステータスを表示するには、必要な要素を右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、別個のフローティングウィンドウに表示されます。

マップ概要ウィンドウ

マップ概要ウィンドウは、XProtect Smart Client で設定されたマップ階層の概要を示します。マップ概要ウィンドウを開くには、マップを右クリックし、**マップ概要**を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコン  をクリックします。

マップ名の横に **+** 記号が付いている場合は、マップに **1** つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていることを示します。マップ概要のマップをクリックすると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。

多数のマップを含む大規模な監視システムに接続している場合、**マップ概要**のコンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。

マップの操作

Milestone Federated Architecture をサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけになります。Milestone Federated Architecture は、関連していても物理的には別である監視システムの親/子の設定です。たとえば、多数の別個の(ただし関連している)監視システムのある店舗チェーンがこのような関係に該当します。


ビューにマップを追加する

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. 設定モード中**システム概要**ペインからビューの必要な位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のどちらかを選択します。
マップ名の横の三角形は、マップに1つまたは複数のサブマップがあり、関連するサブマップ(複数可)が追加されたすべてのエレメントと共に自動的に含まれることを示しています。
3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。
ヒント： **名前**フィールドを空白にしたまま**参照...**をクリックすると、**名前**フィールドに、選択した画像ファイルの画像ファイル名が自動的に入力されます。
4. **参照...**をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
6. **OK**をクリックします。

マップからフロートウィンドウへカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法(各ビューにつき最大 25 台)：

1. ライブタブまたは再生タブで、フロートウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。
2. マップのタイトルバーの上部で、**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**アイコンをクリックします。

フロートウィンドウでは、ビューに最大 25 台のカメラが表示されます。

マップに 26 台以上のカメラがある場合は、このボタンをクリックすると、表示されるカメラが常に同じカメラとは限りません。

マップの背景を変更する

マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティ**ペインで、**マップの背景を変更する**を選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、**マップを削除する**を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加されたエッセメントを含むマップ全体が削除されます。マップはビューから削除されるだけです。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

マップは**マップ概要**からも削除できます。

マップのエッセメントの追加と削除

1. 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、必要なエッセメントアイコンをクリックすると、**エッセメントの選択**ウィンドウが開きます。
3. フィルターを使用すると、必要なエッセメントを簡単に検索できます：検索条件を入力すると、検索条件に合わせて、表示されるエッセメントの一覧が絞られます。
4. エッセメントを選択し、マップにドラッグします。

ヒント：ツールボックスの選択ツールを使用して、エッセメントを選択し、マップで移動させるか、マップをパンします。

エッセメントの削除

エッセメントを削除するには、必要のないエッセメント(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マイク、またはスピーカー)を右クリックして、**削除[エッセメント]**を選択します。

エッセメントの移動

エッセメントを移動させるには、エッセメントをクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。

エッセメントの回転

エッセメントの方向を変えるには、エッセメントを選択し、エッセメントのサイズ変更ハンドルの 1 つの上へマウスを移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、エッセメントをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。




ヒント：マップが、マップ上のエッセメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを作成して、マップの上で見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエッセメントを追加し、それをテキストボックスにドラッグします。



マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームと PTZ コントロールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンをクリックしてデジタルズームを選択するか、表示される PTZ 『104ページの"PTZ 画像"参照』コントロールを使用します。特定のカメラで PTZ プリセットが設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択すると、プリセットが有効になります。
- フロントウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ (1つのビューに最大 25 台) を表示するには、マップのタイトルバーの上部にある**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**をクリックします。 

マップに 26 台以上のカメラがある場合は、このボタンをクリックすると、表示されるカメラが常に同じカメラではなくなります。

ホットゾーンをマップに追加

1. 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス 『66ページ』**を選択します。
2. ツールボックスで、ホットゾーンツールを選択します。



3. マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホットゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。



ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれる大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます。



ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。

4. ホットゾーンの開始点をクリックして、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホットゾーンに添付されていないことを示します。



ヒント: ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っばることで変更できます。

5. サブマップをホットゾーンに追加するには、点線で描かれたホットゾーンをダブルクリックして、**マップ設定**ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接するホットゾーンを区別できます。

Milestone Federated Architecture をサポートしている監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、技術的およびパフォーマンス上の理由から、ログインしているシステムとは異なる他の監視システムサーバーからのマップをポイントできる単一のマップに含まれるホットゾーンの最大数は 20 になります。ログインしているサーバーに属しているマップをポイントするホットゾーンには制限はありません。**Milestone Federated Architecture** は、関連しているが物理的には別である監視システムの親/子の設定です。たとえば、多数の別個の (ただし関連している) 監視システムのある店舗チェーンがこのような関係に該当します。

マップの要素の外観の変更

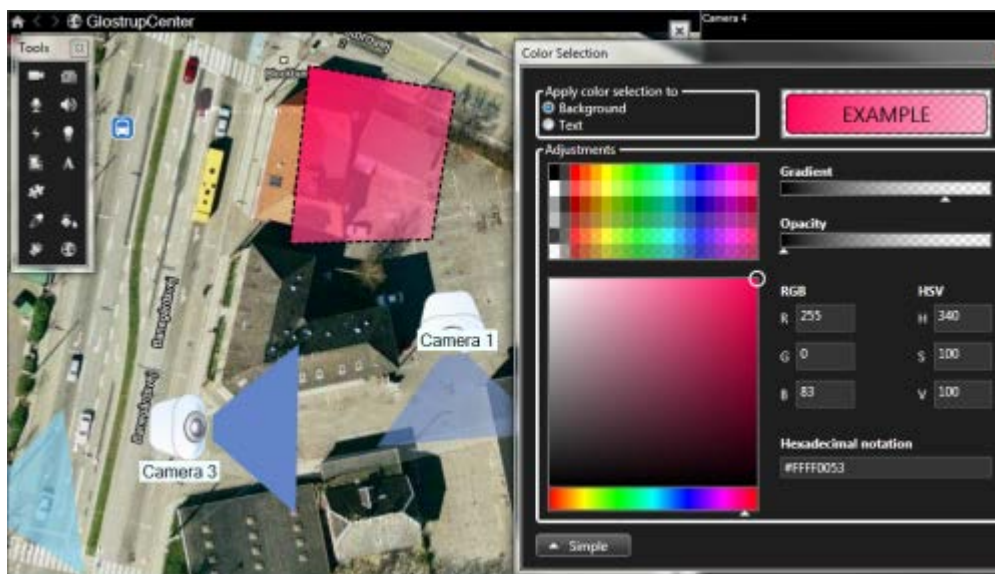
1. マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップ要素を互いに区別することができます。**設定モード**で、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. 変更する要素を選択します。
3. ツールボックスで、色塗りつぶしツールを選択します。これにより、**色の選択ウィンドウ**が開きます。
ヒント：カラーピッカーツールを使用して、マップから既存の色を選択します。
4. テキスト要素にのみ適用されます。色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。
5. カラーパレットから色を選択します。選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
6. マップ要素をクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、要素の色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、要素の色が即座に薄まります。左端にスライダーをドラッグすると、要素の色はほとんど薄まりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップ要素をクリックして、色と階調を適用します。

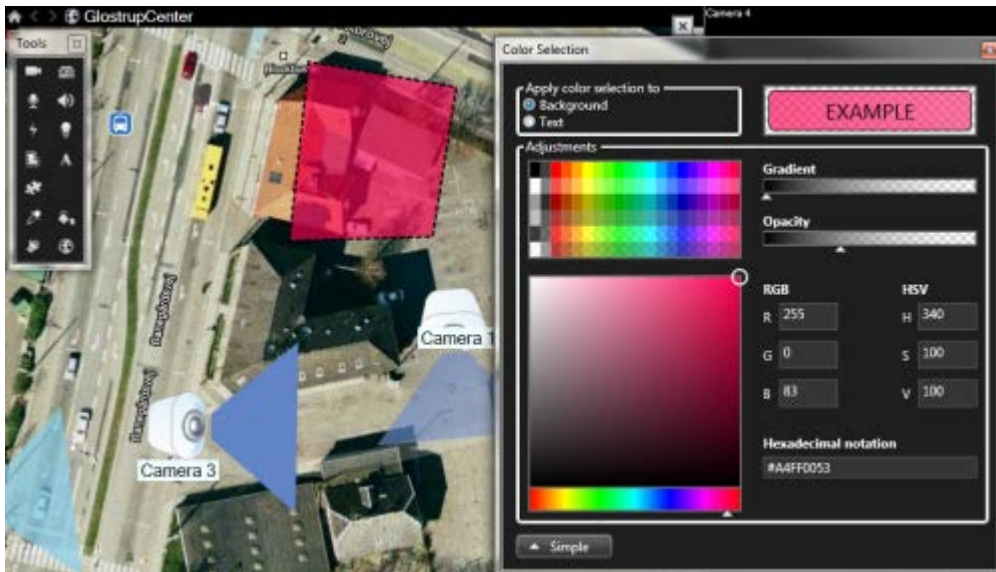


不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、**不透明度**スライダーを左端にドラッグすると色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。色の選択ウィンドウの詳細ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。

色スライダーを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。

- または -

16進表記フィールドに16進数の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。

ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエレメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の操作を実行します。

- ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。

マップのスペースを無駄にしないもう1つの方法として、ビューゾーンとPTZプリセットを重ねた場合にのみ表示『64ページの"マップ設定"参照』を選択することができます。

マップのテキストを追加/編集

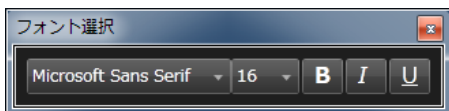
テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合など。

- 設定モードで、マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。

2. ツールボックスで、テキストツールを選択します。



3. フォントの選択ウィンドウで、テキスト設定を編集します。



ヒント: テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツールボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設定を変更します。

4. マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
5. テキストを入力します。キーボードの **ENTER** を押すと、テキストボックスが下方に拡張します。

ヒント: 色塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。

ヒント: テキストボックスは移動できます。選択ツールを選択し、マップにあるテキストボックスをつかみ、テキストボックスを移動します。

ステータス詳細の表示

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、および **FPS**)とサーバー(たとえば、**CPU** 使用率、メモリ、ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

- 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、別個のフローティングウィンドウに表示されます。

エラーメッセージ「イベントサービスのレコーディングサーバーへのアクセス権が不十分です」が表示された場合、レコーディングサーバーから詳細ステータスは表示できません。このエラーメッセージは、監視システムのマップ関連の通信を処理する、**Event Server** サービスに関係します。**Event Server** サービスは、監視システムサーバーで管理されます。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

ズームと自動最大化

マップが、XProtect Smart Client のビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マップをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をクリックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップをクリックしてパンし、任意の方向にマップをドラッグします。

- マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じて**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。または、**標準サイズへズーム**機能を使用して通常のサイズに戻します。

ヒント: または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズームインし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを**自動最大化**が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、設定モードで、**プロパティペイン**で指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元のビューに戻るには、追加されたエレメントの外側にあるマップの任意の場所をダブルクリックします。

よくある質問：マップ

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは？

マップには bmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、および wmp のフォーマットのファイルを使用できません。

画像ファイルサイズと解像度は、10 MB および 10 メガピクセル以下にすることを勧めます。大きな画像ファイルを使用すると、XProtect Smart Client のパフォーマンスが低下することがあります。20 MB または 20 メガピクセルまたはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoft の標準に従って、XProtect Smart Client に表示されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

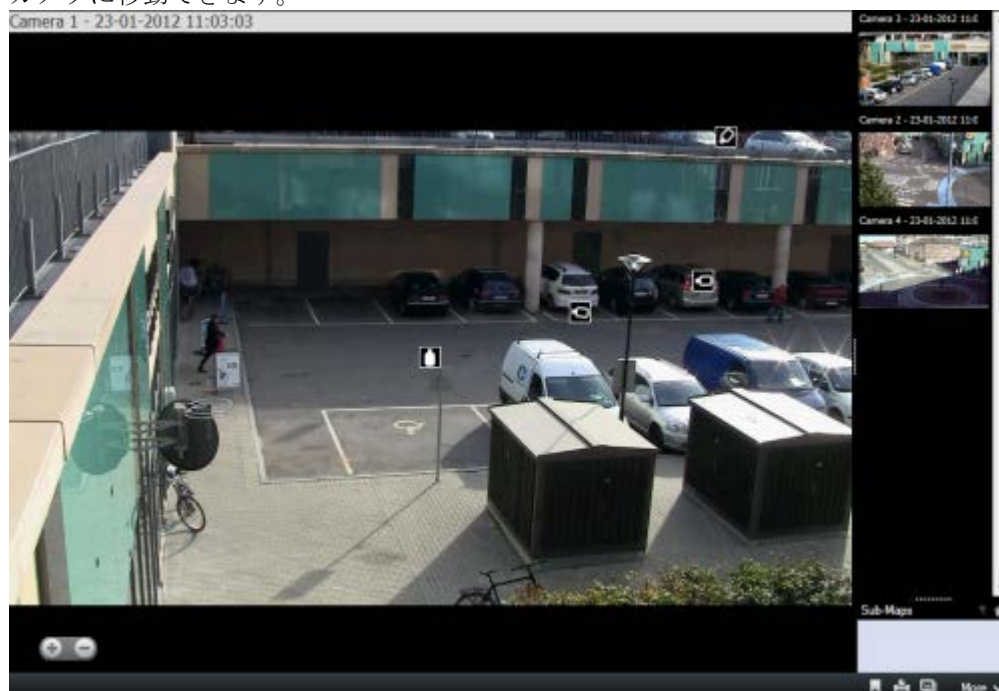
マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか？

はい。マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、プロパティペインで、マップの背景を変更するを選択します。

カメラナビゲータ

カメラナビゲータについて

カメラナビゲータにより、たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、複数のカメラの相対関係を表示して確認することができます。この機能は、1つのカメラから別のカメラに移動して対象(人、物)を追跡する場合、たとえば、容疑者の建物の周囲での動きを追跡するなどの場合に便利です。地図または間取り図に従ってカメラを設定することで、1つのビューから1つのカメラから次のカメラに移動できます。





ライブおよび再生タブでは、カメラナビゲータ ビューで現在のカメラからのビデオを再生すると同時

に、右側のペイン上で近接さに従って並び替えられて、近隣にあるすべてのカメラのサムネイルビューが表示されます。他のカメラをポイントすると、メインビューまたは右側のペインにカメラが赤い枠で囲まれて表示されます。カメラアイコンを直接クリックするか、右側のペインをクリックして、カメラを切り替えることができます。

ホットゾーンを通して相互に関連付けられている複数のマップに基づいてビューを定義することで、1つの階から別の階へ移動したり、建物から出て行く人物を追跡する場合のように、あるマップ上のカメラから、サブマップ上の別のカメラへ動きを追跡することができます。サブマップペインからは、マップのホットゾーンを通して関連づけられているマップに設定されたカメラにアクセスできます。1つのカメラから次のカメラをクリックすると、カメラプレビューペインの上のホームボタンの隣に戻るボタンが表示されます。これにより、前のカメラをクリックして選択したり、デフォルトのカメラビューに戻ることができます。またサブマップビューでは、上へをクリックして前のマップを表示したり、ホームでデフォルトビューを表示できます。

カメラナビゲータの設定

プロパティ 『49ページの"カメラ設定"参照』 ペインで、カメラナビゲータの設定を指定できます。

名前	説明
ホームマップとカメラ	カメラナビゲータが使用するマップとデフォルトのカメラを表示します。この設定を変更するには、  ボタンをクリックして、 ホームマップとカメラを選択する ウィンドウを開きます。
カメラインジケータの最大台数	メインビューに含めるカメラの最大台数を選択します。各カメラはカメラのアイコン  と共に表示されます。無制限の台数のカメラを表示することができます。

カメラから見た実際の視点を反映して、カメラの位置や方向を表示する場合は、**選択したカメラと関連**を選択します。

あるいは、

カメラの位置や方向に、常に上から見たマップのレイアウトを反映させる場合は、**マップに関連**を選択します。

現在選択されているカメラが常に中央に表示されます。プレビューペインに表示するカメラの最大台数を選択します。画面に表示されるカメラのみがシステムリソースを使用します。表示できるカメラの最大台数は 20 台です。

プレビューするカメラの台数が増えるほど、より多くのシステムリソースが必要になります。

カメラナビゲータを使用する

カメラナビゲータを使用する前に、マップを設定 『68ページの"ビューにマップを追加する"参照』し、そのマップにカメラを追加する必要があります。ビューにカメラナビゲータを追加 『75ページの"カメラナビゲータをビューに追加する"参照』すると、プロパティを定義 『75ページの"カメラナビゲータの設定"参照』して、カメラナビゲータでビューを表示する方法を定義できます。

カメラナビゲータをビューに追加する

1. 設定モードで、新しいビューを設定します。

カメラナビゲータを最大限に活用して、右側のペインにカメラビューを表示できるようにするには、1x1 ビューを選択してください。

2. システム概要ペインで、カメラナビゲータを選択して、ビューにドラッグします。
3. 表示されるホームマップとカメラの選択ウィンドウで、ナビゲーションに使用するマップを選択します。
4. カメラナビゲータを開くたびにデフォルトのカメラとして選択するカメラをクリックして、OK をクリックします。


ホットスポット

ホットスポットについて


ホットスポットでは、ビューの専用の位置で選択したカメラからの拡大表示/高画質ビデオを表示できます。ホットスポットは、ビューの通常位置にあるカメラで低画質や低フレームレートを使用でき、ホットスポットで高画質や高フレームレートを使用できるので便利です。これによって、リモート接続の帯域幅を節減できます。

以下の2種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット。カメラがメインウィンドウかセカンダリディスプレイかに関係なく、選択されたカメラを表示します。
- ローカルホットスポット。ローカルディスプレイの選択されたカメラのみを表示します。

1+7 ビュー内の大きなカメラ位置などビュー内の広い方の位置にホットスポットを配置することをお勧めします。 


ビュー内の位置にホットスポットがあると、以下ようになります。

- ビュー内のカメラをクリックすると、ホットスポットの位置がカメラからのフィードで更新されます。
- タイトルバーにはホットスポットアイコンが表示されます。 

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、ホットスポット(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質に関係なく、ホットスポットのビデオが最高の画質で表示されます。最大化した場合でも、選択している画質が適用されることを確認するには、設定モードのプロパティペインで、最大画面で画質を保持を選択します。

ビューにホットスポットを追加する

1. 設定モードのシステム概要ペインで、ビュー内の位置へホットスポットのアイテムをクリックして、ドラッグします。

ヒント: 位置にはホットスポットアイコンが表示され ()、ホットスポットであることを示します。

2. プロパティペインで、ホットスポットのプロパティ 『76ページの"ホットスポット設定"参照』を指定します。ホットスポットには高画質を指定し、ビューの他の位置には低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

ホットスポット設定

プロパティ 『49ページの"カメラ設定"参照』ペインで、ホットスポットの設定を指定できます。ライ

ブストリーム、画質、フレームレート、および画像の縦横比を維持などの設定が、ホットスポットのすべてのカメラに適用されます。

Smart Wall

※本機は、Smart Wall には対応していません。

バージョン情報 Smart Wall

これはアドオン製品です。一部の監視システム『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。ユーザー権限によって、一部の機能へのアクセスが制限されることがあります。

Smart Wall を使用することで、司令室や市の監視オペレータ、交通管理局などで広く使用されている壁面に取り付けた複数のモニター(別名モニターウォールやビデオウォール)を、簡単に管理できます。共有モニターで Smart Wall を使用すると、優れた概観を取得できます。ビュー全体(または、マップからのカメラ)を直接 Smart Wall のディスプレイにドラッグすることで、ビューからの重要なビデオを、組織の Smart Wall で簡単に共有できます。



Smart Wall の設定例

サーバーで定義されたイベントも、1 台または複数のカメラの Smart Wall での表示をトリガすることができます。たとえば、ドアが開いていれば、Smart Wall に最寄りのカメラを表示するように設定できます。Smart Wall は設定または構成する必要はありません。ライブおよび再生タブ(ユーザー権限により)で使用できます。

Smart Wall のコンテンツの表示

Smart Wall コンテンツは、すべてのライブおよび再生タブで表示できます。ただし、XProtect Smart Client で録画済みビデオを表示している場合であっても、Smart Wall モニターにはライブビデオしか表示されません。同様に、XProtect Smart Client のビューまたはカメラをマップから Smart Wall のグラフィック表示へドラッグすると、実際の Smart Wall モニターにも、録画されたビデオではなくライブビデオだけが表示されます。

- ビューペインで、Smart Wall を展開し、必要な Smart Wall フォルダを展開してから、関連するモニターを選択します。

場合によっては、ユーザー権限のために、1 台または複数のカメラが Smart Wall や使用している XProtect Smart Client で表示されないことがあります。

ヒント: 組織で Smart Wall を使用している場合、Smart Wall のグラフィック表示が含まれたビュー位置が、使用している XProtect Smart Client のビューに表示されることがあります。このような位置には、XProtect Smart Client ビュー全体を、またはマップから単一のカメラを、Smart

Wall のグラフィック表示に直接ドラッグして、組織の **Smart Wall** に重要なビデオを簡単に再生できるなど、さまざまな利点があります。

ビューに **Smart Wall** を追加する

1. 設定モードで、新しいビューまたは既存のビューを選択します。**Smart Wall** コンテンツの表示には、特に広いレイアウトが適しています。
2. システム概要ペインで、ビューの関連する位置へ **Smart Wall** リンクをドラッグします。
3. 現在のビューの位置には、**Smart Wall** のグラフィック表示が含まれます。

組織に複数の **Smart Wall** がある場合は、グラフィック表示の上に表示される **Smart Wall** メニューで、関連する **Smart Wall** を選択します。

関連する **Smart Wall** に複数のプリセット(どのカメラが表示されるか、**Smart Wall** の各モニターでコンテンツをどのように構成するかなどを指定する事前に定義された設定)がある場合、関連するプリセットを**プリセットメニュー**で選択します。

Smart Wall および**プリセットメニュー**は**ライブ**および**再生**タブにも表示され、ユーザーは次に異なる **Smart Wall** または**プリセット**またはその両方を、必要に応じて選択することができます。

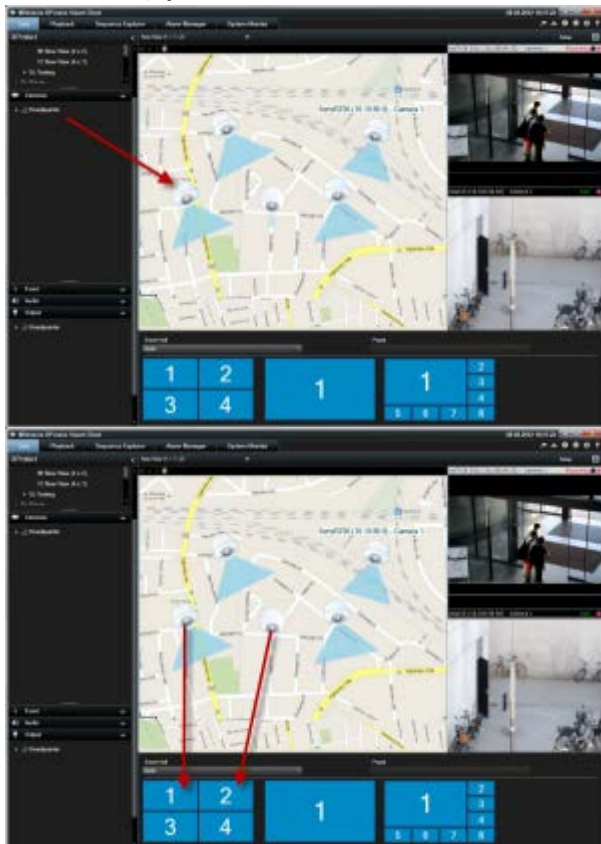
選択後、**プリセットメニュー**に**プリセットを選択...**と表示される場合、設定が適用されています。ただし、他のユーザーが**プリセット**を手動で変更したり、監視システムで事前設定したルールが自動的に変更される場合もありますのでご注意ください。

ヒント： 1+1+2 ビューの最下部は、**Smart Wall** コンテンツの表示に最適な広い位置を提供します。1×3 ビューは、3つの異なる **Smart Wall** を同時にグラフィック表示できます。

カメラを **Smart Wall** へドラッグする

- **ライブ**タブの**カメラペイン**から、カメラを **Smart Wall** のグラフィック表示の中のモニターのビュー位置にドラッグ（クリックして、マウスボタンを押したままにする）して、**Smart Wall** にある関連するカメラを簡単に表示できます。

組織でマップ機能を使用している場合、カメラをマップから **Smart Wall** のグラフィック表示へドラッグすることで、組織の **Smart Wall** に関連するカメラを表示することができます。また、フローティングビューやセカンダリディスプレイのビューなどの他のビューのマップからカメラをドラッグすることもできます。



カメラペインで、カメラのリストはサーバー別にグループ化されます。サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は、利用できません。この場合そのサーバーからのカメラは選択できません。

ビューから **Smart Wall** へビデオを送信する

- カメラのツールバーで、**詳細 > Smart Wall へ送信する**をクリックし、**Smart Wall** を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。

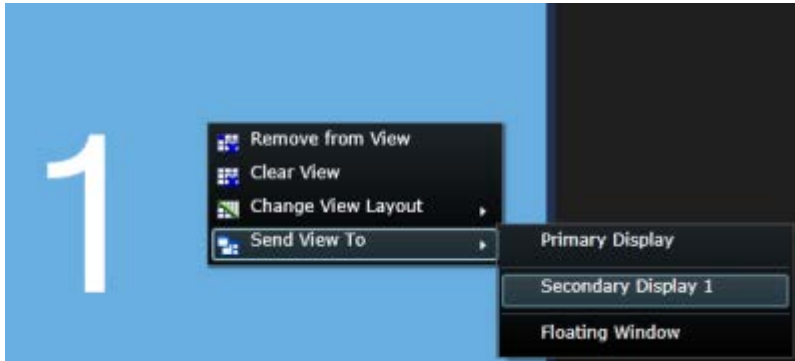


Smart Wall からビューへビデオを送信する

XProtect Smart Client のビューの間でビデオを送信 『45ページの"ビュー間でビデオを送信する"参照』できるように、**Smart Wall** の各モニターから XProtect Smart Client のビューへビデオを送信する

こともできます。

- Smart Wall のグラフィック表示で、関連するモニターを右クリックし、**ビューを分ける**を選択してから、表示先(プライマリディスプレイ、セカンダリディスプレイ、またはフローティングウィンドウ)を選択します。



Smart Wall モニターのレイアウトの変更

Smart Wall のモニターのコンテンツとレイアウトは、以下の複数の方法で変更できます。

- 既存の XProtect Smart Client ビューからカメラを、個人用カメラまたは共有カメラとして Smart Wall に送信できます。ビューのカメラを右クリックして、**Smart Wall へ送信**、Smart Wall、モニターを選択してから、関連するビュー位置を選択します。



- ビューペインからのビューを、Smart Wall のグラフィック表示のモニターに直接ドラッグすることで、XProtect Smart Client からの既存のビュー(個人または共有)を簡単に Smart Wall のモニターに表示できます。



- Smart Wall のグラフィック表示で、必要なモニターを右クリックし、**ビューレイアウトの変更**を選択し、表示フォーマット(4:3 または 16:9)を選択して、次に必要なビューレイアウトを選択します。
- Smart Wall に対して別のプリセットを選択します(これにより Smart Wall のすべてのモニターが影響を受ける場合があります)。

Smart Wall からコンテンツを削除する

たとえば、Smart Wall からの機密情報を含んでいるビデオなど、Smart Wall モニターに表示されているビデオ(モニターのコンテンツ全体、または、モニターの各位置など)を削除することができます。

モニターの内容全体を削除する

- Smart Wall のグラフィック表示で、必要なモニターを右クリックし、**ビューのクリア**を選択します。これにより、モニターのレイアウトを維持しながら、モニターからすべてのビデオが削除されます。


ビューの位置からビデオを削除する

- Smart Wall のグラフィック表示で、モニターの位置を右クリックし、**ビューから削除**を選択します。これにより、モニター内の他のビデオのコンテンツおよびレイアウトを維持しながら、ビューの位置からビデオが削除されます。

Smart Wall に表示されるものは、他のユーザーによって手動で、または監視システムで事前設定されているルールによって自動的に変更されることがあります。このため、Smart Wall からコンテンツを手動で削除できても、そのコンテンツが後で Smart Wall に再び表示されることがあります。特定のコンテンツが Smart Wall で表示されないようにするには、監視サーバーの管理者にお問合せください。

画面自動切替

画面自動切替について

画面自動切替を使用すると、ビューの 1 つの位置で複数のカメラからのビデオを次々に再生することができます。画面自動切替に含めるカメラと、カメラ間で切り替える間隔を指定できます。画面自動切替はツールバーの画面自動切替アイコンとともに表示されます。 

画面自動切替位置をダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。この自動切替のデフォルト設定を上書きすることはできません。



画面自動切替ツールバーの上にマウスを置くと、現在の画面自動切替の画像のコピーをクリップボードにコピーできる画面自動切替ボタンにアクセスすることができます。また、スナップショットを作成したり、画面自動切替を一時停止または再生したり、あるいはカメラシーケンスの前後に移動できます。



カメラがサポートしている場合は、画面自動切替でデジタルズームと PTZ コントロールを使用できます。表示される PTZ 『104ページの"PTZ 画像"参照』またはデジタルズームを使用すると、画面自動切替

が自動的に一時停止します。

ビューに画面自動切替を追加する

1. 設定モードの**システム概要**ペインで、ビュー内の位置へ**画面自動切替**のアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. **画面自動切替設定**ウィンドウの左側で、サーバーをクリックして展開してから、自動切替に含めるカメラを選択します。追加をクリックします。画面自動切替に含める各カメラについて、同じ操作を繰り返します。
サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は使用できない状態であり、この場合そのサーバーのカメラは一覧表示できません。
3. 画面自動切替でカメラが表示される順序を指定するには、**選択したカメラ**のリストで、カメラを選択して、上下に移動させます。
4. 画面自動切替でカメラを表示する秒数を入力します。一般的なデフォルト値を使用するか、それぞれのカメラ毎に指定することもできます。
5. **OK** をクリックして**画面自動切替設定**ウィンドウを閉じます。
画面自動切替の設定を調整する場合は、**設定**をクリックし、左側の**プロパティ**ペインで、**画面自動切替設定**をクリックして**画面自動切替設定**ウィンドウを開き、必要な変更を行います。

自動切替設定


プロパティ 『49ページの**"カメラ設定"**参照』ペインで、画面自動切替の設定を指定できます。**ライブ**ストリーム、**画質**、**フレームレート**、および**縦横比を維持**などの設定が、画面自動切替のすべてのカメラに適用されます。


マルチウィンドウ

XProtect Smart Client のメインウィンドウを背景に維持しながら、異なるウィンドウまたはディスプレイに個別のビューを送信できるので、複数のビューを同時に見ることができます。選択されたカメラまたはアイテムは常に青い境界線で表示されます。

ビューは、以下に送ることができます。

- コンピュータのメインディスプレイの個別のフル画面ウィンドウにビューと、その背景にメインウィンドウを表示するフルスクリーン。
- 別のモニター（ある場合）のフル画面ウィンドウにビューを表示するセカンダリディスプレイ。
- 別の小さなウィンドウにビューを表示するフローティングウィンドウ。必要に応じて、任意の数のフローティングウィンドウを使用したり、サイズを調整することができます。

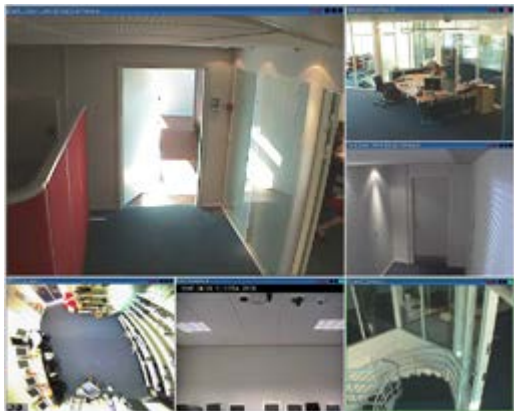
プライマリ表示とセカンダリ表示では、タブとコントロールが非表示の状態ウィンドウがフル画面で表示されます。タブとコントロールを表示するには、**フル画面**アイコンをクリックします。

フロートウィンドウには選択されたビューが表示され、**ライブ**および**再生**タブが表示されます。ドロップダウンボタンをクリックすると、ツールバーから新しいビューを選択できます。以下の**フル画面**アイコンをクリックすると、タブが非表示のフル画面フロートウィンドウと、タブのある小さいフロートウィンドウとを切り替えることができます：。また、フロートウィンドウをメインウィンドウにリンクし、時間を同期するか、**ライブ**または**再生**タブに合わせるすることができます。.

ビューの設定は XProtect Smart Client に保存されるので、次にログインする場合に再使用することができます。ただし、これは設定したコンピュータにしか当てはまりません。複数のコンピュータの

XProtect Smart Client でマルチウィンドウを使用するには、コンピュータごとにマルチウィンドウを設定する必要があります。

プライマリディスプレイ



フルスクリーンへ送信されたビューの例です。別のフル画面ウィンドウを表示している間、メインの XProtect Smart Client ウィンドウはその後ろに隠れています。

セカンダリディスプレイ



セカンダリディスプレイに送られた 8x8 ビューの例です。この例では、メインの XProtect Smart Client ウィンドウは左側のディスプレイに表示されています。

フローティングウィンドウ



フローティングウィンドウへ送信されたビューの例です。メインの XProtect Smart Client ウィンドウはフローティングウィンドウのすぐ後ろに隠れています。

ディスプレイ間でビューを送信する

1. ビューペインで、関連するビュー(あるいはカメラペインで、ビューにあるカメラ)を右クリックします。
2. **ビューを分ける** をクリックしてから、ビューを表示する場所を選択します。



さらに使用可能なセカンダリディスプレイがある場合は、番号が付けられます。

3. **ウィンドウをリンクする** をクリックし、メインビューのいずれかでフロートウィンドウでビューを同期します。フロートウィンドウをリンクする場合、対応するタイムラインはフロートウィンドウに表示されませんが、メインウィンドウのタイムラインに含まれます。
4. 別に開いているビューウィンドウを閉じるには、ウィンドウの右隅にある**閉じる** ボタンをクリックしてください:



フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になります。タイトルバーを表示して、[閉じる]ボタンへアクセスするには、マウスをビューのトップへ移動させます。

ビューに含まれているホットスポット、画面自動切替、Matrix 位置、静止画像または HTML ページは、フローティングウィンドウで通常通り動作します。

よくある質問：マルチウィンドウ

セカンダリディスプレイはいくつまで使用できますか？

XProtect Smart Client では、制限はありません。ただし、使用できるセカンダリディスプレイの数は、ハードウェア(ディスプレイアダプタなど)や Windows のバージョンによって異なります。

プライマリディスプレイまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューを閉じるボタンはどこにありますか？

表示エリアを最大化するため、フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になっています。タイトルバーを表示して、[閉じる]ボタンへアクセスするには、ビューの一番上へマウスポインタを移動させてください。

2つの異なるウィンドウで同じ画面自動切替が同期されていないのはなぜですか？

画面自動切替は、設定モードで設定した一定の間隔でカメラを切り替えます。例：10 秒間隔の場合、画面自動切替はカメラ 1 を 10 秒間、次にカメラ 2 を 10 秒間というように再生します。このタイミングは、画面自動切替を設定したビューの表示を始めるときに開始されます。後から別のビューで画面自動切替を表示し始めると、別のウィンドウや別のディスプレイであっても、その画面自動切替のインスタンスのタイミングが開始されます。このため画面自動切替が同期していないように見えます。実際には、画面自動切替の 2 つの別のインスタンスが表示されています。詳細については、画面自動切替のプロパティ 『82ページの"自動切替設定"参照』を参照してください。

Matrix


Matrix のコンテンツをビューに追加する機能は、特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』へ接続していないと使用できません。Matrix が使用できるのは、監視システムで Matrix が設定されていて、必要な権限がある場合だけです。

バージョン情報 Matrix

Matrix は、任意の監視システムカメラからネットワーク上の任意のモニター(Matrix 受信モニターと呼ばれる)へビデオを配信する機能です。一般的な Matrix 設定では、たとえばモーションが検知された場合や別のユーザーが重要なライブ画像を共有する場合など、定義されているイベントが発生すると指定された Matrix 受信モニターにライブビデオが自動的に再生されます。Matrix が監視システムサーバーで設定されている場合に、XProtect Smart Client のビューに Matrix のコンテンツを含めることができます。特定のイベントが発生したり、別のユーザーがビデオを共有する場合、使用している Matrix のビューにライブビデオが自動的に表示されます。

Matrix のコンテンツの表示

Matrix の設定でどのイベントやカメラを使用するかは、監視システムサーバーMatrix 設定や他のユーザーが共有しようとしている内容によって決まります。Smart Client でこれを制御することはできません。ただし、Matrix のコンテンツを必要な数のビューの位置に追加することはできるので、複数の Matrix によりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。

Matrix 位置はツールバーの Matrix アイコンで表示されます：。Matrix をダブルクリックすると、最大化できます。

ビューに複数の Matrix 位置が含まれている場合があります。これによって、複数の Matrix によりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。複数の Matrix 位置がビューにある場合、それらの位置は、Matrix の一次ポジション、二次ポジション、というように必ず順位が付けられます。最初に Matrix でトリガされたライブビデオストリームが受信されると、Matrix の一次ポジションにそのライブビデオストリームが自動的に表示されます。Matrix でトリガされた次のビデオストリームを受信すると、先入れ先出しの原則が適用されます。前に受信されたビデオストリームは、ビューの Matrix の二次リポジションに転送され、最新のビデオストリームが Matrix の一次ポジションに表示されます。Matrix の位置の順位付けは自動的に適用されます。追加した最初の Matrix 位置が Matrix の一次位置となり、次に追加した位置は自動的に二次位置などとなります。この順位付けは設定モードで変更できます。Matrix のプロパティ 『85ページの"設定(S)"参照』を参照してください。

再生タブでは、Matrix の位置に、ライブタブで最後に使用した Matrix の位置のカメラからのビデオが表示されます。もちろんこのビデオは、再生タブのナビゲーション機能を使って再生できます。

設定

設定モード時、プロパティ 『49ページの"カメラ設定"参照』 ペインで、Matrix を設定できます。

名前	説明
Window インデックス	別の番号を選択して、Matrix 位置のランキングを変更します。ビューの Matrix 位置数に対応する範囲にある番号のみを選択できます。1 は最新のイベントのビデオが常に表示されるメイン位置です。2 には以前に検出されたイベントのビデオが表示されます。3 には位置 2 より前に検出されたイベントなどのビデオが表示されます。

名前	説明
接続設定...	TCP ポートとパスワードを指定し、 Matrix でトリガされたビデオを監視サーバーから XProtect Smart Client ビューに転送できます。これは、 Matrix 位置 1 が選択されている場合にのみ使用可能です。他の Matrix 位置は位置 1 に対して指定された接続設定を継承します。デフォルトでは、 Matrix で使用する TCP ポートは 12345 です。使用するポート番号とパスワードについては、監視システムサーバー管理者にお問い合わせください。

ビューに **Matrix** のコンテンツを追加する

1. 設定モードのシステム概要ペインで、**Matrix** のアイテムを、**Matrix** のコンテンツを追加するビューの位置へドラッグします。青い枠線が表示され、そのビューの位置に **Matrix** のコンテンツがあることを示します。
2. **Matrix** の位置を選択すると、プロパティペインでプロパティを指定できます。
 ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、**Matrix** の位置(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化することができます。最大化すると、選択している画質の設定に関係なく、**Matrix** の位置のカメラのビデオは、デフォルトで最高画質で表示されます。最大化した場合も選択した画質を適用する場合は、**最大画面で画質を保持**を選択します。
3. 追加する **Matrix** のそれぞれの位置に対して、繰り返します。

手動で **Matrix** の受信コンピュータにビデオを送信する

ビデオをホットスポット 『76ページの"ホットスポットについて"参照 』や画面自動切替 『81ページの"画面自動切替について"参照 』に送信することはできません。

1. ビューを選択します。
2. カメラのツールバーで、**詳細 > Matrix** とクリックして、関連する **Matrix** の受信コンピュータを選択します。

XProtect Smart Client オプション

オプションウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定などの **XProtect Smart Client** のそれぞれのタブで使用する機能や要素を管理できます。アプリケーションバーでオプションボタンをクリックして、オプションウィンドウを開きます




このウィンドウのプロパティ :

アプリケーションのオプション	87
ペインのオプション	89
機能のオプション	90
タイムラインのオプション	91
エクスポートのオプション	91
ジョイスティックのオプション	92
キーボードのオプション	93
アラームのオプション	94
詳細オプション	94
言語のオプション	97

アプリケーションのオプション

アプリケーションのオプションを使用すると、XProtect Smart Client の全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

使用できる場合、**サーバーに従う**列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
アプリケーションの最大化	<p>アプリケーションのツールバーで最大化/元に戻すボタンをクリックした際の最大化のしかたを選択します。フル画面に最大化を選択すると、XProtect Smart Client を最大化したとき、スクリーン上にある Windows のタスクバーが覆われます。</p>  <p>最大化は、全画面表示 『30ページの"フル画面表示"参照』と同じではありません。</p>
カメラエラーメッセージ	<p>XProtect Smart Client が、どのようにカメラ関連のメッセージテキストを表示するか選択します。これらは、カメラからの画像の上へのオーバーレイとして、あるいは黒い背景上のオーバーレイとして表示できます。また、このようなメッセージを完全に非表示にするように選択することもできます。</p>
サーバーエラーメッセージ	<p>XProtect Smart Client が、どのようにサーバー関連のメッセージテキストを表示するか選択します。これらは、オーバーレイとして表示することもできますし、完全に非表示にすることもできます。</p>

名前	説明
ビデオインジケータのデフォルト	<p>緑色で点滅するインジケータを カメラのタイトルバーの上に表示するか、あるいは非表示にするかを選択します。インジケータの状態は、カメラから新しい画像を受信するたびに変更され、ビデオがライブであることを簡単に認識できます。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『49ページの"カメラ設定"参照』 することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>
カメラのタイトルバーのデフォルト	<p>カメラのタイトルバーを表示するか、または非表示にするかを選択します。タイトルバーには、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータ 『48ページの"カメラ名と色のインジケータ"参照』 はイベント、検出されたモーションやビデオを意味します。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『49ページの"カメラ設定"参照』 することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>
タイトルバーに現在の時刻を表示	<p>タイトルバーに、(XProtect Smart Client を実行しているコンピュータの)現在の時刻および日付を表示するか、または非表示にするかを選択します。</p>
空のビュー位置に表示	<p>ビューに空白のスペースがある場合に表示するものを選択します。たとえば、ロゴを選択したり、単に黒い背景だけを表示することができます。</p>
グリッドスペーサーの表示	<p>ビューのカメラ位置の間の境界線の太さを選択します。</p>
デフォルトの画質	<p>XProtect Smart Client で表示されるビデオ画質のデフォルトを選択します。画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。XProtect Smart Client をインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『49ページの"カメラ設定"参照』 することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>
デフォルトのフレームレート	<p>XProtect Smart Client で表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『49ページの"カメラ設定"参照』 することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>

名前	説明
デフォルトの PTZ クリックモード	使用している PTZ カメラに対するデフォルトの PTZ クリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルト PTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
ビューを開始	ログインした後、XProtect Smart Client がどのように開始するかを選択します。オプションは、全画面モード、ウィンドウモード、または最後に使用したモードです。
開始ビュー	ログインした直後に、XProtect Smart Client がどのようにビューを表示するかを選択します。オプションは、最後に使用したビュー、ビューなし、またはログインした後に決定するビューです。
マウスポインタを非表示	アイドル状態の後、マウスポインタを非表示にするかどうかを選択できます。マウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは 5 秒後です。選択肢は以下のとおりです： <ul style="list-style-type: none"> • 設定せず • 5 秒後 • 10 秒後 • 20 秒後 • 30 秒後 アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。
スナップショット	スナップショット機能を使用するかどうかを指定します。スナップショットとは、特定の時点における、カメラからのビデオのフレームをその場でキャプチャしたものです。
スナップショットへのパス	スナップショットを保存する場所を示すパスを指定します。

ペインのオプション

ペインのオプションでは、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。

一部のペインには、使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続している監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』のどちらかが原因です。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、ペインの名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能のオプション

機能のオプションでは、XProtect Smart Client の特定のタブに表示する機能（たとえば、**ライブタブ**に再生）を指定できます。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、**機能列**には、機能の名前が一覧表示されます。さらに、**設定列**では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、**サーバーに従う列**で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能：

名前	説明
ライブ > カメラ再生	ライブタブで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。
ライブ > オーバーレイボタン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZ カメラの移動、カメラからのインジケーターを消去する際に、ライブタブでオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブ & 再生 > 印刷	ライブおよび再生タブから印刷する機能。再生タブでこのオプションを有効/無効にすることで、シーケンスエクスプローラタブで対応するボタンが有効であるかどうか制御されます。
ライブ & 再生 > ブックマークオーバーレイボタン & ビュー位置ツールバー	簡易または詳細ブックマーク 『105ページの"ブックマークについて"参照』を、ビュー位置ツールバーから追加するか、ライブまたは再生タブにある、用意されたオーバーレイボタンで追加するかを選択します。再生タブでこのオプションを有効/無効にすることで、シーケンスエクスプローラタブで対応するボタンが有効であるかどうか制御されます。 ブックマーク機能は、特定の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合にのみ使用できます。ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマーク追加へアクセスできない場合があります。ブックマークを追加できなくても表示される場合があります、この逆もある点に注意してください。
再生 > 独立再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが時間内の同じ点（再生時刻）から録画を再生するのに対し、再生タブで個別のカメラの録画を独立して再生する機能です。
設定 > オーバーレイボタンの編集	設定モードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボタンを追加するには、設定タブのオーバーレイボタンペインも利用できない点に注意してください（これはオプションダイアログのペインタブで管理します）。

名前	説明
設定 > ビデオバッファリングの編集	設定モードで、カメラプロパティ 『49ページの"カメラ設定"参照』の一部としてビデオバッファを編集する機能。ビデオバッファを編集するには、設定タブのオーバーレイボタンペインも利用できなければならない点に注意してください(これはオプションダイアログのペインタブで管理します)。

タイムラインのオプション

タイムラインのオプションでは、一般的なタイムラインの設定を指定できます。使用できる場合、**サーバーに従う**列で、**XProtect Smart Client** がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
受信音声	タイムラインに受信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
送信音声	タイムラインに送信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
ブックマーク	タイムラインにブックマークを表示するか、非表示にするかを選択します。
モーション表示	タイムラインにモーションインジケータを表示するか、非表示にするかを選択します。
すべてのカメラのタイムライン	すべてのカメラのタイムラインを表示するか、非表示にするかを選択します。
再生	再生中に空白をスキップするかどうかを選択します。

エクスポートのオプション

エクスポートのオプションでは、一般的なエクスポートの設定を指定できます。使用できる場合、**[サーバーに従う]**列で、**XProtect Smart Client** がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
エクスポート先	エクスポート先のパスを選択します。
プライバシーマスク	エクスポートでプライバシーマスクを使用可能にするかどうかを選択します。

名前	説明
メディアプレイヤーのフォーマット	メディアプレイヤーのフォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
メディアプレイヤーのフォーマット - ビデオのテキスト	メディアプレイヤーのフォーマットでエクスポートする場合に、ビデオのテキストをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
XProtect フォーマット	XProtect フォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
XProtect フォーマット - プロジェクトのコメント	XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、プロジェクトのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
XProtect フォーマット - デバイスのコメント	XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、デバイスのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
静止画像エクスポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

ジョイスティックのオプション

PTZ カメラの多くはジョイスティックに対応していますが、中にはジョイスティックでコントロールできないカメラもあります。

XProtect Smart Client が新しいジョイスティックを検知すると、そのジョイスティックに対するデフォルトの PTZ (パン/チルト/ズーム) 設定が自動的に追加されます。また、XProtect Smart Client ジョイスティックのオプションによって、使用しているのすべてのジョイスティックの設定をカスタマイズできます。

名前	説明
ジョイスティックの選択	使用するジョイスティックを選択します。
軸のセットアップ：名前	次の 3 つの軸があります。 <ul style="list-style-type: none"> • X 軸 (水平) • Y 軸 (垂直) • Z 軸 (奥行きまたはズームレベル)。
軸のセットアップ：反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更します。例えば、ジョイスティックを右へ動かすと PTZ カメラが左へ移動し、ジョイスティックを手前へ動かすと PTZ カメラは下へ移動するよう選択します。
軸のセットアップ：絶対値	選択すると、相対位置方式 (ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動) ではなく、固定位置を使用します。

軸のセットアップ:アクション	軸の機能を選択します。カメラの PTZ パン、カメラの PTZ チルト、カメラの PTZ ズーム、またはアクションなし。
軸のセットアップ:プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティックを該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾーン設定:パン/チルト	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸のセットアッププレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
デッドゾーン設定:ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸のセットアッププレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタンセットアップ:名前	ボタンの名前。
ボタンセットアップ:アクション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを1つ選択します。
ボタンセットアップ:パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカメラビュー項目をコピーする パラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、2;1を入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2）にコピーされます。
ボタンセットアップ:プレビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押します。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

キーボードのオプション

キーボードのオプションによって、XProtect Smart Client の特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを割り当てることもできます。XProtect Smart Client には、すぐに使用できる少数の標準のキーボードショートカット 『35ページの"キーボードのショートカット"参照』も用意されています。

名前	説明
ショートカットキーを押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。
新しいショートカットを使用	<p>選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グローバル：XProtect Smart Client のすべてのタブで。 ● 再生モード：再生タブでのみ。 ● ライブモード：ライブタブでのみ。 ● 設定モード：設定モードでのみ。
カテゴリ	<p>コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを1つ選択します。リストされているすべてのビューについて、個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、すべてを表示のカテゴリを選択します。</p> <p>コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用したときだけ動作するものがあります。たとえば、PTZ 関連のコマンドに割り当てたキーボードショートカットは、PTZ カメラを使用しているときにしか機能しません。</p>
パラメータ	<p>該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、選択されたカメラビュー項目をコピーするパラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、2:1 を入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2）にコピーされます。</p>

アラームのオプション

アラームで音声による通知を再生するかどうかを選択します。

詳細オプション

詳細オプションによって、XProtect Smart Client の詳細オプションをカスタマイズできます。詳細オプションとその操作方法がよく分からない場合は、デフォルト設定のままにしてください。特定タイプの監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続されている場合、**サーバーに従う**列が表示され、ここで XProtect Smart Client を監視システムのサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。特定の設定がすでにサーバーによって制御されているという場合もあります。この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。詳細オプション：

名前	説明
最大デコードスレッド	<p>ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプションによって、ライブおよび再生モードのマルチコアコンピュータのパフォーマンスが改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。このため、この設定は、H.264 のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用している場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があります。たとえば、JPEG または MPEG-4 などを使用している場合は効果が低くなります。マルチスレッドでのデコードには一般に大量のメモリーが必要になることに注意してください。最善の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要があるカメラの数、これらのカメラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。</p> <p>自動では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラ位置当たり 1 つのコアのみが使用されます。</p> <p>自動がデフォルトの設定です。自動では、コンピュータはコアと同じカメラ位置当たりの数のスレッドを使用します。ただし、最大スレッド数は 8 であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。</p> <p>上級ユーザーは、8 スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。</p> <p>この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードでのすべてのカメラ位置に影響を与えます。カメラ位置またはビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべてのカメラ位置およびビューに対し同様に適しているとは限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善とメモリー使用量との最適なバランスを達成するよう設定を再調節することをお勧めします。</p>

名前	説明
インターレースの解除	<p>インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をスキャンして画像を更新し、次にすべての行をスキャンしていきます。スキャン時に処理する情報が少なくなるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによってちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変化する場合があります。インターレースを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでインターレースビデオが生成されないため、このオプションがインターレースされていないビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。</p> <p>フィルターなしがデフォルト設定です。インターレース解除フィルターが適用されないため、オブジェクトを移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示(コーミングノイズ)されます。これは、画像全体の偶数および奇数の行を組み合わせることで完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時にカメラによってキャプチャされないため、物体が動いていると、2本の行間で調整されないため、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響:不要。</p> <p>トップフィールドの垂直伸張: このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前の行(偶数)から「コピー」されます。効果として、コーミングノイズは除去されますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響:ポスト処理が必要な行数が半分になるため、フィルターなしオプションに比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。</p> <p>ボトムフィールドを垂直伸張: このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前の行(奇数)から「コピー」されます。効果として、コーミングノイズは除去されますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響:ポスト処理が必要な行数が半分になるため、フィルターなしオプションに比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。</p> <p>コンテンツ適応型: このオプションでは、コーミングノイズが検知された場合のみ、その画像領域にフィルターを適用します。コーミングノイズが除去される上、コーミングノイズの発生傾向にない画像部分では垂直解像度が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響:デコードおよびレンダリングされるフレーム当たりの総CPU使用量がおおよそ10%上がるため、フィルターなしオプションに比べ影響が大きくなります。</p>

名前	説明
時間ゾーン	<p>事前に定義された時間帯またはカスタム時間ゾーンを指定できます。使用できるオプションは以下のとおりです。</p> <p>ローカル：次を実行しているコンピュータの時間帯 XProtect Smart Client</p> <p>Master Server の時間帯：サーバーの時間帯</p> <p>UTC</p> <p>カスタム時間ゾーン：特定の時間帯が必要な場合、このオプションを選択してから、カスタム時間ゾーンフィールドの使用可能な時間帯のリストから選択します。</p>
カスタム時間ゾーン	<p>時間帯フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を選択できます。別の時間帯にいる 2 人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。</p>

言語のオプション

XProtect Smart Client の言語バージョンを指定します。使用できる言語のリストから選択し、XProtect Smart Client を再起動して変更を反映します。

HTML ページを使ったナビゲーション

XProtect Smart Client では、ビデオだけでなく、静止画像や HTML ページも表示できます。このような HTML ページを使って、XProtect Smart Client のビューを直感的に切り替えることができます。たとえば、クリックできる建物の見取り図を挿入すると、その見取り図の一部をクリックするだけでそのビルに必要な部分のビデオを表示するビューに簡単に切り替えることができます。

以下は、XProtect Smart Client ナビゲーションのための HTML ページの例です。ボタンの付いた単純な HTML ページと、クリック可能な画像マップ付きのより高度な HTML ページです。監視システムの管理者が XProtect Smart Client ユーザーに対してこのような HTML ページを作成して配信する際に実行しなければならない手順を説明したチェックリストも提供されています。

ヒント：XProtect Smart Client では、ナビゲーションやその他の機能を非常に柔軟にカスタマイズできます。上級ユーザーの場合、XProtect Smart Client で約 100 種類の関数呼び出し『143 ページの"スクリプト"参照』を作成できます。

ボタンを使った HTML ページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのある HTML ページを作成する方法があります。HTML ページでは、さまざまなボタンを作成できます。この例では、2 種類のボタンを作成しています。

XProtect Smart Client のビューを切り替えるボタン使用する HTML 構文：

```
<input type="button" value=" Buttontext "
onclick="SCS.Views.SelectView('Viewstatus.Groupname.Viewname ');">
```

ここで、**Viewstatus** はビューが共有ビューか個人ビューかを示します (HTML ページを複数のユーザーへ配信する場合は、ビューが共有である**必要があります**)。

実際のボタン例：

```
<input type="button" value="Go to Shared Group1 View2"
      onclick="SCS.Views.SelectView('Shared.Group1.View2');">
```

このボタンを使って、ユーザーは **Group1** という名前の共有グループにある **View2** というビューへ移動することができます。

- **タブを切り替えるボタン：ライブおよび再生**

ユーザー権限によって、この 3 つのタブすべてにアクセスできない場合があります。

使用する HTML 構文：

ライブタブ：

```
<input type="button" value="Buttontext"
      onclick="SCS.Application.ShowLive();">
```

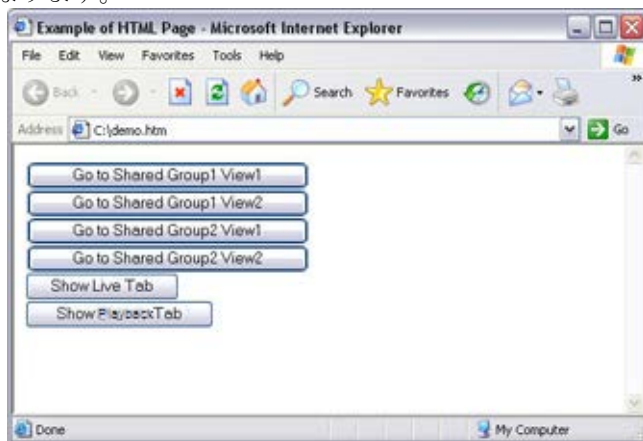
再生タブ：

```
<input type="button" value="Buttontext"
      onclick="SCS.Application.ShowPlayback();">
```

ヒント： 上級ユーザーの場合、**XProtect Smart Client** で提供されているおよそ 100 種類の関数呼び出しを使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。詳細については、スクリプト『143 ページ』を参照してください。

ここでは、**XProtect Smart Client** で 2 つの共有グループを作成します。この 2 つのグループを **Group1** と **Group2** とします。各グループには、**View1** と **View2** という 2 つのビューがあります。

4 つの異なるビューの間、**XProtect Smart Client** の**ライブタブ**と**再生タブ**の 2 つのタブ間で切り替えられるボタンが付いた HTML ページも作成しました。ブラウザで開くと、作成した HTML ページは次のようになります。



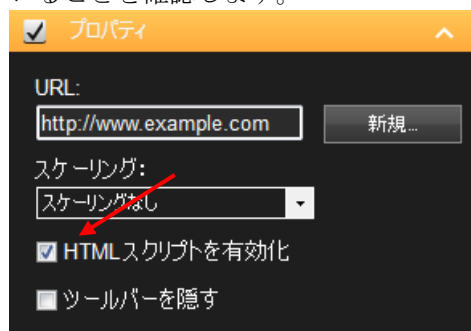
1.

ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いた HTML ページ

HTML ページをローカル (ここではユーザーの **C** ドライブ) に保存します。HTML ページを使ってナビゲートする場合、**Internet Explorer** のセキュリティ機能を有効にするため HTML ページをローカルに保存する必要があります。

HTML ページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。たとえば、ユーザーの **C:** ドライブにあるフォルダ (例 : **C:\myfolder\file.htm**) などです。ユーザーのデスクトップや **My Documents** フォルダなどに HTML ページを保存すると、これらの場所に **Windows** がパスを構築する方法が原因で、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

次に、必要な XProtect Smart Client ビューへ HTML ページをインポートします。HTML ページをインポートする際、設定モードで、HTML ページのプロパティで HTML スクリプトを有効化が選択されていることを確認します。

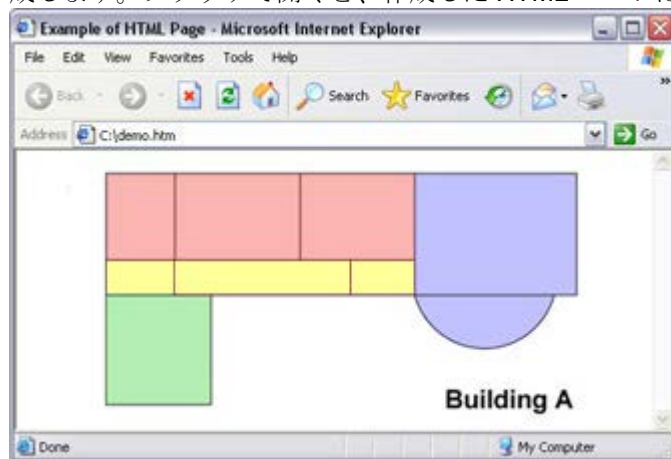


HTML スクリプトを有効化を選択すると、ボタンの動作に必要なスクリプトが自動的に HTML ページへ挿入されます。

画像マップ付きの HTML ページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含む HTML ページを作成することもできます。

次の例では、前述の例で使用した 2 つのグループと 2 つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、間取り図の画像のある HTML ページを作成し、その間取り図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成した HTML ページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含む HTML ページ

この例では、間取り図を 4 つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをクリックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の共有 **Group2** の **View2** へ移動ボタンに該当します。この赤いゾーンをクリックすると、ユーザーは **Group2** の **View2** へ移動します。

HTML ページのインポート

ナビゲーション HTML ページのビューへのインポートは、他の種類の HTML ページの XProtect Smart Client にあるビューへのインポートと基本的に同じです。インポートする際に重要な点は次の 2 つです。

- HTML ページは使用している PC にローカルに保存する必要があります

- インポートする際に、HTML のスクリプトが HTML ページで有効になっていることを確認してください。

HTML ページをインポートするには：

1. 設定モード中、**システム概要**ペインからビューの必要な位置へ **HTML ページ**のアイテムをドラッグします。
2. **URL**を開くウィンドウで、HTML ページを指定します。
3. ビューで位置を選択し、**プロパティ**ペインで、**HTML スクリプトの有効化**を選択します。
HTML スクリプトの有効化を選択すると、ボタンやその他のナビゲーション機能が動作するために必要なスクリプトが自動的に HTML ページへ挿入されます。
4. HTML ページへ挿入したナビゲーション機能によっては、ナビゲーションを完全に機能させるために HTML ページを複数のビューへインポートしなければならない場合があります。

システム管理者のためのチェックリスト

監視システムの管理者がナビゲーション HTML ページを作成して XProtect Smart Client ユーザーへ配信するには、次の手順を実行してください。

1. 必要な HTML ページを作成します。HTML ページに含まれているナビゲーションコントロールは、XProtect Smart Client でユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。たとえば、View1 につながるボタンを動作させるには、View1 と呼ばれるビューがユーザーの XProtect Smart Client にある必要があります。ユーザーのグループに HTML ページを配布する場合は、HTML ページによって使用されるビューが共有グループに配置されている必要があります。
2. HTML ページを使用するコンピュータに、HTML ページをローカルに保存します。HTML ページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。たとえば、ユーザーの C:ドライブにあるフォルダ（例：C:\myfolder\file.htm）などです。ユーザーのデスクトップや **My Documents** フォルダなどに HTML ページを保存すると、これらの場所に Windows がパスを構築する方法が原因で、HTML ページが正しく動作しない場合があります。
3. HTML ページを、それが使用される XProtect Smart Client ビューへインポートします。HTML ページをインポートし、ビューでそのポジションを選択したら、**設定**タブの**プロパティ**ペインで **HTML スクリプトの有効化**が選択されていることを確認します。
4. インポートされた HTML ページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうかテストします。
5. 組織のニーズに合ったシンプルで直感的な XProtect Smart Client ナビゲーションが作成できます。

トラブルシューティング

HTML ページのナビゲーションコントロールが正しく動作しない場合は、次の点を確認してください。

- HTML で正しい構文が使用されているか。
- HTML ページをインポートしてから、**HTML スクリプトの有効化**を選択したか。
- 対象ユーザーに、HTML ナビゲーションページを使用できる権限があるか。ユーザー権限によって、XProtect Smart Client の特定のカメラやビュー、機能、タブなどにアクセスできない場合があります。

表示

デジタルズーム

デジタルズームについて

デジタルズームを使って画像の一部だけを拡大表示できるため、その部分を詳しく見ることができます。デジタルズームは、カメラ自体に光学ズーム機能が搭載されていない場合に便利な機能です。デジタルズームを使用してもビデオの録画には影響はありません。カメラの標準フォーマットで録画されます。後で録画を再生する場合、再生タブで同じようにデジタルズームを使用することができます。

PTZ ではないカメラでは、デジタルズームはデフォルトで有効になっています。1 台のカメラでデジタルズームを有効または無効にすると、ビューにあるすべてのカメラに影響します。PTZ カメラでは、この設定は一度に 1 台のカメラにだけ適用されます。

証拠をエクスポートする場合、AVI または JPEG フォーマットであれば、標準の画像またはデジタルズームした画像のどちらをエクスポートするか選択できます。データベースフォーマットでエクスポートする場合は、受信者が、エクスポートされた記録をデジタルズームできるため、この選択はできません。デジタルズームを使用した画像を印刷『116ページの"証拠を印刷する"参照』する場合は、その画像のデジタルズームされた部分が印刷されます。

デジタルズームの使用

1. 画面自動切替またはマッププレビューのカメラのツールバーのライブまたは再生タブで、詳細 > デジタルズームをクリックして有効にします。



ヒント：マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、CTRL キーを押したまま、マウスを動かします。

ビューの右下隅に小さな概要フレーム（ズームインジケータ）が表示され、エリアにズームインした場合に画像全体の概要を表示します。



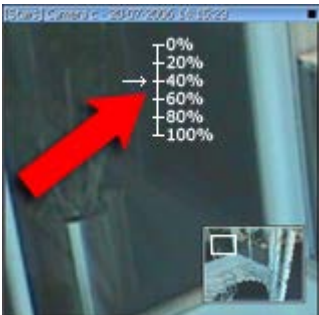
2. ズームする画像の内側で、マウスボタンを押したままにします。選択されたエリアは、白い枠線で強調表示されます。マウスボタンを離すと、ズームが適用されます。



3. ズームレベルを維持したままその画像の他のエリアへ移動する場合は、全体図フレーム内で、強調表示されているエリアをドラッグして必要な位置へ移動させてください。



4. ズームレベルスライダーを使用してズームレベルを調整するには、**SHIFT** キーを押したまま画像の内側をクリックし、両方とも押したまま、マウスを動かしてズームレベルスライダーを上下させます。



5. **0%**のズームレベルを選択すると、画像全体が再表示されます。

ヒント： マウスにスクロールホイールが付いている場合は、それを使ってズームレベルを調整できます。多くのマウスで、スクロールホイールまたは中央ボタンをクリックすると画像全体の表示に簡単に戻れます。

よくある質問：デジタルズーム

光学ズームとデジタルズームの違いは何ですか？

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提供します。デジタルズームの場合、画像を一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズに戻すことができます。これは補間と呼ばれるプロセスです。そのため、デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質

が低くなります。

デジタルズームは PTZ カメラに関係がありますか？

PTZ(パン/チルト/ズーム)カメラのライブビデオを見る場合、PTZ カメラの光学ズームを使用できるため、デジタルズームは PTZ カメラにはあまり関係がありません。ただしデジタルズーム機能は、たとえば、PTZ カメラの光学ズーム機能を使用するユーザー権限がない場合に使用できます。

ナビゲーションボタンが表示されないのはなぜですか？

ビデオを再生しているカメラが PTZ カメラでなければ、ズームインできるエリアは 1 つだけであり、ズームボタンは 1 つしかありません。画像のあるエリアにズームインすると、PTZ ナビゲーションボタンへのアクセスが可能となり、このズームエリア内で移動できます。

PTZ および魚眼レンズ画像

監視システムによっては、魚眼カメラの使用がサポートされていない場合があります。また、魚眼カメラによっては、Microsoft Windows の 64 ビットバージョンでサポートされていない場合があります。ユーザー権限によっては、一部のカメラから PTZ 管理へアクセスできない場合があります。PTZ 機能は、特定の監視システムに接続している場合に制限されることがあります。

魚眼レンズ画像

魚眼カメラや魚眼レンズがビューに含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示される PTZ ナビゲーションボタン(魚眼カメラの種類によっては、独自のズームボタンがあります)をクリックして、魚眼カメラ画像をナビゲートすることができます。PTZ の丸いボタンを使うと、カメラをすばやくデフォルト位置へ移動できます。ズームインやズームアウトは、**プラス (+)**および**マイナス (-)**ボタンを使用します。マウスにスクロールホイールが付いている場合は、スクロールさせてズームインやズームアウトを行うことができます。スクロールホイールまたは中央ボタンをクリックするとデフォルトビューに戻ります。



PTZ ナビゲーションボタンおよび仮想ジョイスティックのマウスポインタ

マウスによっては、スクロールホイールが特定の操作に割り当てられている場合があります、その場合はズームできません。マウスの設定マニュアルを参照してください。

魚眼レンズ画像のナビゲーションでプリセット 『104ページの"PTZ プリセットの選択"参照』を使用することはできませんが、お気に入りの位置を保存することができます。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義

魚眼レンズカメラの位置のみを保存できます。

1. 保存する魚眼レンズ画像内の位置に移動します。

2. カメラのツールバーで、**詳細 > 魚眼レンズの位置の保存**をクリックして、位置を保存します。



3. 魚眼レンズの位置に戻るには、カメラのツールバーで**詳細 > 魚眼レンズの位置のロード**をクリックします。

PTZ 画像

ビュー（画面自動切替またはマッププレビューのビューを含む）に PTZ（パン/チルト/ズーム）カメラ画像がある場合、オーバーレイ PTZ ナビゲーションボタンを使用して PTZ カメラを制御することができます。設定モードの**プロパティペイン**で、ビュー内の位置の PTZ クリックモードをデフォルトにするかどうか、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックにするかを定義できます。XProtect Smart Client のオプション 『86ページの"XProtect Smart Client オプション"参照』で、デフォルトを仮想ジョイスティックまたはクリックして中央揃えのどちらに設定するか指定します。

ヒント：ジョイスティックを使って、PTZ カメラをコントロールすることができます。ジョイスティックのコントロールは、**カスタマイズ 『92ページの"ジョイスティックのオプション"参照』**可能です。PTZ カメラの多くでジョイスティックとポイント及びクリックコントロールがサポートされていますが、中にはこの方法でコントロールできないカメラもあります。

PTZ カメラの多くは、カメラの画像内をポイントしてクリックするだけでコントロールできます。PTZ カメラからの画像にマウスポインタを移動させると次のような十字カーソルに変わります。これは、そのカメラがポイント及びクリックコントロールをサポートしていることを示します。



十字カーソルはポイント及びクリックコントロールを意味します。カメラによって、この十字カーソルの外観が異なります。カメラによっては、十字カーソルの周りに四角形が表示されるものもあります。この場合、拡大する画像の周囲の四角形をドラッグして、特定のエリアをズームすることができます。このタイプのカメラは、キーボードの **Shift** キーを押したままマウスを上下に動かすと画像内にズームレベルスライダーが表示され、ズームレベルを調整できます。

PTZ プリセットの選択

1. PTZ カメラを指定した位置に移動するには、PTZ カメラに定義された使用可能なプリセットのリストからプリセットを選択します。ライブタブのカメラツールバーで、**詳細 > PTZ コントロール > PTZ プリセット**をクリックしてから、目的のプリセットを選択します。



2. プリセットの**ホーム**を選択すると、カメラはデフォルト位置へ移動します。

PTZ プリセットを作成

監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』によっては、新しい PTZ プリセットを作成できます。

1. ビューで、該当する PTZ を選択し、新しい PTZ プリセットを追加します。
2. カメラツールバーで、PTZ ボタンを使用し、目的の位置に移動します。あるいは、**PTZ プリセットの管理**ダイアログの画像プレビューを使用して画像に移動できます。
3. カメラツールバーで、**PTZ プリセット**をクリックします。
4. **PTZ プリセットの管理**をクリックすると、**PTZ プリセットの管理**ダイアログボックスが表示されます。

5. **追加**をクリックします。デフォルト名の**プリセットの新規作成**で新しいプリセットエントリがプリセットリストの最下位に追加されます。
 6. プリセット名が強調表示されているのを確認して、新しくわかりやすいプリセット名を入力します。後からいつでも同じ方法でプリセット名を変更できます。
 7. **ENTER** キーを押します。
 8. 上下矢印を使用して、リストの目的の位置にプリセットを移動します。
- プリセットを削除するには、**PTZプリセットの管理**ダイアログで**削除**をクリックします。

PTZプリセットの編集

監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』によっては、既存の PTZ プリセットを変更できます。

1. ビューで、PTZプリセットを修正したいPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、**PTZプリセット**をクリックします。
3. **PTZプリセットの管理**をクリックし、ダイアログでPTZプリセットを選択します。
4. プリセット名を編集するには、PTZプリセット名が強調表示されているのを確認して、既存の名前を上書きします。
5. プリセットの位置を移動するには、画像プレビューで**PTZ** ボタンを使用して目的の位置に移動してから、**プリセットの更新**をクリックして保存します。
6. プリセット位置のリスト表示順を変更するには、上下矢印を使用して、リストのPTZプリセットを移動します。

PTZパトロールの停止

PTZカメラはスケジュールに従って複数のプリセット間で継続して動くことができますが、PTZパトロールを停止できます。

特に必要な場合だけ、PTZパトロールを停止します。通常、PTZパトロールスケジュールは、組織の監視ニーズに合わせるために綿密に計画されています。

1. **ライブタブ**で、目的のビューを選択します。
2. カメラのツールバーで、**詳細 > PTZコントロール > PTZプリセット > PTZパトロールの停止**とクリックします。
3. パトロールを再開するには、コマンドをもう1度選択するか、ビューを閉じてください。

ブックマーク

※本機は、ブックマーク機能には対応していません。

ブックマークについて

ブックマーク機能は、一部の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマークを追加できない場合があります。ブックマークを追加できなくてもブックマークを表示できる場合があります、この逆もあります。

ライブビデオまたは録画ビデオのインシデントにブックマークを付けることができます。ブックマークは、基本的には小さなビデオクリップです。インシデントにブックマークを付けると、プログラム

が自動的に ID および、ブックマークを付けたユーザーを割り当てます。ブックマークは検索可能なので、ブックマークを付けたユーザーも他のユーザーも後で簡単に見つけることができます。遅延があっても確実にインシデントが記録されるように、通常、ブックマークビデオクリップには、インシデントにブックマークを付けた時の数秒前から数秒後まで(監視システムの管理者が指定)のビデオが含まれます。

ブックマークが付けられたビデオは、以下の方法で検索および編集します：

- 再生タブの記録の検索 『118ページの"録画済みビデオの検索"参照』 ペイン
- シーケンスエクスプローラ 『112ページの"シーケンスエクスプローラについて"参照』
- タイムライン 『111ページの"タイムラインのブックマーク"参照』


特定のブックマークが見つからない場合は、次のような理由が考えられます。

- ブックマークを表示するユーザー権限がない。
- ブックマークが削除された（十分な権限があるユーザーは、再生タブの記録の検索 『118ページの"記録の検索"参照』 ペインまたはシーケンスエクスプローラを使用してブックマークを削除できます）。
- ブックマークが付けられたビデオが監視システムに存在しない。


ブックマークウィンドウ

ブックマークに詳細情報を追加するには、まず機能 『90ページの"機能のオプション"参照』 の下のオプションウィンドウで、ライブおよび再生の両方のタブで指定しなければなりません。これを指定していないと、簡易ブックマークしか作成できません。

詳細ブックマークを作成するか、ブックマークを編集する際は、多数の設定を指定できます。

名前	説明
タイムライン	<p>ブックマーク時間およびクリップの開始時間と終了時間は監視システムの管理者によって指定されていますが、変更できます。時間を変更するには、タイムラインでインジケータ 『109ページの"再生ナビ"参照』 を必要な時間へドラッグします。</p>  <p>クリップの開始時間： 監視システムの管理者が指定した、指定ブックマークの推奨されるクリップ開始時間(ブックマーク時間より一定秒数前)。</p> <p>ブックマーク時間： ブックマークしたビデオクリップの時間。</p> <p>クリップの終了時間： 監視システムの管理者が指定した、ブックマークの推奨されるクリップ終了時間(ブックマーク時間より一定秒数だけ後)。</p>
ヘッドライン	ヘッドラインには最大 50 文字を指定できます。
説明	説明を指定できます。

ブックマークの追加および編集

1. ビューで使用するカメラを選択します。
2. ブックマークのアイコンをクリックします。オプション 『90ページの"機能のオプション"参照』 ウィンドウで、詳細を追加できると指定していれば、インシデントの詳細な説明を追加できるブックマークウィンドが表示されます。ブックマーククリップの長さは、監視システムサーバーで規定されますが、タイムラインインジケータをドラッグして変更することもできます。



ヒント:ブックマークの詳細の入力に時間がかかっても、問題ありません。保存をクリックするまで、ブックマークは XProtect Smart Client に保存されています(ブックマークの作成に数日かかり、ビデオが監視システムに存在しなくなった場合を除く)。

3. **OK** をクリックします。

手動での出力のアクティブ化

照明の点灯やサイレンの始動など、監視システムで外部出力が定義されている場合は、**ライブ**タブからこれらの外部出力をアクティブ化できます。ユーザー権限によっては、出力の開始が制限される場合があることに注意してください。

手動で出力を開始するには、2つの方法があります。出力ペインを使用するか、使用可能である場合、オーバーレイボタンを使用します(オーバーレイボタンが使用可能である場合は、ビューの上にマウスを移動させると表示されます)。

- **ライブ**の出力ペインで、必要な出力を選択してから、**アクティブ化**をクリックします。一部の監視システムでは、選択可能な出力のリストはサーバー別にグループ化され、その他のシステムでは、カメラ別にグループ化されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーでは出力をアクティブ化できません。

アクティブ化が失敗すると、メッセージが表示されます。

プライバシーマスク

プライバシーマスクにより、カメラのビューアングルの特定領域をブロックして、機密情報を保護することができます。XProtect Smart Client では、プライバシーマスクはビデオで黒く表示されます。たとえば、カメラが、住人の台所と居間の窓を見渡せる角度に設置されている場合、これらの窓をプライバシーマスクを使ってブロックしてプライバシーを守ることができます。



監視システムの管理者によってすべて定義されるため、ユーザーはプライバシーマスクを削除できません。

プライバシーマスクを使用すると、すべての表示コンテキストや、ビデオをエクスポート、または静止画像を印刷 『116ページの"証拠を印刷する"参照』するときにもプライバシーマスクが表示されません。

プライバシーマスクを含むビデオをエクスポートすると、特に XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、エクスポートプロセスにかかる時間がかなり長くなり、エクスポートファイルのサイズが大きくなる可能性があります。

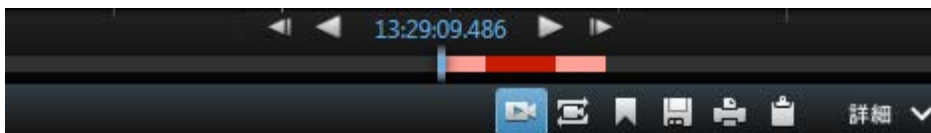
個別再生を使用する録画済みビデオの表示


この機能は、ホットスポット、画面自動切替、または Matrix 位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

1. 録画ビデオを再生するカメラをマウスで横切ります。表示されるツールバーで、**独立再生**ボタンをクリックします。



独立再生のタイムラインが表示されます：

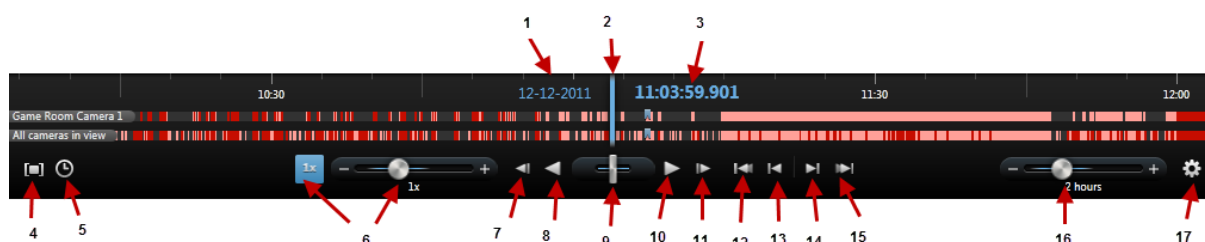


2. タイムライン 『109ページ』をドラッグして、再生するビデオが含まれる時間を選択します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、**再生タブで選択された時間の録画を表示**をクリックします。 。この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて**再生タブ**で再生されます。

インシデントの調査

再生ナビ

タイムラインのボタンとコントロール



- 1: 再生の日付
- 2: タイムラインの時刻
- 3: 再生の時刻
- 4: 時間選択モード
- 5: 開始時間/終了時間の設定
- 6: 再生速度および再生速度スライダー

再生ボタン

- 7: コマ戻し
- 8: 逆方向再生
- 9: シャトルスライダー
- 10: 時間内に再生
- 11: コマ送り

ナビゲーションボタン:

- 12: 最初のシーケンス
- 13: 前のシーケンス
- 14: 次のシーケンス
- 15: 最後のシーケンス
- 16: 時間幅スライダー
- 17: タイムラインのオプション

タイムライン

タイムラインには、現在のビューで表示されているすべてのカメラの記録の一定期間の概要が表示されます。例えば、タイムラインは、再生モードに関係なく、ブックマークを追加または編集した時に、再生およびシーケンスエクスプローラタブに表示されます。

タイムラインエリア 『109ページの"タイムラインのボタンとコントロール"参照』には、2本のタイムラインが表示されます。上のタイムラインは選択したカメラの録画期間を示しており、下のタイムラインは選択したカメラを含めてビューにあるすべてのカメラを示します。フロートウィンドウをリンクした場合は、下のタイムラインにも表示されます。

タイムラインを右へドラッグすると時間をさかのぼり、左へドラッグすると先へ進みます。マウスの

スクロールホイールを使用して、タイムラインを前後に移動することもできます。タイムラインの範囲をズームして時間単位を増減するには、CTRL キーを押しながらスクロールホイールを使用します。タイムラインは、録画中は明るい赤色、モーションは赤色、入力音声は明るい緑色、そして出力音声は緑色で表示されます。タイムラインの時刻は、青色の縦線で示されます。

タイムラインおよび Milestone Interconnect

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

選択したカメラが Milestone Interconnect 設定の一部で、内部接続されたデバイスである場合、選択したカメラのタイムラインには取得データが表示されます。実行された取得は録画として表示されます。タイムラインでは、網掛けによって録画を含む期間と取得要求 『111ページの"Milestone Interconnect からのデータの取得"参照』が必要な期間をすばやく識別できます。

- 濃い灰色は、その期間に録画がないことを示します。
- 濃いチェックパターンは、録画が要求されていないため、録画があるかどうか不明であることを示します。
- 赤色の網掛けは、録画があることを示します。
- 明るいチェックパターンは、データの取得要求があったことを示します。



録画が要求されていないため、録画があるかどうか不明な濃いチェックパターンのタイムラインと、ビデオの取得要求があった明るいチェックパターンのタイムライン



再生の日時

タイムラインの上のエリアは、録画の再生の日時を青色で表示します。再生時間は、すべてのカメラに共通の時間です(独立再生モードは除きます)。録画を再生する場合、ビューにあるすべてのビデオは同じ時刻から再生されます。ただし、カメラによっては、モーションを検知した場合だけ録画しているものがあります。また、特定の時間に一致する、1台または複数のビデオで録画されたビデオがビューにない場合もあります。この場合、そのカメラのデータベースから、その時間より前の最も近い時間帯に録画された画像がビューに表示され、画像は灰色表示されます。

日付と時刻のナビゲーション

再生の日付または再生の時刻をクリックして移動ウィンドウを開くと、移動する日時を選択できます。タイムライン上の任意の場所をダブルクリックすると、その特定の時刻へ移動します。

時間選択






開始時間/終了時間の設定  をクリックすると、日時を指定して、特定の時点へジャンプできます。時間選択モード  をクリックすると、タイムラインで開始時間インジケータと終了時間インジケータをドラッグして期間を選択できます(通常は、ビデオをエクスポートする場合)。もう一度クリックすると、時間が選択されていない状態でタイムラインが表示されます。

再生スピード

再生スピードスライダーを使って、現在の再生スピードを変更します。スライダーを左へ移動させると再生速度が遅くなり、右へ移動させると再生速度が速くなります。[1x]をクリックすると通常速度になります。

再生ボタン





再生ボタンを使用して録画を再生します：

	コマ戻し：現在表示している画像のすぐ前の画像へ移動します。
	時間内で逆方向再生
	時間内で順方向再生
	コマ送り：現在表示している画像のすぐ後の画像へ移動します。
時間内で逆方向再生または時間内で順方向再生をクリックすると、ボタンが一時停止ボタンになります。これにより、マウスポインタを移動しなくても再生を一時停止できます。	
	一時停止

ヒント：シャトルスライダーをすばやく左へドラッグして再生を一時停止することもできます。

ナビゲーションボタン


ナビゲーションボタンを使用して録画シーケンスをナビゲートできます。

	最初のシーケンス：選択したカメラのデータベースにある最初の画像へ移動します。
	前のシーケンス：1つ前のシーケンスの最初の画像へ移動します。
	次のシーケンス：次のシーケンスの最初の画像へ移動します。
	最後のシーケンス：選択したカメラのデータベースにある最後の画像へ移動します。

時間幅

時間幅スライダーを使用して、再生の時間幅、独立再生、タイムラインでの録画のシーケンス(例、1時間、2時間、または最大4週間まで)を指定できます。

タイムラインのブックマーク


タイムラインのブックマークは、青いブックマークのアイコンで示されます：。ブックマークされたビデオを再生するには、マウスをアイコンの上に置きます。

Milestone Interconnect からのデータの取得

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

Milestone Interconnect を使用すると、中央管理サイトのある、船舶やバスなどに設置されたモバイルなど、多数の独立監視システムを統合できます。

お使いの XProtect Smart Client が Milestone Interconnect セットアップの一部であり、1 つ以上のカメラがエッジストレージをサポートし、必要なユーザー権限がある場合は、内部接続された 1 つ以上のデバイスからデータを取得する必要があります。

1. タイムラインの再生タブで、**時間選択モード**  ボタンをクリックし、エクスポートするシーケンスの開始時間と終了時間 『110ページの"時間選択"参照』を選択します。
2. XProtect Smart Client のツールバーで、**取得...**をクリックして、**取得**ウィンドウを開きます。
3. 該当するカメラを選択し、**取得開始**をクリックします。

アプリケーションツールバーの**ステータス**ボタンをクリックすると、ステータスウィンドウ 『36ページの"サーバーステータスと内部接続されたハードウェア取得ジョブ"参照』に取得ジョブの進捗状況が表示されます。

- 進行中の取得ジョブを停止するには、ワークスペースエリアの上部にある通知エリア、または進行中のジョブの隣にある**ステータス**ウィンドウの**停止**をクリックします。

シーケンスエクスプローラ

シーケンスエクスプローラについて

シーケンスエクスプローラタブでは、1 台または複数のカメラからのサムネイル画像を調査することができ、関連するビデオを簡単に見つけて、すぐに再生できます。



サムネイルビューはコンテンツを左から右へ時系列的に表示し、直近のサムネイルをビューの右下部に配置します。

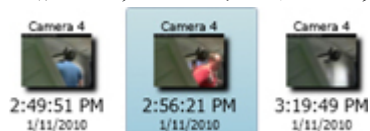


サムネイルのサイズは、サムネイルビュー下部のサイズスライダーをドラッグすることによって調整できます。



サムネイル画像は、選択した個々のカメラまたはビューで選択したすべてのカメラに関連付けることができます。サムネイルビューをドラッグして時間を移動し、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、大量の録画ビデオを迅速に表示し、最も関係のあるビデオを特定して、すぐに再生することができます。

特定のサムネイルに関連するビデオを表示するには、サムネイルをクリックします。サムネイルをクリックすると、そのサムネイルが強調表示され(自動再生が選択されている場合 d)、関連するシーケンスがシーケンスエクスプローラの右側に再生されます。

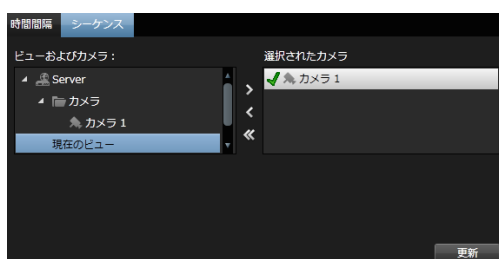


ヒント：サムネイルをクリックし、サムネイルビューをドラッグしてそこを離れてナビゲートしている場合、**更新**をクリックすることによって、選択したサムネイルにすばやく戻ることができます。

表示する内容の指定

サムネイルを表示する前に、サムネイルを表示させたいカメラを選択する必要があります。

- **時間間隔**、**シーケンス**、または**ブックマーク**のいずれかのタブを選択してから矢印をクリックして、**選択されたカメラ**のリストへ移動し、カメラまたはビューを選択します。選択が終わったら、**更新**をクリックします。



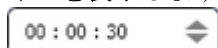
選択可能なカメラのリストは、カメラが属するサーバー^④によってグループ分けされています。サーバーが赤いアイコン^⑤とともにリスト表示されている場合、利用できません。この場合、そのサーバーからのカメラは選択できません。

選択したカメラのリストには、選択したカメラのステータスが表示されます。

- ✔ 緑色のチェックマークは、すべてに問題がないことを示します。
- ✘ 黄色の X は、シーケンスやブックマークの一部がロードできなかったことを示します。
- ✘ 赤色の警告の X は、シーケンスまたはブックマークが記録されていないか、ロードできなかったことを示します。

時間間隔

時間間隔タブでは、特定の時間間隔でサムネイルを表示できます。たとえば、30 秒毎に 1 つのサムネイルを表示します。必要な間隔を、タブのフィールドで指定します。



必要な間隔を、時間、分、および秒 (HH-MM-SS) で指定できます。最長の間隔は 24 時間です。このフィールドは、時間の特定のポイントにナビゲートするためには使えません。間隔を指定するためだけに使用できます。

シーケンス

シーケンスタブでは、録画されているビデオシーケンスそれぞれのサムネイルが表示されます。シーケンスの長さが異なる場合があるため、あるサムネイルは短いシーケンスを表し、別のサムネイルは非常に長いシーケンスを表すということがあります。通常、シーケンスは、モーションの検知やイベントの発生の数秒前から始まり、数秒経過したところで終わります。このバッファによってインシデントの直前と直後に何が起こったのかを見ることができます。バッファの長さは監視システムの管理者が決定します。

ブックマーク



※本機は、ブックマーク機能には対応していません。

ブックマーク機能が使用できるのは、一部の監視システムに接続している場合のみです。監視システム別の特徴『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』を参照してください。ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマークを表示できない場合があります。ブックマークを追加できなくても表示される場合があり、この逆もある点に注意してください。

ブックマークタブに、使用可能なブックマーク『105ページの"ブックマークについて"参照』それぞれのサムネイルが表示されます。ブックマークに関連するビデオシーケンスの長さは異なる場合があるため、あるサムネイルは短いシーケンスのブックマークを示し、別のサムネイルは非常に長いシーケンスのブックマークを示すことがあります。

ヒント: マウスをサムネイルの上に移動させると、ポップアップウィンドウにブックマークの詳細が表示されます。

プレビューの右側に、選択したブックマークの詳細が表示されます。付与されているユーザー権限によって異なりますが、ブックマークを編集、削除、印刷、またはエクスポートすることができます。

- ブックマークの時間設定、ヘッドライン、または説明を編集するには、をクリックします。
- 関連のないブックマークを削除するには、をクリックします。

ブックマークを削除すると、ブックマークは、サムネイルビューからだけでなく監視システム全体から削除されます。選択したブックマークを削除してもいいかどうか確認するメッセージ

が表示されます。

タイムライン

シーケンスエクスプローラのタイムライン 『109ページの"タイムライン"参照』により、ビデオの内容をナビゲートできます。

シーケンスのナビゲート

サムネイルをナビゲートするには、複数のオプションがあります。

クリックしてドラッグする


サムネイルビューをクリックして、サムネイルビュー内で左（時間の後方向）または右（時間の前方向）へドラッグします。

シーケンススライダー

サムネイルビューの下にあるシーケンススライダーを、左（時間の後方向）または右（時間の前方向）へドラッグします。



日付と時刻

サムネイルのにある**カレンダーアイコン**  をクリックし、カレンダーにアクセスして、日付や時刻を指定できます。[移動]をクリックして、今回のサムネイルを表示します。



ヒント: カレンダーでは、青色の背景色  が選択した日付を示し、グレーの背景色  が現在の日付を示します。

黄色の X が付いているサムネイル画像

ナビゲーションの方法によって異なりますが、特定の時点から録画された画像がない場合、黄色の X が付いたプレースホルダサムネイルが表示されることがあります：



これらは、たとえばサーバー通信エラー、デコードエラーなどによって、シーケンスエクスプローラ

が適切なサムネイル画像を取得できない場合に表示されます。ただし、監視システムから取得したサムネイルが要求された時点と正確に一致しない場合は、一致しないサムネイル画像は混乱を招くため、プレースホルダサムネイルが表示されることがあります。

シーケンスエクスプローラの**時間間隔**タブでは、取得したサムネイル画像が要求した時間間隔外であると、プレースホルダサムネイルが表示されます。例: 要求した時間間隔が **12:00:00-12:00:30** であり、最初の使用できるサムネイル画像が **12:00:33** であるとしみます。この間隔に該当する録画シーケンスがなければ、サムネイルを取得しようとはされず、次のサムネイルは次の間隔(**12:00:30-12:01:00**)から取得されます。ただし、この間隔に該当する録画シーケンスがある場合は、プレースホルダサムネイルが表示されます。

取得したサムネイル画像が、要求された時刻(つまり、問題のシーケンスの録画が監視システムでトリガされた時刻)から **3 秒以上** 離れている場合、シーケンスエクスプローラの**シーケンス**および**ブックマーク**タブにはプレースホルダサムネイルが表示されます。

プレースホルダサムネイルをクリックして、ビデオを表示することができます。こうすると、プレースホルダサムネイルが示す時点より**後**の、最初の使用できる記録に移動します。



証拠を印刷する

複数の方法で、録画されたビデオから単一の静止画像またはビュー全体を印刷できます。印刷すると、その画像は自動的に監視レポートに含まれます。この監視レポートには、記録されているインシデントに関するメモを含めることができます。



組織でアラーム処理機能を使用している場合、アラーム『127ページ』に関する情報も印刷できます。

監視レポートを印刷する

1. 監視レポートの一部として印刷する、関連するカメラ、ビュー、またはブックマークを選択します。
2. 関連する時間またはシーケンスを参照します。
3. マウスを画像の上に移動し、カメラのツールバーに表示されるメニューで、**印刷アイコン**  をクリックします。ブックマークを印刷する場合は、ブックマークのプレビューツールバーの**シーケンスエクスプローラ**タブで、**印刷アイコン**  をクリックします。

監視レポートが表示され、以下に関する情報と共に画像のプレビューが表示されます。

- カメラ名

- 画像取得時間
- 印刷時間
- ユーザーの名前

ブックマークについて：

- ブックマーク ID
- 時間の詳細
- ブックマークの表題
- ブックマークの説明(該当する場合)。

ユーザーのメモ：に、インシデントの説明を含めることができます。

ヒント：画像にデジタルズームを使用した場合は、拡大した部分のみが印刷されます。

オプション：用紙サイズ、ソース、印刷方向を変更または確認するには、**監視レポート**ウィンドウの**ページ設定**ボタンをクリックして、**ページ設定**ウィンドウを開きます。




準備ができたなら、**OK** をクリックして、**XProtect Smart Client 監視レポート**ウィンドウに戻ります。レポートをプレビューする場合は、**プレビュー**をクリックします。

4. **印刷**をクリックすると、画像とその関連情報が印刷されます。

スナップショットの作成

証拠ビデオをエクスポートする代わりに方法として、静止画像を保存または共有する場合は、画像のクイックスナップショットを作成できます。ライブ、再生、またはシーケンスエクスプローラの各タブで、あるいは画面自動切替、ホットスポット、またはカメラナビゲータからスナップショットを作成できます。

- スナップショットを作成するには、選択されたカメラのカメラツールバーで、スナップショットアイコンをクリックします：。スナップショットが作成されると、スナップショットアイコンが一時的に緑になります。

スナップショットファイルの場所を参照して、スナップショットを表示できます。スナップショットファイルは、アプリケーションオプション 『86ページの"XProtect Smart Client オプション"参照』で指定されたデフォルトのファイルの場所に保存されます。

画像にプライバシーマークが含まれる場合は、このプライバシーマークもスナップショット画像に適用されます。

録画済みビデオの検索

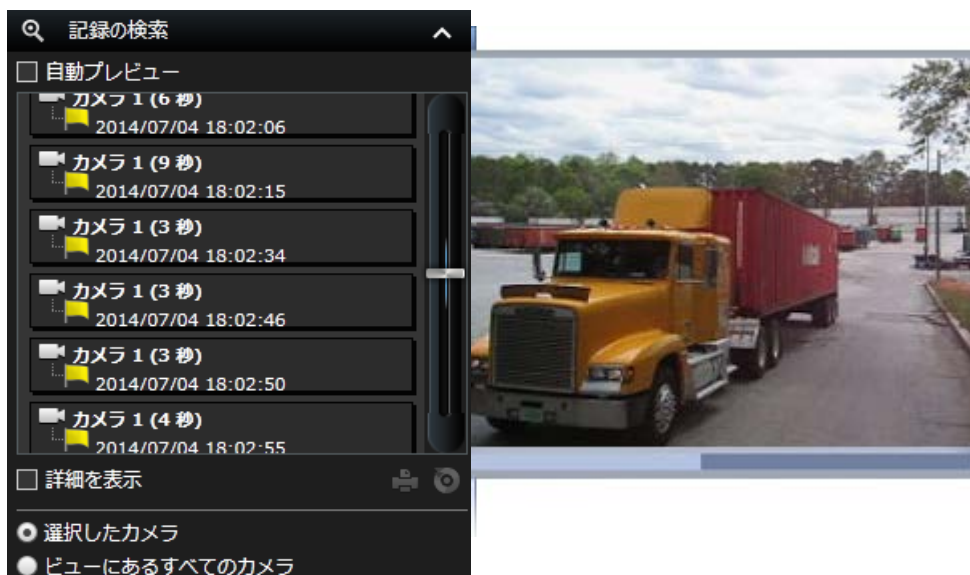
シーケンスエクスプローラ、記録の検索 『118ページの"記録の検索ペインを使用した検索"参照』 ペイン、またはスマートサーチ 『119ページの"スマートサーチペインを使用した検索"参照』 ペインを使用して、録画済みビデオを検索することができます。

再生タブで、記録の検索ペインを使用して、選択したカメラまたはビューにあるすべてのカメラで録画されたシーケンスやブックマークを簡単に検索できます。あるいは、スマートサーチペインを使って、特定のカメラのからの録画の中にある、1つまたは複数の選択した領域でモーションを検索することができます。

魚眼レンズカメラからのビデオにはスマートサーチは使用できません。スマートサーチの使用は、ユーザー権限によって制限される場合があります。

記録の検索ペインを使用した検索

1. 再生タブの記録の検索ペインを開きます。
2. 選択したカメラ、あるいはビューにあるすべてのカメラのどちらかを選択します。
3. 検索をクリックします。これにより結果のリストが取得されます。表示するよう選択した時間に最も近いシーケンスは、リストの中央に表示されます。選択した時間より前のシーケンスまたはブックマークは、上、後、下に表示されます。各シーケンスは、カメラ情報、日付、時刻と共に一覧表示されます。リスト内のシーケンスを選択すると、ビュー内のすべてのビデオが、選択したシーケンスの時間に移動します。
4. リストにあるそれぞれのシーケンスまたはブックマークに関する詳細を表示するには、詳細を表示を選択します。シーケンスの場合、シーケンス内の最初の画像の日付と時刻(緑色のフラグ)、最後の画像(格子模様のフラグ)、録画をトリガしたモーション検知、イベント(黄色いフラグ)が表示されます。ブックマークでは、詳細を表示では、ブックマーク時間からの画像や詳細説明(ある場合)から構成される追加情報が表示されます。
5. リスト内のブックマークやシーケンスの上にマウスを移動した時に、ビデオのプレビューを簡単に表示するには、自動プレビューを選択します。



6. リストでシーケンスまたはブックマークを選択していれば、印刷版のレポートを生成またはエクスポートできます。ブックマークの場合は(ユーザー権限によります)、編集や削除することもできます。詳細については、ブックマークの追加および編集、証拠の印刷 『116ページの"証拠を印刷する"参照』およびエクスポートを参照してください。

スマートサーチペインを使用した検索

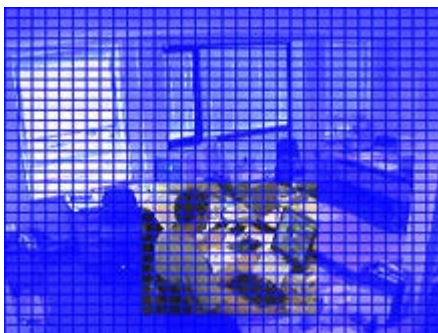
1. 再生タブのスマートサーチペインの検索エリアで、**グリッドの表示**を選択します。
2. ビューでカメラを選択します。青いグリッドオーバーレイが表示されます。



ヒント: 画像をダブルクリックすると拡大されて見やすくなります。□

3. 画像の内側でクリック、ドラッグして、スマートサーチを実行するエリアを選択します。複数のエリアを選択できます。

選択したエリアは、青いオーバーレイを通して見えるようになります。したがって、この青いオーバーレイはスマートサーチから**除外される**エリアを示していることとなります。



含めるまたは**除外する**のオプションをクリックして、選択したエリアを含めるか、除外するかを切り替えることができます。あるいは、選択を反転させて、選択しているすべてを含める、または除外することができます。**スマートサーチペインの含める**オプションと**除外する**オプションを使って、ドラッグしたエリアを含めたり除外することができます。



反転された選択部分の例

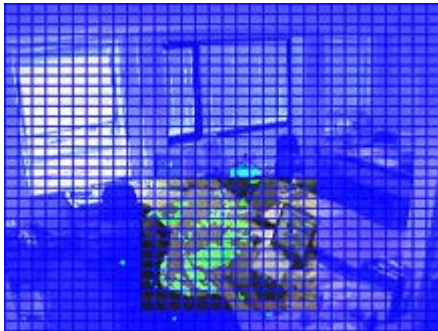
ヒント：反転をクリックする代わりに、クリック/ドラッグしながら **SHIFT** キーも押してエリアを選択できます。

4. **保存**をクリックして、検索エリアの設定を保存します。

ヒント：検索エリアに対してさまざまな変更を行って結果を確認する場合は、**ロード**をクリックして、保存した検索エリアの設定に戻ることができます。

5. **感度**リストで検索感度を選択し、**間隔**リストで画像の間隔を選択します。**すべての画像**を選択すると、すべての画像が分析されます。たとえば **10 秒**を選択すると、録画 **10 秒**ごとに **1 つ**の画像だけが分析されます。長い間隔を選択すると、検索時間を大幅に短縮できます。ただし、長い間隔では、指定した間隔よりも短いモーションシーケンスを見逃す可能性があります。
6. **次へ**（時間を先へ進む）または**前へ**（時間を前に戻る）をクリックして、選択されたエリアでモーションが検知されたシーケンスで検索を実行します。

選択されたエリアでモーションがあるシーケンスが見つかったら、モーションが強調表示されてビューに表示されます。



ヒント：再生タブのタイムラインに、対応する時間情報が表示されます。

7. 必要に応じて、**次へ**または**戻る**をクリックしてスマートサーチを続行します。

証拠のエクスポート

エクスポートウィンドウ

ユーザー権限とサーバーでの設定によって、一部のエクスポート設定が制限されたり、使用できないことがあります。

XProtect Smart Client では、ムービークリップ、音声、静止画像、または XProtect フォーマットで記録した証拠を簡単にエクスポートできます。設定したフォーマットおよび設定は保存され、次回エクスポートする際に表示されます。

一般的なエクスポート設定

名前	説明
エクスポート名	プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができます。保存するフォルダまたはデータを焼くディスクは、このエクスポート名を継承します。
エクスポート先	<p>パス - パスはユーザーが指定できます(フィールドによってパスが提案されることがあります)。この方法でパスを指定する場合、指定するフォルダが存在する必要はありません。そのフォルダが存在しない場合は、自動的に作成されます。</p> <p>メディアバーナー - バーナーを選択します。Microsoft の Image Mastering API (IMAPI-v2)メディアバーナーがインストールされている必要があり、デフォルトでほぼすべてのコンピュータにインストールされています。使用しているコンピュータに IMAPI-v2 がインストールされていない場合は、Microsoft のウェブサイトからダウンロードして、インストールできます。</p>
選択	これには、エクスポートに含めるために選択したアイテムが含まれていますが、たとえばカメラなどのアイテムを追加、削除することもできます。XProtect Smart Client ウィンドウの現在のビューから、アクセスできるすべてのビュー(Smart Wall ビューを含む)から、さらにアクセスできるすべてのカメラや音声から、アイテムを含めることができます。
プライバシーマスク	クリックして、カメラのプライバシーマスクを設定します。画像の一部が表示されないように、選択したエリアを不透明の黒いエリアで覆います。既存のプライバシーマスクは削除できません。新しく追加できるだけです。

このウィンドウのプロパティ：

XProtect フォーマットの設定	122
メディアプレイヤーのフォーマット設定	123
静止画像設定	124

XProtect フォーマットの設定

XProtect フォーマットでエクスポートできるのは、一部の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合のみです。ユーザー権限によっては、一部またはすべてのカメラからの証拠のエクスポートが制限される場合があります。

名前	説明
XProtect Smart Client - Player を含める	選択すると、エクスポートするビデオに XProtect XProtect Smart Client - Player アプリケーションが含まれます。XProtect フォーマットは、XProtect Smart Client でのみ再生できます。
再エクスポートしない	ビデオの再エクスポートを許可しない場合に選択します。受信者は、いかなるフォーマットでもエクスポートできません。
パスワード保護	エクスポートするデータに適用する暗号化方式を選択します。

名前	説明
デジタル署名を含める	<p>選択すると、エクスポートするデータにデジタル署名が含まれます。使用する監視システムによって、データにすでに署名が含まれていることがあります。この場合は、これらの署名はエクスポート中に検証され、検証が成功するとエクスポートに含まれます。検証が失敗すると、デバイスに対するエクスポートも失敗します。エクスポートされたファイルを受信者が開く時に、XProtect Smart Client – Player で署名を検証 『142ページの"署名の確認"参照』することができます。</p> <p>デジタル署名を含めない場合、サーバーからの署名もエクスポートも含まれず、データが改変されていてもエクスポートが成功することになります。</p> <p>エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の2つのシナリオがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プライバシーマスクが追加されると、レコーディングサーバーの電子署名はエクスポートに含まれません。 • エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。 <p>エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的にOKになっていることが分かります。</p>
ビューレイアウトの保持	<p>選択すると、エクスポート元となる現在のビューからのビューレイアウトを保持します。</p>
ビューレイアウトの最適化	<p>選択すると、レイアウトを最大25のビューの位置がある正方形のビューに最適化します。</p>
コメント	<p>クリックしてエクスポートにコメントを追加するウィンドウを開くと、個別のカメラやプロジェクト全体にコメントを追加することができます。以後のエクスポートで、プロジェクトのコメント(個別のカメラのコメントではなく)をデフォルトで含めるように選択することも可能です。</p>

メディアプレイヤーのフォーマット設定

メディアプレイヤーのフォーマットを使用すると、標準のコーデック・メディアプレイヤーで再生することが可能なビデオ・音声クリップをエクスポートできます。

名前	説明
コンテンツの選択	ビデオのみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートするか選択してください。
形式の選択	AVI 形式または MKV 形式でビデオをエクスポートするか選択してください。 XProtect Go では、MKV 形式は使用できません。
コーデック	ビデオコーデックは、ビデオファイルを生成する際に使用される特別な圧縮/解凍テクノロジーです。選択したコーデックは、AVI ファイルの品質とサイズに影響します。 リストには、使用中の PC で使用可能なビデオコーデックが含まれています。 コーデックを変更することはできますが、変更するべき十分な理由がない限り、デフォルトのコーデックの設定を使用することをお勧めします。
タイムスタンプを含める	監視システムからの日付と時刻をエクスポートされた画像に追加する場合に選択します。エクスポートされた画像の最上部にタイムスタンプが表示されます。
フレームレートの低減	選択すると、エクスポートのフレームレートを低減させます。1 つおきに画像をエクスポートしますが、リアルタイムで再生できます。
ビデオのテキスト	ビデオのテキストのウィンドウをクリックして開き、AVI ファイルの前後のテキストを作成することができます。これらのテキストは、エクスポートするすべてのカメラに追加され、ビデオの前(プレスライド)または後(ポストスライド)に静止画像として表示されます。


重要：MKV 形式でエクスポートを実行した場合：H.264、JPEG、MPEG-4 のいずれかの形式で録画したビデオにプライバシーマスクを使用しなかった場合、エクスポート時に録画ビデオはトランスコードされません（録画したビデオの元の品質が保持されます）。対照的に、プライバシーマスクを使用しているか、他のコーデック（例、MxPEG または MPEG-4 ショートヘッダモード）を使用してビデオを録画した場合、録画されたビデオはエクスポートで JPEG にトランスコードされます。

静止画像設定

単一のビデオフレームをエクスポートする場合は、これらを静止画像としてエクスポートすることができます。

名前	説明
タイムスタンプを表示	監視システムからの日付と時刻をエクスポートされた画像に追加する場合に選択します。エクスポートされた画像の最上部にタイムスタンプが表示されます。

ビデオクリップ、音声、静止画像のエキスポート

1. タイムラインの再生タブで、**時間選択モード**  ボタンをクリックし、エキスポートするシーケンスの開始時間と終了時間 『110ページの"時間選択"参照』を選択します。
2. XProtect Smart Client のツールバーで、**エキスポート**をクリックして、**エキスポート**ウィンドウを開きます。
選択したアイテムに対する追加に関連するビデオまたはデータが含まれている場合、**選択**で選択することで、これらをエキスポートに含めることができます。また、この選択を**エキスポート**ウィンドウで変更することもできます。
3. **エキスポート名**フィールドに、エキスポートしたビデオの名前を入力します。ここで名前を入力しなかった場合、プログラムが日付と時間を使って自動的に名前を作成します。
4. ファイルのエキスポート先のパスまたはメディアバーナーを指定します。
5. 関連するタブをクリックして、以下からエキスポートするフォーマットを選択します：
 - **XProtect フォーマット**。Milestone XProtect データベースフォーマットで、XProtect Smart Client – Player を含めるオプションを使ってエキスポートすれば、受信者はエキスポートされたビデオを再生できます。このフォーマットは、XProtect Smart Client – Player アプリケーションでのみ再生可能です。
 - **メディアプレイヤーのフォーマット**。大半のコンピュータで再生できるフォーマットでエキスポートします。
 - **静止画像**。選択した期間の各フレームを静止画像としてエキスポートします。
6. 選択したフォーマットに必要な設定 『121ページの"エキスポートウィンドウ"参照』を指定します。
7. **エキスポートの開始**をクリックすると、証拠のエキスポートが始まります。

よくある質問：エキスポート

音声もエキスポートできますか？

メディアプレイヤーのフォーマットおよび XProtect のフォーマットをエキスポートする場合、監視システムが音声に対応していれば、マイクからの録音音声もエキスポートできます。JPEG (静止画) フォーマットでエキスポートする場合は、音声を含めることはできません。

ブックマークビデオクリップをエキスポートすると、何がエキスポートに含まれますか？

指定されたクリップの開始時間から指定されたクリップの終了時間まで、ブックマークビデオクリップ 『105ページの"ブックマーク"参照』の全体が含まれます。

シーケンスをエキスポートすると、何がエキスポートに含まれますか？

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

デジタルズームされた画像をエキスポートできますか？

はい。エキスポートする前にデジタルズームしている場合、メディアプレイヤーのフォーマットまたは静止画フォーマットでエキスポートする際に、標準の画像かデジタルズームした画像のどちらかをエキスポートできます。XProtect フォーマットでエキスポートしているときは、受信者がエキスポートされた録画をデジタルズームできるため、この選択は必要ありません。

魚眼レンズ録画をエキスポートできますか？

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ(例、360°のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ)をサポート

トしている場合は可能です。2x2 あるいは魚眼レンズ分割ビューをエクスポートできます。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか？

通常は独自のパスを指定できますが、特定のタイプの監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続していなければ、監視システムサーバーがエクスポートパスの設定を管理し、ユーザーは独自のパスを指定することができません。

エクスポートしたビデオから、デジタル署名が削除されているのはなぜですか？

エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の2つのシナリオがあります。

- プライバシーマスクが追加されると、レコーディングサーバーの電子署名はエクスポートに含まれません。
- エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。

エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的に OK になっていることが分かります。

不正な変更や悪意のあるユーザーから、エクスポートする証拠を保護できますか？

はい。XProtect フォーマットでエクスポートする際、受信者による 『122ページの"XProtect フォーマットの設定"参照』素材の再エクスポートを禁止する、エクスポートした証拠をパスワードで保護する 『122ページの"XProtect フォーマットの設定"参照』、エクスポートした素材に署名を追加する 『122ページの"XProtect フォーマットの設定"参照』のいずれかを選択できます。

イベントおよびアラーム


アラーム

アラームについて

アラームおよびマップ機能は、特定の種類の監視システム 『38ページの"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合のみ使用できます。特定のユーザー権限が必要な場合があります。

監視サーバーでは、ほぼすべての種類のインシデントまたは技術的問題(イベント)によって、アラームをトリガするよう設定できます。これらはすべて、監視システムのインシデント、ステータス、および可能性のある技術的な問題の概要を一元的に見ることができる**アラームマネージャ**タブを使って表示することが可能です。

アラームマネージャタブは、監視システムの設定での定義に応じて、表示または非表示になります。アラームのトリガは、**XProtect Smart Client**では設定できません。これは、監視システムの管理者が監視システム設定の一部として行います。

アラームマネージャタブは、アラームやイベントの処理専用のビューを提供します。タブ自体は、アクティブなアラームの数を表示します(最大で**9** — これ以上の場合**9+**と表示されます) 。アラームマネージャタブには、アラームリスト、アラームのプレビュー(個別のアラームやイベントに関連付けられたビデオのプレビュー用)、さらに該当する場合は、マップ位置(アラームインジケータの地理的表示用)が含まれます。**レポート**ボタンをクリックして、インシデントについての関連レポート 『134ページの"アラームレポートの表示"参照』を表示します。

アラームマネージャタブ

アラームマネージャタブは、監視システムの設定での定義に応じて、表示または非表示になります。

このウィンドウのプロパティ :

アラームのプレビュー	127
アラームリスト	128


アラームのプレビュー

ビデオが関連付けられているアラームやイベントの場合、アラームリストで特定のアラーム位置を選択すると、選択したアラームやイベントからの録画ビデオがアラームプレビューに表示されます。アラームに複数のカメラが関連付けられている場合、あるいは複数のアラームを選択した場合、複数のプレビューが表示されます。アラームに関連付けられているビデオがない場合は、アラームプレビューは灰色で表示されます。アラームプレビューのプロパティは、設定モード 『29ページの"設定モードに入る"参照』で変更できます。

アラームプレビューの設定

名前	説明
同じカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに同じカメラを複数回表示します。アラームプレビューは、アラームリストで選択されているものを反映します。複数のアラームまたはイベントを選択することが可能であるため、選択したアラームまたはイベントが同じカメラに関連付けられている場合は、同じカメラからのビデオがアラームプレビューに何回も表示されることがあります。
イベントソースカメラを表示	選択すると、監視システムサーバーでアラームまたはイベントが設定されたカメラからのビデオ（ある場合）を表示します。このフィールドをクリアすることは、お勧めいたしません。
関連するカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに関連するカメラからのビデオを表示します。1つのアラームまたはイベントにつき最大16台の関連カメラからの関連ビデオを表示することが可能です。XProtect Smart Clientでは、関連するカメラの数を指定できません。数はアラームによって異なり、監視システム設定の一部として指定されます。
オーバーレイを表示	移動しているオブジェクトの経路を追跡する線などのオーバーレイ情報を表示できるプラグインとアラームプレビューを使用している場合のみ該当します。これは、XProtect Smart Clientの標準機能ではありません。

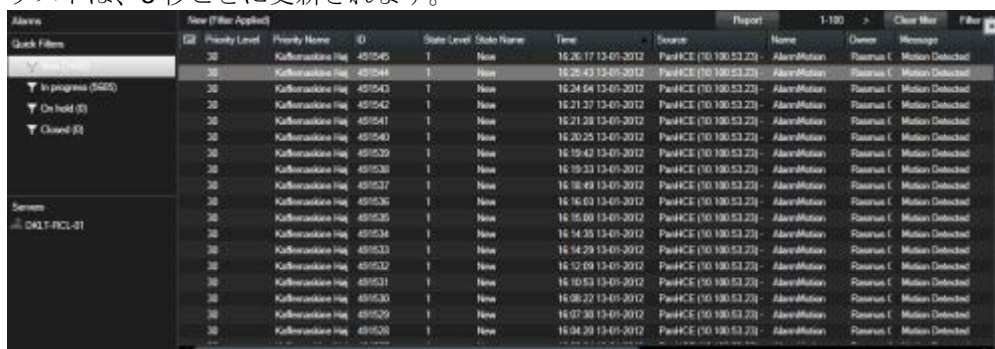
アラームリスト

デフォルトでは、アラームリストには、最新のアラームがリストの最上部になるように受信アラームが表示されます。あるいは、アラームリストにアクセスコントロールやナンバープレート認識などのMIPプラグインや分析イベントのリストを表示することもできます。イベントのリストを表示するには、設定モードで、アラームリストがイベントを表示するように定義します『129ページの"アラームリストの設定"参照』。ビデオが関連付けられているアラームやイベントには、アイコンが付いて表示されます。アラームやイベントの発生時からの静止画をプレビューするには、アイコンの上にマウスを移動させます。アラームやイベントに関連付けられたカメラからの録画ビデオを再生するには、リストでアラームやイベントを選択してアラームプレビューで再生します。

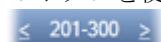
リストの表示方法を決めたり、列をフィルターしたり、列を別の位置にドラッグしたり、特定の列を右クリックして表示または非表示にすることができます。

イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。

リストは、3秒ごとに更新されます。




ヒント：一度に複数のアラームやイベントを選択することができ、選択したアラームやイベントに関係付けられた最大 16 台のカメラからのビデオが、アラームプレビュー位置で再生されます。パフォーマンスを最適化するために、デフォルトではリストに同時に最大 100 のアラームまたはイベントが表示されます。前の/次のアラームやイベントを参照するには、アラームリスト位置の右上部分のボタンを使用します。







アラームリストの設定

設定モード『29ページの"設定モードに入る"参照』で、ナビゲーションツリーでアラームまたはイベントをサーバー別にグループ化して表示するかどうか、また同時にいくつかのアラームやイベントをリストで表示するかを選択できます。ここで、アラームリストにアラームやイベントを表示するかどうかを指定することもできます。


名前	説明
ナビゲーションツリーを表示	選択すると、アラームリストの左側にナビゲーションツリーを表示します。ナビゲーションツリーには、それぞれの優先順位および状態におけるアラーム数だけでなく、アラームの優先順位および状態の概要が表示されるため、このオプションを選択しておくことをお勧めします。





<p>フェッチする最大行数</p>	<p>取得してアラームリストに表示する最大行数を制御します。デフォルトでは、アラームリストには最大で 100 行が表示され、これは 100 のアラームまたはイベントが同時に表示可能であることを意味します。これより多い数のアラームまたはイベントの取得や表示には時間がかかる場合があるため、これにより応答時間が短縮されます。100 個以上のアラームまたはイベントがあることはよくあり、最初の 100 以上のアラームまたはイベントを表示する場合は、アラームリストの右上部分にあるボタンを使用して、次に取得および表示される次のアラームまたはイベントを参照します。</p> <p></p> <p>このフィールドでは、最大行数を 1~999 に設定できますが、リストのアラームやイベントの数が増えるほど、リストの表示にかかる時間が長くなります。数を変更する場合、リストの行数は、アラームリスト内の行などの取得する最大行数と異なる要素を選択するまで更新されません。</p>
<p>データソース</p>	<p>アラームリストで、アラームやイベントのリストを表示するかどうかを選択します。</p> <p>イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。</p>

フィルター



アラームには以下の状態があります。新規 、進行中 、保留中 、または、終了 。各アラームの状態はアラームリストの状態列に表示されます。フィルターペインで、特定の基準でフィルター『131 ページの"アラームをフィルターする"参照』できます。最初は、すべてのアラームが新規の状態ですが、アラームが処理されると、状態が更新されます。

サーバー

アラームリストの左側に、発生した監視システムサーバー  ごとに、アラームがグループ化されています。多くの監視システムでは単一のサーバーしか使用していませんが、階層上の複数のサーバーで構成されているシステムもあります。アクセスできるすべてのサーバーが一覧表示されます。各項目はクリックでき、サーバー、すべてのプロパティ、高優先順位などを基準にしてアラームリストを簡単にフィルターできます。

各項目に表示される数字は、関連する優先順位または状態のアラームの数を表します。ただし、サーバーに対して表示される数は、新規の状態のアラーム数のみを表しています。サーバーが赤色のアイコン  で表示されている場合は、利用できず、そのサーバーからのアラームは表示できません。アラームには以下の優先順位があります。高 、中 、または低 。各アラームの優先順位はアラームリストの最初の列に表示されます。特定の優先順位のアラームをすべて表示するには、アラームリストの左側のツリー構造で優先順位を選択します。

接続失敗

XProtect Smart Client から、アラームを処理する監視システムサーバーのコンポーネントであるイベントサーバーへの接続が切断されると、アラームリストの上部バーの色が青色  から赤色  に変わり、ユーザーに通知されます。接続が切断されている限り新しいアラームを受信できないため、これは重

要です。接続の切断は、ネットワークの問題などが原因で起こります。問題が解消されない場合は監視システムの管理者にお問い合わせください。接続が再確立されると、上部バーが青色に戻ります。

dkts-vap-13v27 - Failed to connect to Event Server

アラームをフィルターする


関心があるアラームやイベントだけが表示されるように、複数の方法でアラームリストをフィルターすることができます。マップでエレメントをクリックすると、そのエレメントに関連しているアラームだけが表示されます。また、フィルターペインで事前に定義されているフィルターをクリックしたり、独自のカスタムフィルターを定義することも可能です。

- アラームリストの内容をフィルターするには、**アラームリスト** ツールバーで、**フィルター** をクリックして、アラームリストの上にある **フィルター** ペインを開きます。フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。たとえば、**ID** フィールドに **ユーザーID** を入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームだけが表示されます。

フィルターは組み合わせることも可能です（特定の日付の特定の場所など）。フィルターを適用すると、フィルターセクションの背景色が、青色からオレンジ色に変わります。フィルター処理していないアラームリストに戻るには、アラームリストのツールバーにある **フィルターのクリア** リンクをクリックします。

ヒント：多くの場合、フィルター条件を入力するフィールドには、必要な名前、場所などの最初の数文字を入力するだけで十分です。フィルター条件を入力しても、他のフィルターフィールドに挿入点を移動するまで、アラームリストは更新されません。

ヒント：アラーム処理にマップコンテンツが含まれる場合は、マップ上の要素（カメラ、サーバーなど）を右クリックして、**アラームの表示** を選択することでアラームリストをフィルター処理できます。これにより、選択したエレメントからのアラームだけがアラームリストに表示されます。

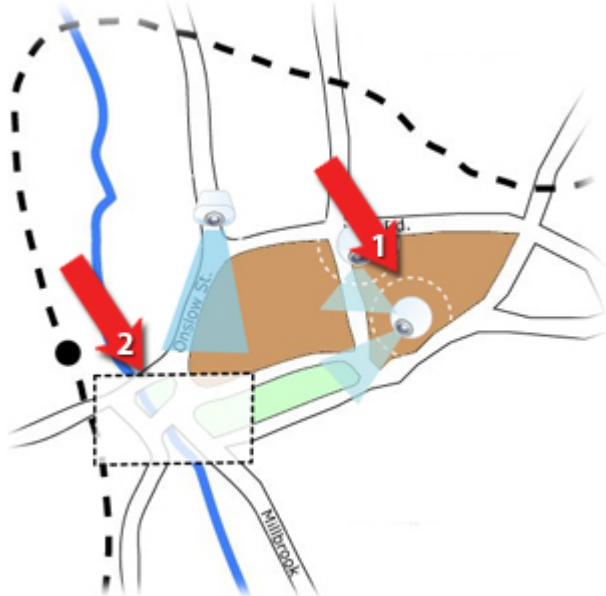
- アラームリストの内容を並べ替えるには、**アラームリスト** で、列の最上部にある  ボタンをクリックします。

マップ上のアラーム

アラーム処理ビューに 1 つまたは複数のマップ 『60ページ』位置が含まれる場合、マップにアラームを表示することもできます。マップは、カメラ、サーバーまたはアラームをトリガする他のデバイスの地理的位置に基づいてアラームを表示するので、アラームがどこで発生したか簡単に確認できます。右クリックすることで、マップから直接アラームを確認、無効化、抑制することができます。カメラエレメントは、マウスを置くと、サムネイル形式のビデオを表示します。アラームと併用する場合、アラームが発生すると、マップ上のグラフィック要素に、白い円が表示されます。たとえば、特定のカメラに関連付けられたアラームが発生するとすぐに、そのカメラを表すグラフィック要素に白い円が表示され（以下の図の **1** を参照）、カメラエレメントをクリックすると、カメラからのビデオを表示するだけでなく、表示されるメニューからアラームを処理することもできます。

ヒント：白色がマップでのアラームを表す色として適切でない場合は、色を変更できます。

アラームが関連付けられているカメラが番地レベルのマップにあり、市のレベルのマップを表示しているとします。アラームを通知するにはどうしたらよいでしょうか?異なるマップ階層レベルをつなぐグラフィック表現であるホットゾーンを使用すれば問題ありません。町村レベルのマップでアラームが検出された場合、中間にマップレベルがあっても、市レベルマップのホットゾーンが白色に変わり(以下の図の **2** を参照)、より低いレベルのマップでアラームが発生したことを示します。



複数のエレメントからのアラームを表示できるアラームリストモードに戻るには、アラームリストに表示されている必要なサーバー、優先順位、または状態をクリックします。

イベント

イベントは、監視システムで事前に定義されたインシデントであり、アラームをトリガするように設定できます。イベントは、事前に定義されたシステムインシデントまたはユーザー指定のイベント(たとえば、XProtect Analytics、ジェネリックイベント、またはユーザー指定)のどちらかです。イベントは必ずアラームにリンクしなければならないわけではありませんが、リンクすることができます。

通常、イベントはバックグラウンドで自動的にアクティブ化(たとえば、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータの結果として)されますが、手動で起動することもできます。イベントは、録画の開始や停止、ビデオの設定の変更、出力の起動、あるいは複数のアクションの組み合わせなどのアクションをトリガするために監視システムによって使用されます。使用している XProtect Smart Client でイベントをアクティブ化すると、自動的に監視システムでアクションを起動します。たとえば、特定の期間、特定のフレームレートで特定のカメラで録画したり、事前に指定したインシデントの説明のテキストメッセージを特定のセキュリティ担当者の携帯電話に送信するなどです。

監視システムの管理者は、手動でイベントをアクティブ化した場合の動作を指定します。監視システムの管理者は、手動でアクティブ化されるイベントに対して、条件イベントのボタン、ユーザー定義イベントやカスタムイベントを使用することがあります。

手動でイベントをアクティブ化する

- ライブタブのイベントペインで、関連するイベントを選択してから、アクティブ化をクリックします。

選択可能なイベントのリストは、サーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。階層構造内では、グローバルイベントが関連するサーバーの下に表示されます。サーバーが赤色のアイコン付きでリストされている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーではイベントをアクティブ化できません。代わりに、カメラで使用可能であれば、マウスを画像の上に移動した時に表示されるオーバーレイボタンをクリックします。

出力を以前にアクティブ化していれば、確認はありません。

アラームの操作

アラームリストから、アラームの確認、アラームの詳細の編集、アラームに関する情報を記載したレポートの印刷ができます。

アラームの詳細の表示および編集

アラームをダブルクリックして、アラームのウィンドウを開きます。ウィンドウには、アラームインシデントとライブビデオのプレビューが表示されます。アラームは以下の方法で管理できます：

- **状態**：アラームの状態を変更できます。通常は、**新規**から**進行中**に状態を変更し、その後で**保留中**または**終了**に変更します。ただし、必要な場合は、たとえば、**保留中**から**新規**に変更することもできます。
- **優先度**：アラームの優先度を変更できます。
- **割り当て先**：必要な場合、自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てることができます。アラームを割り当てられたユーザーは、アラームの所有者になり、アラームリストの**所有者列**に表示されます。
- **コメント**：アラーム履歴に追加されるコメントやメモを記入できます。コメントは通常、ユーザーが行ったアクションに関連します。例：「警備員が容疑者を確保」、「容疑者を警察に引き渡した」、「誤警報」など。
- **アラーム履歴**：アラーム履歴は、どのようにアラームを処理したかの概要です。アラームの状態または優先順位にユーザーが変更を加えると、ユーザー間でのアラームの再割り当て、追加されたコメントがアラーム履歴に自動的に含められます。アラーム履歴を表示するには、編集ダイアログの左下にある▼ボタンをクリックします。

監視システムサーバーの設定によっては、アラーム履歴に、アラームの処理方法についての説明が含まれていることがあります。この場合、アラームを編集するときにアラーム履歴が自動的に表示されます。
- **印刷**：アラーム履歴や、利用できる場合はアラームの時刻での静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。

アラームの確認

- アラームを受信し、それに対応したことを記録するには、対象となるアラームを右クリックして**確認**を選択します。これにより、アラームの状態が**新規**から**進行中**に変わります。確認できるのは新規のアラームだけです。

複数のアラームを同時に確認することができます。Ctrl キーを押したままにして、確認するアラームを選択します。

アラームの無効化

「誤警報」の原因となった活動が分かっている場合、一定の期間、このタイプの活動に対するアラームを無効にする必要がある場合があります。これによって、対応する必要がある正しいアラームが区別しにくくなることがあります。たとえば、あるカメラの周囲に多くの動きがあり、これがいくつかの「誤警報」を生じている場合、このカメラで 10 分間モーション検知を無効にすることができます。

1. アラームリストで、アラームを選択します。
2. 右クリックして、**新しいアラームを無効にする**を選択します。
3. **アラームの無効化**ウィンドウで、アラームを無効にする期間を指定します。

アラームの無視

マップで指定した期間、エレメントに対するアラームを無視することができます。たとえば、カメラが修理中で接続が解除されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視しても、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。

アラーム情報を記載したレポートの印刷

アラームリストから、アラーム履歴、利用可能な場合はアラーム発生時からの静止画像を含む、アラームについての情報を記載したレポートを印刷できます。対象となるアラームを右クリックして、**印刷**を選択します。アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、印刷機能は使用できません。

アラームレポートの表示

- **レポート**ボタンをクリックして、**アラームレポート**ウィンドウを開くと、以下の事前定義のレポートの 1 つを表している 2 つのグラフを表示できます。
 - カテゴリ
 - 都道府県
 - 優先度
 - 終了の理由
 - サイト
 - 応答時間

レポートをフィルターして、24 時間、7 日、30 日、6 か月、または 1 年の期間のアラームを表示することができます。

カテゴリ、状態、優先度、終了の理由、サイト、応答時間などを選択して、2 つのグラフを横に並べて表示し、比較することができます。グラフの縦軸はアラームの数、横軸は時間枠になります。

アラームをフィルターする

関心があるアラームやイベントだけが表示されるように、複数の方法でアラームリストをフィルターすることができます。マップでエレメントをクリックすると、そのエレメントに関連しているアラームだけが表示されます。また、フィルターペインで事前に定義されているフィルターをクリックしたり、独自のカスタムフィルターを定義することも可能です。

- アラームリストの内容をフィルターするには、**アラームリスト**ツールバーで、**フィルター**をクリックして、アラームリストの上にある**フィルター**ペインを開きます。フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。たとえば、**ID** フィールドに**ユーザーID**を入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームだけが表示されます。

フィルターは組み合わせることも可能です（特定の日付の特定の場所など）。フィルターを適用すると、フィルターセクションの背景色が、青色■からオレンジ色■に変わります。フィルター処理していないアラームリストに戻るには、アラームリストのツールバーにある**フィルターのクリア**リンクをクリックします。

ヒント：多くの場合、フィルター条件を入力するフィールドには、必要な名前、場所などの最初の数文字を入力するだけで十分です。フィルター条件を入力しても、他のフィルターフィールドに挿入点を移動するまで、アラームリストは更新されません。

ヒント：アラーム処理にマップコンテンツが含まれる場合は、マップ上の要素（カメラ、サーバーなど）を右クリックして、**アラームの表示**を選択することでもアラームリストをフィルター処理できます。これにより、選択したエレメントからのアラームだけがアラームリストに表示されます。

- アラームリストの内容を並べ替えるには、**アラームリスト**で、列の最上部にある▼ボタンをクリックします。

アクセスコントロール

※本機は、アクセスコントロールには対応していません。

アクセスコントロールの統合について

XProtect®アクセスコントロールモジュール (ACM) 2014 の使用では、この機能へのアクセスを認めるライセンスを購入しておく必要があります。

XProtect アクセスコントロールモジュール (ACM) 2014 のベンダー固有のプラグインを持つベンダーからのアクセスコントロールシステムを使って XProtect ACM 2014 を使用できます。

XProtect Smart Client のアクセスコントロールは、XProtect ビデオ管理ソフトウェアの機能のあるアクセスコントロールシステムからのイベントを統合します。アクセスコントロールシステムからの情報により、XProtect システムでイベントが生成されます。ライブタブでリアルタイムにアクセスコントロールのイベントを監視できます。さらに、アクセスコントロールタブで特定のイベントやドアの状態を表示して調べることができます。

ライブタブを使って、ドアに関連付けられた複数のカメラを同時に表示して、これらのカメラに関連付けられたすべてのライブアクセスコントロールイベントの全概要を示すことができます。セットアップモードでは、オーバーレイボタンとマップを統合したアクセスモニタービューアイテムをカスタマイズできます。

あるユーザーがアクセスを要求すると、カメラフィードの隣の関連情報の一覧とは別に通知がポップアップ表示されます。ドアのロックおよびロック解除などのアクセスコントロールコマンドをトリガできます。

アクセスコントロールタブは、すべてのアクセスコントロールのイベントを専用で表示し、現在のドア状態の表示を行います。イベント表示には、イベントリスト、(個々のイベントに関連するビデオをプレビューするための)プレビューと、ドアの詳細が含まれます。イベントを簡単に検索して、関連する映像を表示できます。フィルタオプションにより、特定の時間、ドアまたはカード所有者からのイベントを表示できます。

ドア表示には、ドアおよび現在の状態のリストが含まれています。あるドアを選択すると、詳細情報とともに、関連付けられたカメラが画面の右側にライブ映像を表示します。ドアに関連付けられたカメラが複数ある場合、切り替え表示することができます。このドアで使用できるコマンドはボタンとして表示されます。

ライブタブのアクセスコントロールについて

ライブタブで、ビデオの右側でイベントのリストとして表示される、アクセスコントロールソースに関連するカメラからアクセスコントロールのイベントのビデオを表示できます。

リスト内のイベントのいずれかをクリックすると、ライブ映像が自動的に一時停止し、イベントの独立再生に変更されます。ライブ映像の表示に戻るには、イベントをサイドクリックするか、カメラツールバーの**独立再生**アイコンをクリックしてください。

システムとイベントにカード所有者情報が保持されている場合、選択したイベントのカード所有者名の横にある検索アイコンをクリックし、アクセスコントロールタブにジャンプして、そのユーザーに関連付けられたすべてのイベントを表示できます。

アクセスモニターをビューに追加

1. セットアップモードの**ライブタブ**で、アクセスコントロールカメラを追加するビューを選択します。
2. **システム概要**ペインで、**アクセスモニター**をクリックし、ビューの関連する位置へドラッグします。
3. 表示される**アクセスモニター設定**ダイアログで、ドアとカメラ、およびビューアイテムの外観を指定します。

プロパティペインの**ライブタブ**でアクセスコントロールイベントを表示する方法を指定できます。

アクセスモニター設定

- 表示するドアおよび関連付けられたカメラを指定します。ドアに複数のアクセスポイントがあり、複数のカメラが関連付けられている場合、アクセスポイントそれぞれのビューを設定できます。
- 表示したいイベントを指定します。たとえば、異なるイベントタイプで、ビューアイテムを設定できます。(システムイベント用が1つとアクセス要求用が1つなど。)
- 使用可能にしておきたいコマンドを指定します。

アクセスモニタービューアイテムで、イベントリストの表示順を指定します。 オーバーレイボタン

ドアやアクセスポイント用に設定したコマンドのリストから、アクセスコントロールオーバーレイコマンドボタンをビューアイテムに追加できます。

マップの統合

監視およびアクセスコントロールをサポートするマップ機能を使用する場合、マップにアクセスコントロールのユニットを追加できます。マップツールボックスから、例えば、ドアなどのアクセスコントロールのユニットを選択します。アクセスコントロールのユニットの状態は常に表示されているため、このような方法でマップを使用することで、監視しているエリアや建物のアクセスコントロールのユニットの状態のグラフィカルな概要を簡単に確認することができます。

アクセスコントロールタブ

アクセスコントロール関連のイベントやドアの状態は**アクセスコントロールタブ**に表示されます。ログに記録されたイベントを調査し、現在のドアの状態を表示し、特定のコマンドを実行することができます。

パフォーマンスを最適化するために、リストには同時に最大 100 行のみが表示されます。前の/次の 100 行を参照するには、リストの右上にある矢印ボタンを使用します。 **< 101 - 200 >**

リストにデータを表示する方法を変更し、列をソートし、別の位置に列をドラッグできます。また、リストの一番上にあるフィルタを使用して、フィルタをかけることができます。

お使いの XProtect システムが複数のアクセスコントロールシステムと統合する場合のみ、アクセスコントロールシステムでフィルタとソートを行うことができます。

バックグラウンドでメインウィンドウを維持しながら、別々のウィンドウにアクセスコントロールタブをドラッグして、同時に複数のビューを表示することができます。

リスト

以下に関連するデータをフィルタ、ソート、レビューすることができます。

- **イベント**：イベントは、タイムスタンプ、イベントタイプ、関連するドアまたはアクセスコントロールのユニット、およびカード所有者名（利用可能な場合）とともに記録されます。イベントを選択すると、右側のプレビューで、イベントの関連ビデオシーケンスを表示できます。プレビューカメラタイトルバーは、イベントをトリガしたユニットに関連するカメラを示します。ドアに関連付けられたカメラが複数ある場合、切り替え表示することができます。標準の独立再生オプションは、ツールバーから利用可能です。利用可能なカード所有者情報は、選択したイベントとともにビデオのプレビューの下に表示されます。
- **ドア**：ドア、各アクセスコントロールシステム内のアクセスポイントおよび他のアクセスコントロールのユニット、およびそれらの現在の状態を一覧表示します。あるドアを選択すると、詳細情報とともに、関連付けられたカメラが画面の右側にライブ映像を表示します。ドアに関連付けられたカメラが複数ある場合、切り替え表示することができます。アクションボタンにより、例えば、ドアのロック/ロック解除といったあるドアに関連する特定のコマンドを実施できますが、利用可能なコマンドは、システム設定によって異なります。関連する最新情報は、ライブビデオのプレビューの下に表示されます。

フィルタと検索

イベントやドアの状態のリストにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。そのフィルタに関連付けられたデータのみを参照するには、リストの上部にあるフィルタのいずれかをクリックします。適用するフィルタが直ちにリストに反映されます。

イベントリスト：

時刻	その特定期間のデータを参照するには、利用可能な時間帯のいずれか1つを選択します。例えば、 今日 をクリックすると、今日起こったイベントだけを参照します。または特定の期間を指定するには、カスタム間隔を使用します。
イベント	イベントカテゴリと未分類イベントのリストから使用可能なイベントタイプを1つ以上を直接選択するか、特定のアクセスコントロールイベントのいずれかを選択します。
ソース	ドアのリストから利用可能なソースの1つ以上を直接選択するか、他のソースのいずれか（例えば、アクセスコントロールシステムのアクセスポイントまたはコントローラ）を選択して、それらのユニットのイベントのみ表示します。

ドアのリスト：

名前	利用可能なドア、アクセスポイントおよび未分類タイプのうち1つ以上を選択するか、他のアクセスコントロールのユニットのいずれかを選択して、選択したものの状態のみ表示します。
状態	状態カテゴリと未分類状態のリストから使用可能な状態を1つ以上を直接選択するか、特定のアクセスコントロール状態のいずれかを選択します。

フィルタを組み合わせることも可能です（特定の日付の特定のカード所有者など）。また、列の任意の値を右クリックすると、データにその値で即時にフィルタをかけます。

検索フィールドを使って、イベントリスト内の特定のカード保有者とドアリスト内のユニット名を検

索できます。

リストには、検索またはフィルタをかけた時のデータのみが表示されます。最新のデータを表示する場合は、**更新**ボタンをクリックします。

アクセスコントロールシステムアプリケーション

システムによっては、**アクセスコントロール管理**、たとえば、アクセス管理またはカード所有者管理を経由してアクセスコントロールシステムアプリケーションに接続できる場合があります。

アクセス要求の通知について



あなたの組織では、人があなたの建物に入る際にセキュリティ担当者がドアを開けなければならないように選択している場合があります。そのような条件が適用される場合、例えば、ある人が 1 つ以上のエリアに入る際にアクセス要求の通知を受け取ることがあります。アクセス要求の通知をトリガするすべての条件は、ビデオ管理システムで指定しなければなりません。通知には、アクセス要求に関連するビデオが表示されるため、誰がアクセスを要求しているかを確認することができます。開くべきドアの名前は、例えば、**アクセス要求 - フロントドア**など、見出しとして表示されます。ドアの状態（例えば、開、閉または強制開）も表示されます。

アクセス要求の通知は一時的なものです。アクセス要求の通知を閉じると、このアクセス要求はシステムから消去されます。アクセス要求の通知が表示されているときに **XProtect Smart Client** を閉じると、再起動してもこのアクセス要求は復元されません。

アクセス要求がアクセス要求通知ウィンドウに重なって表示され、同じ通知ウィンドウからすべての受信したアクセス要求通知を処理することができます。別の場所に通知をドラッグすることができます。必要に応じて、アクセス要求通知ウィンドウを最小化して、機能をバックグラウンドで続行させることもできます。最小化した通知ウィンドウは点滅して、新しい通知があることを示します。


アクセス要求の通知機能

アクセス要求通知を示す関連するカメラにスピーカーまたはマイクを取り付けている場合、アクセス要求の通知により、入ろうとする人と会話することができます。

- アクセスを要求している人の話を聞くには、 ボタンをオンにします。
- 例えば、エリア内でどう進むか、またはどう行動するかの手配を与えるために、アクセスを要求している人に話しかけるには、 ボタンをクリックしたまま保持します。

聞く ボタンと **話す** ボタンの右側には、特定のアクションを実行するためのボタンがあります。最も標準的なアクションは、アクセスを要求する人のためにドアのロックを解除することですが、関連する出入口に近いエリアのライトをオンにすることもあります。

アクセスコントロールシステムが **XProtect** システムにカード所有者情報を提供している場合は、カード所有者情報を確認できます。カード所有者情報として、カード所有者の ID 番号、名前、所属部門、マネージャ、電話番号、アクセスレベルが挙げられます。

例えば、1 人だけでアクセス要求を処理すべきケースでは、アクセス要求の処理をオフにすることができます。**オプション** アイコン  をクリックして、**アクセスコントロール** を選択し、アクセス要求の通知をオフにします。後で再度アクセス要求の処理が必要になった場合、アクセス要求の通知をオンにします。

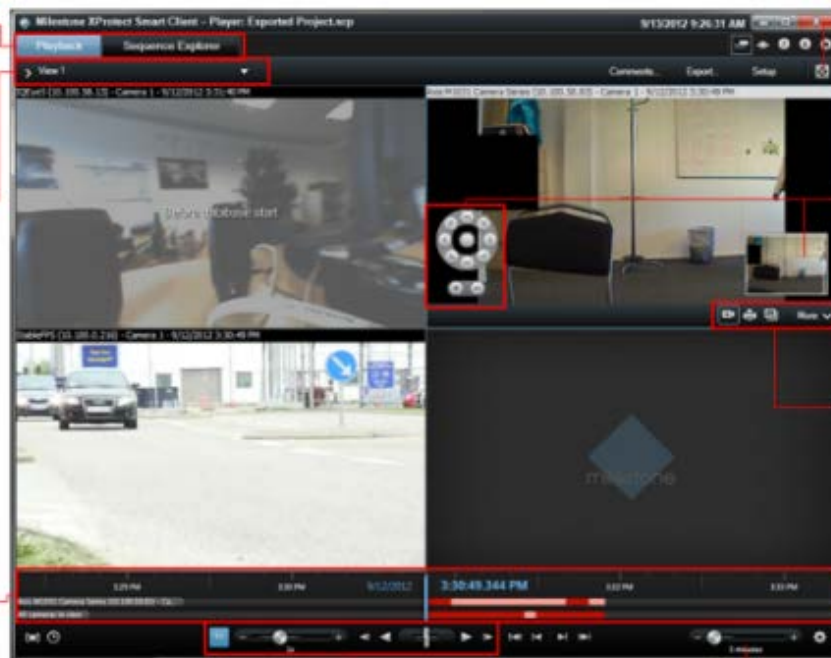
XProtect Smart Client – Player

XProtect Smart Client – Player のバージョン情報

XProtect Smart Client – Player は、エクスポートされたビデオデータに含まれるバージョンの XProtect Smart Client であり、受信者は監視ソフトウェアをインストールしなくてもエクスポートされたファイルを表示できます。録画されたディスクが取り出された場合の記録の可用性を確保するために、XProtect Smart Client – Player もビデオアーカイブと記録データベースフォルダに自動的に含まれます。XProtect Smart Client – Player を使用してビデオを再生、アーカイブし、壊れたデータベースを修復できます。このアプリケーションには、XProtect Smart Client の多くの機能があり、外観も似ています。

XProtect Smart Client – Player クイックガイド

再生/シー
ケンスエク
スプロラ
『21ペ
ージ』
現在のビ
ュー『21ペ
ージ』



フル画面
『22ペ
ージ』

ズーム『22
ページ』

画像のコピ
ー/印刷
『22ペ
ージ』

タイムライ
ン『21ペ
ージ』

再生『22ペ
ージ』

タイムライン
パンの変更『22
ページ』

XProtect Smart Client – Player のビューの操作

XProtect Smart Client – Player のツールバーにある設定をクリックして、ビューを作成、管理します。

プロジェクトペイン


XProtect Smart Client – Player のプロジェクトは、ビデオを XProtect Smart Client からデータベースフォーマットでエクスポートした時に作成されるファイルの集合です。

- **設定**をクリックして、ビューやアプリケーションの設定を変更し、変更をプロジェクトに保存します。

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、プロジェクトの一部として保存されます。

パスワード

たとえば、権限を持つユーザーしかビデオを表示できないように、プロジェクトにはパスワードを割り当てることができます。また、エクスポートする際に、デバイスにパスワードを割り当てすることもできます。複数のデータベースのパスワード管理の手間を避けるために、プロジェクト全体に単一のパスワードを割り当てることができます。全体用パスワードを割り当てていなくて、パスワード保護されたデータベースがプロジェクトに追加されると、プロジェクトを開く際に各データベースに対するパスワードを入力するよう求められます。プロジェクトにパスワードを割り当てると、削除することはできません。ただし、**プロジェクトペイン**でパスワードを変更したり、新しい同内容のプロジェクトを作成することができます。




- **新しいプロジェクト**をクリックしてから、**データベースを開く**  をクリックし、**データベースを開く** ウィザードを起動して、該当するデバイスを追加します。

ビューペイン

ビューペインで、ビューを追加、作成、編集、削除することができます。ビューで可能な操作の詳細については、ビュー 『39ページの"ビューについて"参照』を参照してください。

概要ペイン


概要ペインには、カメラ、マイク、スピーカー、HTML、画像、および XProtect Transact などのプロジェクトに割り当てられたその他のプラグインが表示されます。

- **データベースを開く**  をクリックして、**データベースを開く** ウィザードを開きます。**名前の変更**  または **削除**  をクリックして、デバイスの名前を変更したり、プロジェクトからデバイスを削除することができます。


デバイスを削除しても、デバイスに関連付けられている実際のデータベースファイルが削除されるのではなく、プロジェクトから削除されるだけです。

音声のリンク

音声をデバイスにリンクできます。

- **音声をカメラにリンクする**  をクリックして、特定のカメラで録画したビデオを表示する時に、関連する音声を自動的に選択することができます。

データベースを開くウィザード

データベースを開くウィザードにより、アーカイブまたは以前にエクスポートした素材からデータベースを開くことができます。たとえば、アーカイブされたデータベースまたは以前エクスポートした素材を表示する際に、このウィザードを使用して、データベースを開き、プロジェクトに追加することができます。また、データベースを開くウィザードは、壊れたデータベースを自動的に修復します。データベースを開くウィザードを起動するには、XProtect Smart Client のツールバーで、[設定]をクリックし、概要ペインで、[データベースを開く]をクリックします。 

警告：ライブのデータベースまたはライブのアーカイブを開かないでください。システムが破損する

可能性があります。

関連するファイルを含むフォルダを選択します。データベースを選択すると、**カメラ**、**マイク**、または**スピーカー**フィールドの横にデバイス名が表示されます。システムがカメラを認識しない場合、たとえば、アーカイブされた録画を開いて、名前が**不明**である場合は、**3種類**のデバイスすべてが不明デバイスとして（デバイスが存在しない場合も）データベースのファイル名が割り当てられて追加されます。デバイスがない場合、フィールドには**該当なし**と表示されます。

また、データベースに署名が含まれているかどうかを確認することも可能です。プロジェクトに追加する時に、データベースを検証できます(以下のセクションを参照)。

開こうとしているデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復することができます。

署名の確認

表示しているエクスポートした素材に署名が割り当てられている場合、これを手動で確認することができます。

1. XProtect Smart Client – Player のツールバーで、**署名の確認**ボタンをクリックして**手動検証**ウィンドウを開きます。ここでデバイスを表示し、レコーディングサーバー上で、またはエクスポート処理後、**変更(改変)**されていないか確認することができます。データベースは、**確認済み**、部分的に**確認済み**(一部のファイルに署名がない)、または**署名なし**のいずれかになります。
2. **確認**をクリックして、確認処理を開始すると、すべてのファイルがチェックされ、確認されます。

エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の**2つ**のシナリオがあります。

- プライバシーマスクが追加されると、レコーディングサーバーの電子署名はエクスポートに含まれません。
- エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。

エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的に**OK**になっていることが分かります。

スクリプト

※本機は、スクリプトには対応していません。

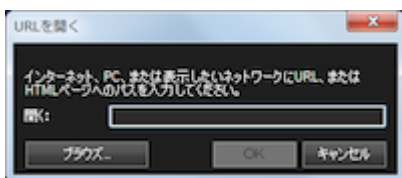
スクリプト

システム管理者や上級ユーザーは、XProtect Smart Client で関数呼び出しを作成することができます。スクリプトを使用するには、プログラミングに関する知識が必要です。

関数呼び出しのリストを表示する

XProtect Smart Client で使用できる 100 を超える関数呼び出しのリストを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 設定モードで、システム概要ペインの **HTML** ページリンクをビューの位置へドラッグします。
ヒント：リスト内容の概要の表示を最適化するために、できるだけ「1 つずつ」ビューを使用してください。



2. **URL** を開くウィンドウの開くに、「**about:script**」と入力し、**OK** をクリックします。

これで、関数呼び出しのリストが表示されます。それぞれの関数呼び出しと、その用途の簡単な説明がリストに表示されます。このリストから直接、多くの関数呼び出しを試すことができます。

起動スクリプト

スクリプトを使用して、XProtect Smart Client ログイン手続きの一部またはすべてを制御することができます。

例：

- **基本認証**または **Windows 認証**を使用している場合、XProtect Smart Client ログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- **Windows 認証 (現行ユーザー)**を使用している場合、ユーザーの現在の Windows ログインに基づいて XProtect Smart Client を監視システムに自動的に接続できます。

認証方法によっては、XProtect Smart Client ユーザーが特定の Milestone 監視システムへログインしていなければ使用できないものがあります。

パラメータ

次のパラメータを使用できます。

ServerAddress

XProtect Smart Client が接続するサーバーの URL を参照します(XProtect Corporate システムに接続する場合は、これは Management Server の URL であり、XProtect Enterprise、XProtect Professional、XProtect Express、または XProtect Essential システムに接続する場合は、これは Image Server の URL です)。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver` と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver"
```

XProtect Smart Client のデフォルト認証タイプは **Windows 認証(現行ユーザー)**です。これを変更しない限り、**AuthenticationType** パラメータ(以下のセクションで説明)を使用すると、ログインウィンドウのユーザー名フィールドに現在の Windows ユーザーの名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、ユーザー名フィールドに `Tommy` と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName "Tommy"
```

このパラメータは、**Windows 認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType** パラメータを使って指定します。

パスワード

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、ユーザー名フィールドに `Tommy`、パスワードフィールドに `T0mMy5Pa55w0rD` と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress=http://ourserver  
-UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD"
```

このパラメータは、**Windows 認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType** パラメータを使って指定します。

AuthenticationType

XProtect Smart Client で使用できる 3 つの認証方法、**Windows 認証 (現行ユーザー)** (起動スクリプトでは **WindowsDefault** と呼ばれる)、**Windows 認証** (起動スクリプトでは **Windows** と呼ばれる)、または**基本認証** (起動スクリプトでは **Simple** と呼ばれる) のうち 1 つを指します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、認証フィールドに基本認証、ユーザー名フィールドに `Tommy`、パスワードフィールドに `T0mMy5Pa55w0rD` (アスタリスクでマスキング) と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress=http://ourserver  
-UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD"  
-AuthenticationType Simple
```

Windows 認証を使用する場合、例は次のようになります：

```
Client.exe -ServerAddress=http://ourserver  
-UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD"  
-AuthenticationType Windows
```

Windows 認証 (現行ユーザー)を使用している場合、**UserName** パラメータと **Password** パラメータは不要となるため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress=http://ourserver  
-AuthenticationType WindowsDefault
```

Script

`.scs` スクリプト (XProtect Smart Client を制御するスクリプトタイプ) へのフルパスを指します。

次の例では、`.scs` スクリプトを使ってログインします。


```
Client.exe -Script=c:\¥startup.scs
```

現在の Windows ユーザーを使用して <http://ourserver> へログインする.scs は次のようになります。

```
<ScriptEngine>
  <ログイン>
    <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
    <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
  </Login>
</ScriptEngine>
```

XProtect Smart Client の関数呼び出しを使用して、.scs スクリプトへ機能を追加できます(関数呼び出しリストを表示する『143ページの"スクリプト"参照』を参照)。以下の例では、以前の例からの.scs スクリプトも XProtect Smart Client アプリケーションを最小化するように、行を追加しています。

```
<ScriptEngine>
  <ログイン>
    <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
    <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
  </Login>
  <Script>SCS.Application.Minimize();</Script>
</ScriptEngine>
```

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです。

```
{-,/,--}param{ ,=,:}((".' )value(",'))
```

例：

```
-UserName Tommy
--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'
```

用語集

1

16 進数

16 を基準とする数値システムで、16 の異なった記号を使用します。ここでは、マップビューの色ツールで色の微妙な差異を定義するために使用します。

A

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには.avi というファイル拡張子が付いています。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供する Windows の拡張機能。

F

FPS

秒当たりのフレーム数で、ビデオに含まれている情報量を示す単位です。各フレームは 1 つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することでモーションを見ているように見えます。FPS の値が高いほど、より滑らかなモーションになります。ただし、FPS が高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP

画像のグループの意味で、個別のフレームをグループ化し、ビデオモーションのシーケンスを形成します。

H

H.264

デジタルビデオ圧縮の標準です。MPEG 『147 ページ』などの標準は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレームは変化したピクセルだけを記録します。大規模圧縮と併用すれば、H.264 フォーマットのビデオサイズが大幅に縮小できます。ただし H.264 の大規模圧縮では、データ通信に使用するデバイスで大量のリソースを使用します。たとえば、Smart Client を実行しているコンピュータでは、監視システムから受信した H.264 ビデオを解凍するために、大量のリソースを使用できる必要があります。

HTML

ハイパーテキストマークアップ言語の略で、Web ページの作成で一般に使用されるフォーマット。

HTML ページ

Web ページなど、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML 『146 ページ』) を使って作成した文書。組織の Web サイトなどの HTML ページを Smart Client ビュー 『149 ページ』に表示できます。

HTTP

HyperText Transfer Protocol の略で、インターネット上でファイルを交換するための規格。HTTP は、WWW (ワールドワイドウェブ) 上でのデータ形式の規定と転送に使用される標準規格です。

I

I/O

入力/出力の省略語。

IP

インターネットプロトコルの意味で、ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するフォーマットとアドレススキームを規定するプロトコル (標準) です。IP は、多くの場

合、別のプロトコルである TCP (Transmission Control Protocol) と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の 2 つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスを接続するためにも使用します。

IPIX

360°のパノラマ画像を作成、表示できるテクノロジーです。

IP アドレス

インターネットプロトコルアドレスの略で、ネットワーク上のコンピュータやデバイスを識別するために使用します。データトラフィックを指定した宛先へ転送するために TCP/IP プロトコルで使用します。IP アドレスには、0 から 256 までの数字が 4 つ並んでおり、ピリオドで区切られています(例： 192.168.212.2)。

I-フレーム

インターフレームの省略語。デジタルビデオ圧縮のための MPEG 『147ページ』標準で使用されます。I フレームは指定された間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。I フレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG

画像圧縮方法の 1 つで、JPG または Joint Photographic Experts Group と呼ばれます。この方法はいわゆる不可逆の圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時に失われることを意味します。この方法で圧縮した画像は、通常 JPG または JPEG と呼ばれます。

JPG

JPEG を参照してください。

M

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレスの意味で、ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 文字の 16 進数です。

Matrix

特定の監視システムに組み込まれている製品で、分散表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でのライブカメラビューを制御できます。Matrix でトリガされたビデオを見ることができるコンピュータを、通常 Matrix 受信コンピュータ 『147ページ』と呼びます。

Matrix 受信コンピュータ

Matrix でトリガされたビデオを再生することができるコンピュータ。

MPEG

Moving Pictures Experts Group (MPEG) によって開発された、デジタルビデオの圧縮標準とファイルフォーマットの集合。MPEG 標準は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレームは変化したピクセルだけを記録します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

P

PTZ

パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れたカメラです。

P フレーム

predictive frame の略語。デジタルビデオ圧縮の MPEG 『147ページ』標準で、P フレームと I フレーム 『147ページの"I-フレーム"参照』を使用します。I フレームはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

S

SCS

Smart Client のコントロールを目的とする種類のスクリプトに使用されるファイル拡張子 (.scs) です。

SMS

システム管理サーバーの略語で、システム管理者がローカルネットワーク上にハードウェアとソフトウェアのデータベースを構築できる Microsoft のツールです。このデータベースを使ってさまざまな操作を実行できますがその1つとして、ソフトウェアアプリケーションをローカルネットワークに渡って配布しインストールすることができます。

T

TCP

Transmission Control Protocol の略で、ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル(標準)です。TCP は、多くの場合、別のプロトコルである IP (Internet Protocol) と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の2つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスを接続するためにも使用します。

TCP/IP

Transmission Control Protocol / Internet Protocol の略で、インターネットを含むネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル(標準)の組み合わせです。

Transact

監視システムのアドオンとして使用できる製品です。Transact を使って、ビデオと時間にリンクされている PoS または ATM トランザクションのデータを組み合わせることができます。

U

URL

Uniform Resource Locator の略語で、ワールドワイドウェブ上のリソースのアドレス。URL の最初の部分はリソースへアクセスするためのプロトコル(データ通信標準)を指定し、2 つめの部分はそのリソースが置かれているドメインまたは IP アドレスを示しています。例：
<http://www.myorganization.org>

V

VMD

ビデオモーション検知の略。IP ビデオ監視システムでは、多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が開始されます。そのため、不必要な録画を防ぐことができます。ビデオの録画は、その他のイベントや時間スケジュールによって開始することもできます。

X

X 軸

座標系の水平軸。

Y

Y 軸

座標系の垂直軸。

Z

Z 軸

座標系の空間軸。ジョイスティックを使用している場合、通常、Z 軸は深さ(ズーム)レベルを示します。

アーカイブ

カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所への自動的に録画を転送します。これにより、保存できる録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最大サイズによる制限を受けません。またアーカイブによって、任意のバックアップメディアに録画データを保存することもできます。

アラーム

Smart Client でアラームをトリガするように監視システムで定義したインシデント。組織でこの機能を使用している場合、トリガされたアラームは、アラームのリストまたはマップを含んでいるビューで表示されます。

イベント

監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基に監視システムはアクションをトリガします。監視システムの設定によっては、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによって、イベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントの発生は、特定のフレームレートでカメラを録画したり、出力を開始したり、Eメールの送信や操作の組み合わせなどからトリガするよう設定できます。

オーバーレイボタン

ライブタブのビューの個別のカメラ位置にマウスカーソルを移動させた時に、ビデオにレイヤーとして表示されるボタンです。オーバーレイボタンを使用して、スピーカー、イベント、出力を起動し、PTZ 『147ページ』カメラを動かし、録画を開始し、カメラからシグナルを消去することができます。

カメラナビゲータ

たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、すべてのカメラの相対位置を表示確認することができる Smart Client の機能です。カメラナビゲータを使用して、1つのビューで、1つのカメラから次のカメラに移動することができます。

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の標準(MPEG 『147ページ』など)で使用されます。キーフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレームは変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームはIフレーム 『147ページの"I-フレーム"参照』と類似しています。

コーデック

エクスポートされた AVI 『146ページ』ファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍するテクノロジー。

シーケンスエクスプローラ

Smart Client の主要な機能です：シーケンスエクスプローラは、ビュー内の各カメラまたはすべてのカメラからの録画シーケンスを表わすサムネイル画像を一覧表示します。サムネイル画像をドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスでも簡単にアクセスでき、もっとも関係のあるシーケンスを特定して、すぐに再生できます。

スピーカー

Smart Client の文脈で：カメラデバイスに付いている拡声器を意味し、Smart Client ユーザーはカメラが実際に取り付けられている場所にいる人間に話すことができます。

デッドゾーン

デッドゾーンは、情報をシステムに送信するためのジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。ジョイスティックハンドルは、使用していない時は完全に垂直であるのが理想的ですが、多くの場合、少し傾いています。PTZ 『147ページ』カメラの制御にジョイスティックを使用していると、ジョイスティックが少しでも傾いていると PTZ カメラが動きます。このため、デッドゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があります。

ビュー

1つまたは複数のカメラからのビデオ群で、Smart Client で表示します。ビューには、HTML ページや静止画像など、カメラからのビデオ以外のコンテンツが含まれている場合もあります。ビューには、個人ビュー(作成したユーザーだけが見ることができる)と他のユーザーと共有できる共有ビューがあります。

ブックマーク

ビデオ録画の中の重要な時点であり、ユーザーやユーザーの同僚が後から簡単に見つけられるように、ある時点にマークを付け、オプショ

ンとして注記を付けることもできます。

プリセット

Smart Wall の各モニターのあらかじめ定義されたレイアウト(別名モニターウォールまたはビデオウォール)です。

フレームレート

モーションビデオに含まれている情報量を示す単位です。通常、FPS 『146ページ』(秒当たりのフレーム数)で計算します。

ペイン

Smart Client ウィンドウの左側にある、ボタン、フィールドなどの小さな集まりです。ペインの背景は明るい青色で、Smart Client 機能のほぼすべてにアクセスできます。表示されるペインは、使用している Smart Client の設定および実行しているタスクによって異なります。たとえば、**ライブタブ**でライブビデオを見ている場合と、**再生タブ**で録画されたビデオを見ている場合ではペインが異なります。

ポート

データトラフィックの論理的終点。ネットワークでは、データトラフィックの異なる種類ごとに異なるポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定する必要があります。ほぼすべてのポートは、通信に含まれるデータの種類の基に基づいて自動的に使用されます。TCP/IP ネットワークの場合、ポート番号は 0 から 65536 ですが、0 から 1024 までは特定用途のために予約されています。たとえば、ポート 80 は Web ページの表示に使用される HTTP トラフィック用です。

ホスト

TCP/IP ネットワークに接続されているコンピュータ。ホストには専用の IP アドレスがありますが、ネットワーク設定によっては、識別しやすくするために名前(ホスト名)が付いている場合があります。

ホスト名

ネットワーク上にある特定のコンピュータを識別する名前。ホスト名の方が、IP アドレス 『147ページ』よりも覚えやすいのが一般的で

す。

ホットスポット

Smart Client ビュー 『149ページ』で、拡大または高品質で表示されているカメラ画像の特定の位置。

マップ

1) ナビゲーションやステータス表示に、マップ、間取り図、写真などを使用する Smart Client の機能です。2) 実際のマップ、間取り図、写真などをビュー 『149ページ』で使用します。

モニター

Smart Wall の各モニター(別名モニターウォールまたはビデオウォール)です。

漢字

画面自動切替

Smart Client ビュー 『149ページ』で、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置です。

魚眼レンズ

360°のパノラマ画像を作成、表示できるレンズです。

共有ビュー

複数のユーザーが共有する Smart Client 『149ページの"ビュー"参照』ビューです。司令室や市の監視オペレータ、交通管理局などで広く使用されている壁面に取り付けた複数のモニター(別名モニターウォールまたはビデオウォール)を管理する、スマートウォール用のソリューションです。

個人ビュー

作成したユーザーだけが見ることのできる Smart Client ビュー 『149ページ』です。

縦横比

画像の高さと幅の関係

出力

コンピュータから外へ送られるデータです。IP 監視システムで、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイスを起動するために使用されます。

録画

IP ビデオ監視システムの場合、**記録**とはビデオを保存することを意味し、場合によってはカメラからの音声を監視システムのデータベースへ保存することも意味します。多くの IP 監視システムでは、カメラから受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーションが検知された、特定のイベントが発生した、あるいは特定の時刻になったなどの理由がある場合のみ開始されます。そのため、モーションが検知されなくなったり、他のイベントが発生しなくなってから一定時間後に録画は停止されます。元々**記録**は、録音／録画ボタンを押すまでビデオや音声をテープに保存できなかったアナログの世界の用語です。

索引

1

16 進数 - 147

A

AVI - 147, 150

D

DirectX - 147

DVD からのインストール - 12

F

FPS - 147, 151

G

GOP - 147

H

H.264 - 147

HTML - 147

HTML ページ - 147

HTML ページを使ったナビゲーション - 42,

97

HTTP - 147

I

I/O - 147

IP - 147

IPIX - 148

IP アドレス - 148, 151

I-フレーム - 148, 150

J

JPEG - 148

JPG - 148

M

MAC アドレス - 148

Matrix - 45, 46, 56, 84, 148

Matrix 受信コンピュータ - 148

Milestone Federated Architecture™ - 38

Milestone Interconnect からのデータの取得
- 19, 110, 111

MIP プラグイン - 12

MPEG - 147, 148, 150

P

PTZ - 35, 148, 150

PTZ および魚眼レンズ画像 - 27, 28, 32, 49,
103

PTZ パトロールの停止 - 105

PTZ プリセットの選択 - 103, 104

PTZ プリセットの編集 - 20, 105

PTZ プリセットを作成 - 19, 32, 104

PTZ 画像 - 70, 81, 104

P フレーム - 148

S

SCS - 149

Smart Wall - 46, 77

Smart Wall からコンテンツを削除する - 81

Smart Wall からビューへビデオを送信する
- 79

Smart Wall のコンテンツの表示 - 77

Smart Wall モニターのレイアウトの変更 -
80

SMS - 149

T

TCP - 149

TCP/IP - 149

Transact - 149

U

URL - 149

V

VMD - 149

X

XProtect Smart Client – Player - 141

XProtect Smart Client - Player クイック
 ガイド - 141
 XProtect Smart Client - Player のバー
 ジョン情報 - 141
 XProtect Smart Client - Player のビュー
 の操作 - 141
 XProtect Smart Client オプション - 26, 55,
 56, 86, 104, 118
 XProtect Smart Client クイックガイド - 21
 XProtect Smart Client のインストール - 12
 XProtect Smart Client のウィンドウ - 24,
 47
 XProtect Smart Client の概要 - 23
 XProtect Smart Client の新機能 - 19
 XProtect フォーマットの設定 - 123, 127
 X 軸 - 149
 Y
 Y 軸 - 149
 Z
 Z 軸 - 149
 あ
 アーカイブ - 149
 アクセスコントロール - 137
 アクセスコントロールタブ - 138
 アクセスコントロールの統合について - 137
 アクセス要求の通知について - 140
 アプリケーションのオプション - 49, 87
 アプリケーションボタン - 24, 26, 32
 アラーム - 62, 117, 128, 149
 アラームについて - 128
 アラームのオプション - 94
 アラームのプレビュー - 128
 アラームの確認 - 134
 アラームの詳細の表示および編集 - 134
 アラームの操作 - 134
 アラームの無効化 - 135
 アラームの無視 - 135
 アラームマネージャタブ - 25, 128
 アラームリスト - 129
 アラームリストの設定 - 129, 130
 アラームレポートの表示 - 128, 135
 アラームをフィルターする - 131, 132, 135
 アラーム情報を記載したレポートの印刷 -
 135
 イベント - 56, 133, 150
 イベントおよびアラーム - 128
 インシデントの調査 - 109
 エクスポートウィンドウ - 122, 126
 エクスポートのオプション - 91
 エレメントとマップの関係 - 19, 61, 67
 オーバーレイボタン - 150
 お気に入りの魚眼レンズの位置の定義 - 103
 か
 カメラ - 47
 カメラツールバー - 32, 33, 35
 カメラナビゲータ - 74, 150
 カメラナビゲータについて - 74
 カメラナビゲータの設定 - 75
 カメラナビゲータをビューに追加する - 34,
 75
 カメラナビゲータを使用する - 75
 カメラの切り替え - 19, 46
 カメラを Smart Wall へドラッグする - 78

カメラ設定 - 27, 29, 34, 40, 48, 49, 75, 76,
82, 85, 88, 91
カメラ名と色のインジケータ - 48, 54, 65,
88
キーフレーム - 150
キーボードショートカットおよびオーバー
レイボタン - 34, 56
キーボードのオプション - 35, 93
キーボードのショートカット - 30, 35, 45,
46, 93
コーデック - 150
このマニュアルの対象ユーザー - 10
さ
サーバー - 131
サーバーステータスと内部接続されたハー
ドウェア取得ジョブ - 19, 26, 36, 112
シーケンス - 114
シーケンスエクスプローラ - 25, 28, 112,
150
シーケンスエクスプローラについて - 106,
112
シーケンスのナビゲート - 115
システムモニタータブ - 25, 37
ジョイスティックのオプション - 92, 104
ズーム - 21, 22, 141
ズームと自動最大化 - 73
スクリプト - 97, 98, 144, 146
ステータス可視化 - 63, 65
ステータス詳細の表示 - 73
スナップショットの作成 - 19, 32, 33, 35,
118
スピーカー - 150

スマートサーチペインを使用した検索 - 33,
118, 119

た

タイムライン - 19, 21, 24, 29, 33, 37, 108,
109, 115, 141
タイムラインスパンの変更 - 21, 22, 141
タイムラインのオプション - 91
タイムラインのブックマーク - 106, 111
タイムラインのボタンとコントロール - 109
タスクボタン - 24, 26
タブ - 24, 25, 32
ツールボックス - 66, 70
ディスプレイ間でビューを送信する - 19,
84
データベースを開くウィザード - 142
デジタルズーム - 101
デジタルズームについて - 101
デジタルズームの使用 - 28, 32, 35, 101
デッドゾーン - 150
トラブルシューティング - 15

な

ナビゲーションボタン - 111

は

バージョンおよびプラグイン情報の表示 -
23, 26
バージョン情報 Matrix - 85
バージョン情報 Smart Wall - 77
ビデオクリップ、音声、静止画像のエクスポ
ート - 19, 33, 126
ビデオの録画 - 28, 32, 35
ビュー - 13, 24, 25, 39, 56, 147, 150, 151
ビューから Smart Wall へビデオを送信する

- 79
- ビューグループの作成 - 44
- ビューに HTML ページを追加する - 41
- ビューに Matrix のコンテンツを追加する - 34, 86
- ビューに Smart Wall を追加する - 34, 78
- ビューにオーバーレイボタンを追加する - 43
- ビューにカメラを追加する - 34, 40, 45, 48
- ビューにコンテンツを追加する - 34, 40
- ビューについて - 39, 142
- ビューにホットスポットを追加する - 76
- ビューにマップを追加する - 34, 68, 75
- ビューに画面自動切替を追加する - 82
- ビューに静止画像を追加する - 42
- ビューのカメラを変更 - 19, 32, 33, 35, 45, 46
- ビューの作成 - 34, 44
- ビューの作成および管理 - 34, 43
- ビューの選択 - 29, 32, 33
- ビューの定義 - 39
- ビューへショートカット番号を割り当てる - 29, 45
- ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する - 44
- ビュー間でビデオを送信する - 32, 35, 45, 79
- フィルター - 131
- ブックマーク - 105, 114, 126, 150
- ブックマークウィンドウ - 106
- ブックマークについて - 90, 105, 114
- ブックマークの追加および編集 - 33, 107
- プライベートマスク - 40, 48, 107
- プリセット - 151
- フル画面 - 21, 22, 141
- フル画面表示 - 26, 30, 33, 87
- フレームレート - 151
- フレームレートの効果について - 52, 55
- ペイン - 24, 25, 151
- ペインのオプション - 29, 89
- ヘルプの表示 - 26, 30
- ポート - 151
- ホスト - 151
- ホスト名 - 151
- ホットスポット - 27, 32, 35, 45, 46, 56, 61, 76, 151
- ホットスポットについて - 76, 86
- ホットスポット設定 - 76
- ホットゾーンをマップに追加 - 70
- ま
- マップ - 42, 60, 132, 151
- マップからフロートウィンドウへカメラを送信 - 19, 68
- マップのエレメントの外観の変更 - 71
- マップのエレメントの追加と削除 - 69
- マップのカメラから録画されたビデオを表示 - 60, 70
- マップのテキストを追加/編集 - 72
- マップの概要 - 60
- マップの削除 - 69
- マップの操作 - 68
- マップの背景を変更する - 68

マップ概要ウィンドウ - 67
 マップ上でのラベルの編集と回転 - 72
 マップ上のアラーム - 132
 マップ設定 - 64, 72
 マルチウィンドウ - 15, 19, 24, 45, 59, 82
 メインウィンドウ - 24
 メディアプレイヤーのフォーマット設定 -
 124
 モニター - 151
や
 ユーザー権限によって、操作方法が決定され
 ます - 23
 よくある質問：エクスポート - 126
 よくある質問：カメラ - 56
 よくある質問：デジタルズーム - 102
 よくある質問：ビュー - 46
 よくある質問：マップ - 74
 よくある質問：マルチウィンドウ - 84
 よくある質問：音声 - 59
ら
 ライブタブ - 25, 27, 32
 ライブタブのアクセスコントロールについ
 て - 137
 ライブビデオについて - 27
 ログインウィンドウ - 13
 ログインおよびログアウト - 15
 ログインプロセス - 13, 26
漢字
 右クリックメニュー - 67
 音による通知 - 49, 56
 音声 - 27, 32, 57
 音声について - 57
 音声設定 - 57, 59
 仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバー
 レイボタン - 49
 画像のコピー／印刷 - 21, 22, 141
 画面自動切替 - 27, 32, 45, 46, 56, 81, 151
 画面自動切替について - 81, 86
 監視サーバーからのインストール - 12
 監視システムの別の特徴 - 14, 15, 17, 23,
 38, 39, 43, 46, 47, 49, 56, 57, 59, 60, 70,
 77, 84, 89, 90, 94, 104, 105, 114, 123, 127,
 128
 基本 - 32
 機能のオプション - 29, 90, 106, 107
 魚眼レンズ - 151
 魚眼レンズ画像 - 103
 共有ビュー - 151
 現在のビュー - 21, 141
 言語のオプション - 97
 個人ビュー - 151
 個人ビューと共有ビュー - 25, 39
 個別再生を使用する録画済みビデオの表示 -
 27, 32, 33, 35, 108
 再生 - 21, 22, 141
 再生／シーケンスエクスプローラ - 21, 141
 再生スピード - 111
 再生タブ - 25, 33
 再生ナビ - 28, 106, 109
 再生の日時 - 110
 再生ボタン - 111
 最低システム要件 - 12, 17
 時間間隔 - 114

時間選択 - 33, 110, 112, 126
時間幅 - 111
自動切替設定 - 82, 84
手動で **Matrix** の受信コンピュータにビデオ
を送信する - 86
手動でイベントをアクティブ化する - 133
手動での出力のアクティブ化 - 107
縦横比 - 151
出力 - 152
初めての使用 - 12
署名の確認 - 124, 143
証拠のエクスポート - 122
証拠を印刷する - 28, 33, 35, 101, 108, 116,
119
詳細オプション - 94
静止画像設定 - 125
接続失敗 - 131
設定(S) - 85
設定モード - 34
設定モードに入る - 26, 29, 32, 33, 34, 128,
130
相手と話す - 59
単一の画像のコピー - 30, 32, 35
著作権、商標、および免責条項 - 11
日付と時刻のナビゲーション - 110
表示 - 101
表示する内容の指定 - 113
録画 - 152
録画ビデオについて - 28, 33
録画検索ペインを使用した検索 - 33, 106,
118, 119

録画済みビデオの検索 - 33, 106, 118

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12